

(案)

参画と協働についての意識・行動調査

[市 民 / 市職員]

調査結果報告書

2014年（平成26年）3月

参画と協働についての意識・行動調査 [市 民／市職員]

調査結果報告書

目 次

調査の概要	1
1. 調査の目的	
2. 調査方法	
3. 調査内容	
調査結果の要約	3
調査結果	5
1. 住んでいる地域のこと [市民向け]	5
2. 市民参画協働に関わる行動や意向 [市民向け]	25
3. その他 [市民向け]	40
4. 協働に関わる業務経験など [市職員向け]	44
5. 市民参画協働の進め方 [市民・市職員共通]	51
6. 市民参画協働の達成状況 [市民・市職員共通]	65
7. 市民参画協働についての意見 [市民・市職員共通]	72
回答者の属性	76

芦屋市自治会連合会ブロック会一覧表
調査票

調査の概要

1. 調査の目的

芦屋市市民参画及び協働の条例に基づき、芦屋市の市政に市民が参画し、市民と市が協働して計画的に市政を進めていくために、第2次芦屋市市民参画協働推進計画を策定する。

このため、市民と市職員の参画と協働についての意識と行動を調査し、これを分析することによって、計画策定の参考資料とする。

2. 調査方法

調査対象：(市民) 20歳以上の市内居住者 2,000人 を無作為抽出

(市職員) 特別職・病院の医師や看護師等・嘱託職員・臨時的任用職員を除く 817人

配布・回収：(市民) 配付・回収とも郵送

(市職員) 各課に配付、市民参画課の連絡箱への投函で回収

調査期間：2014年(平成26年)1月27日(月)～2月18日(火)

(2月3日(月)に、お礼兼催告はがきを発送)

有効回収数：(市民) 970件 (回収率：48.5%)

(市職員) 527件 (回収率：64.5%)

集計結果について

○グラフ内の数字は特記のない限り、百分比(%)であり、小数点以下第2位を四捨五入して算出している。このため、百分比の合計値が100.0にならないことがある。複数回答の場合は、百分比の合計が100を超えることがある。

○グラフ内の「N」は、100%にあたる回答数(基数)である。

○「SA」は1つ選択する設問、「MA」はあてはまるものすべてを選択する設問、「ML3」はあてはまるもの3つ以内を選択する設問である。

○文中のポイントの数字は特記のない限り、小数点以下を四捨五入して算出している。

○基数が極端に小さい場合は、乖離が大きくても言及しない場合がある。

選択肢の表示について

○図表中ではスペースの都合上、選択肢の文言を簡略化して表示している場合がある。

3. 調査内容

民は市民向け設問、職は市職員向け設問

市民に向けた設問	回答者の属性	民問1 性別、民問2 年齢、民問3 居住地、民問4 市内居住年数、民問5 職業	
	①住んでいる地域のこと	民問6 地域への関心	
		民問7 隣近所とのつきあい	
		民問8 地域で気になっていること	
		民問9 地域活力向上のために必要なこと	
	②市民参画協働に関わる行動や意向	民問10 市民活動・地域活動についての経験や意向	
		民問11 参加経験のある分野	
		民問12 今後参加したい分野	
		民問13 市民活動などで負担になりそうなこと、負担に感じたこと	
	③その他	民問21 パブリックコメント制度の周知・意見提出状況	
		民問22 リードあしやの周知・利用状況	
	市職員に向けた設問	回答者の属性	職問1 性別、職問2 年齢、職問3 居住地、職問4 所属経験のある部
		④協働に関わる業務経験など	職問5 市民活動団体などとの協働経験の有無
職問6 協働の内容			
職問7 協働の成果			
職問8 成果の内容			
職問9 成果がなかった原因			
市民・市職員に向けた共通設問	⑤市民参画協働の進めかた	民問14/職問10 市民参画協働の必要性	
		民問15/職問11 市民参画協働が不必要と思う理由	
		民問16/職問12 市民参画協働が必要と思う理由	
		民問17/職問13 市民参画協働推進のために必要な取組み	
		民問18/職問14 人材が育つために必要な施策	
	⑥市民参画協働の達成状況	民問19/職問15 市民活動などが活発になるために必要な支援策	
		民問20/職問16 (1)市政に関する情報の提供状況 (2)市民参画協働に関する情報の提供状況 (3)団体や催しに関する情報の提供状況 (4)学習機会の提供状況 (5)人材育成の状況 (6)市民が意見を伝える機会の状況 (7)市民活動などに取り組む場の状況 (8)地域課題解決に取り組む機会の状況	
		⑦市民参画協働についての意見	民問23/職問17

調査結果の要約

住んでいる地域のこと【市民向け】 図問6～9

地域内のできごとや動きへの関心について、ある程度関心を持つ市民は80%。近所つきあいで「あいさつをする程度」が53%で最も多い。

地域で気になることとして、治安・防犯、衛生環境、交通安全、災害への備えなどが上位を占めている。

活力があり安心して暮らせる地域にするために必要なこととして「住民一人ひとりが地域に対する関心を高めること」「地域の細やかな情報をもっと提供されること」が多く、いずれも約半数を占める。

市民参加協働に関わる行動や意向【市民向け】 図問10～13

市民活動・地域活動への参加経験では〈現在参加中〉〈以前に参加〉〈参加経験なし〉の割合は、およそ1：2：7。今後の意向として〈参加したい〉〈参加したくない〉の割合は、およそ6：4である。

活動している、または過去に活動したことのある分野では「まつりなどの交流行事」「公園や道路の清掃活動」「スポーツ・レクリエーション活動」が多く、今後活動したい分野では「スポーツ・レクリエーション活動」「防災活動」「まつりなどの交流行事」が多い。

「緑化や園芸活動」「防犯活動」などは活動を希望する割合のほうが実際の活動割合よりかなり多い。逆に「まつりなどの交流行事」「公園や道路の清掃活動」は実際の活動割合が活動を希望する割合をかなり上回っている。

市民活動・地域活動をおこなう上で負担を感じることは「時間をかなりとられること」が47%、「活動するための情報がとぼしいこと」が26%、「身体的な負担があること」が23%。

協働に関わる業務経験など【市職員向け】 図問5～9

協働した経験がある市職員は32%で、協働の内容は、事業の共同実施や共催、資金援助、活動場所の提供、事業の企画・立案などが多い。

協働の成果について、協働した経験がある市職員の80%が「成果があった」と回答している。成果の内容としては、市民ニーズに細やかに対応できたことと市民の意識啓発に貢献したことがいずれも約半数を占める。

市民参画協働の進めかた【市民・市職員共通】

民間 14～19 職問 10～15

市民参画協働の必要性について、必要だと考える市民は 63%、市職員は 69%。特に業務で協働の経験がある市職員では 88%が必要と考えている。**必要と思う理由**として、市民・市職員ともに「個別地域の課題解決や多様な市民ニーズに対応するため」が最も多く、ともに過半数である。

市民参画協働を推進するために必要なことの上位3項目は、市民では①市民が地域や社会への関心を高めること、②市政の情報をもっと発信すること、③市民と行政が情報の交換や共有をすること、の順である。また市職員ではこの順序が③①②となるが、上位3項目は共通している。

市民・職員がともに**市民参画協働への理解を深め、人材が育つために必要な施策**として、市民では①情報が手軽に手に入ること、②学習・研修の機会を充実すること、③具体的に关われる事業の機会を充実すること、が上位である。また市職員では①コーディネート力を身につけること、②具体的に关われる事業の機会を充実すること、③情報が手軽に手に入ること、となる。市民では情報が、市職員ではコーディネート力が最優先されている。

市民活動や地域活動の活発化に必要な支援策として、市民では①団体・行事などの情報提供を充実すること、②集会所等の施設を使いやすくすること、③助言・指導の機能を充実すること、が上位3項目である。市職員では①団体・行事などの情報提供を充実すること、②情報提供・相談機能を充実すること、③団体間の連携・協力関係を緊密にすること、であり、市民・市職員ともに、団体・行事などの情報提供が最重要視されている。

市民参画協働の達成状況【市民・市職員共通】

民間 20 職問 16

市民参画協働の達成状況では、8項目すべてにわたって、「おおむねできている」とする割合が市職員のほうが市民より高く、「できていない」とする割合は市民のほうが市職員より高い。

各選択肢に重みづけしてその合計値で比較すると、達成状況の評価の低い（得点の低い）ものは、低い順で、市民は(8)市民と市が協力し合って市内や地域の課題解決に取り組む機会が充分にある、(6)市の施策や施策案に対して、市民が意見を伝える機会が充分に開かれている、(5)市民活動や地域活動に取り組む人材が市民の間に育っている、となる。市職員では(5)市民活動や地域活動に取り組む人材が市民の間に育っている、(8)市民と市が協力し合って市内や地域の課題解決に取り組む機会が充分にある、(4)市民参画協働にかかわる講座などの学習機会が、市民に対して充分に提供されている、となる。協働によって課題を解決する力と市民人材を育成するという点で評価が厳しいことが、市民と市職員で共通している。

調査結果

1

住んでいる地域のこと【市民向け】

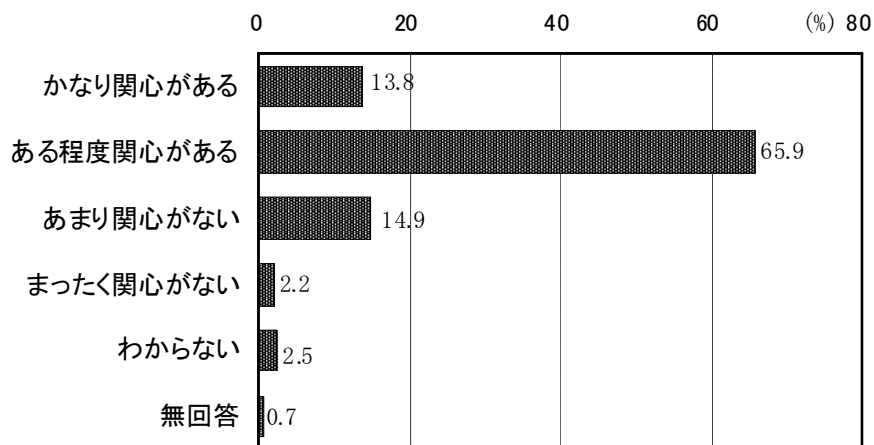
【質問6】 あなたは地域内のできごとや動きにどの程度関心をもっていますか。(○は1つ)

SA/N=970

全体

地域内のできごとや動きに対して、「ある程度関心がある」とする回答者は 65.9%でおよそ2/3を占めている。これに「あまり関心がない」(14.9%)、「かなり関心がある」(13.8%)が続く。

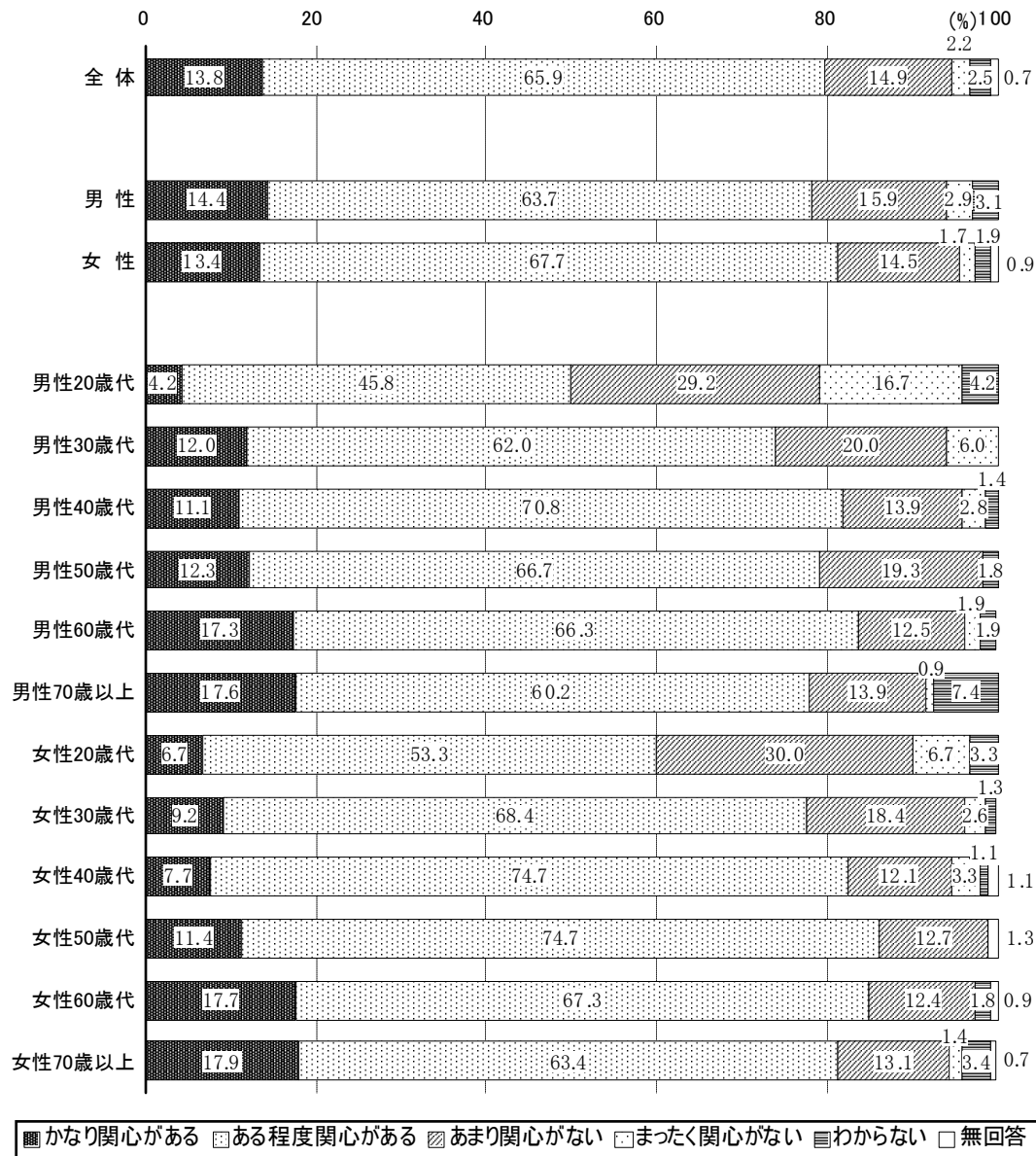
「かなり関心がある」の割合と「ある程度関心がある」の割合の合計値は 79.7%で、約8割の回答者が地域のことに関心を抱いている。



性・年齢別

「かなり関心がある」の割合は、男女ともに高齢層ほど高い傾向があり、男性70歳以上で17.6%、女性70歳以上で17.9%である。逆に男性20歳代では「あまり関心がない」が29.2%、「まったく関心がない」が16.7%と高い。女性20歳代でも「あまり関心がない」が30.0%となっており、若年層で関心が低い。

【性・年齢別】



ブロック別

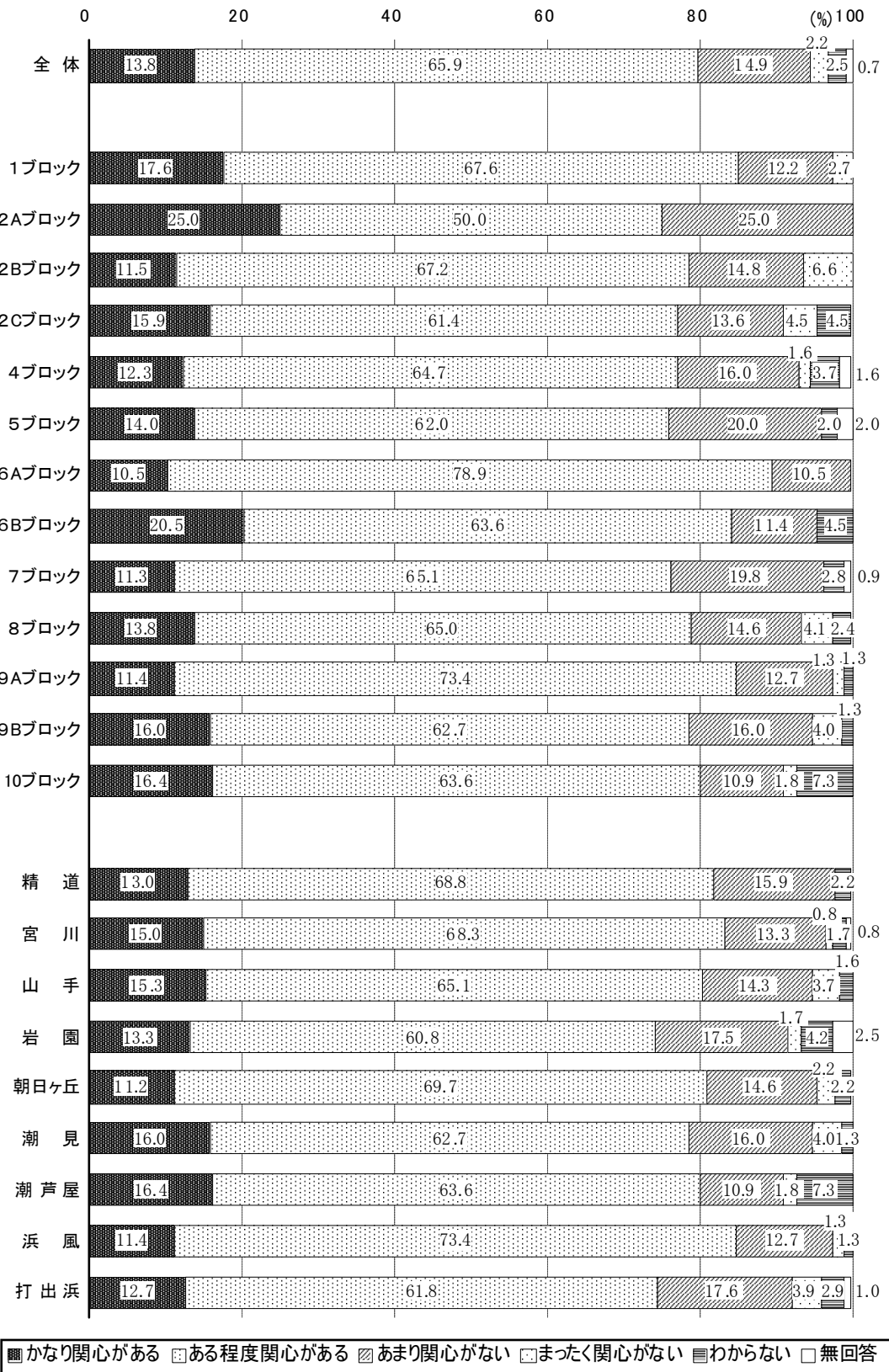
ブロック別で「かなり関心がある」の割合が最も高いのは2Aブロックの25.0%で、全体を11ポイント上回っている。これに6Bブロックの20.5%が続く。ただ2Aブロックでは「あまり関心がない」も25.0%と高く、意見が分散している。

小学校区別

小学校区別では、「かなり関心がある」の割合が高いのは、潮芦屋(16.4%)、潮見(16.0%)であるが、全体(13.8%)と大差はない。「あまり関心がない」の割合は打出浜(17.6%)と岩園(17.5%)で比較的高いが、これも全体(14.9%)と大差はない。

※ 以下、潮見校区については、このうちの潮芦屋を別建てとして表示している。

【ブロック別／小学校区別】

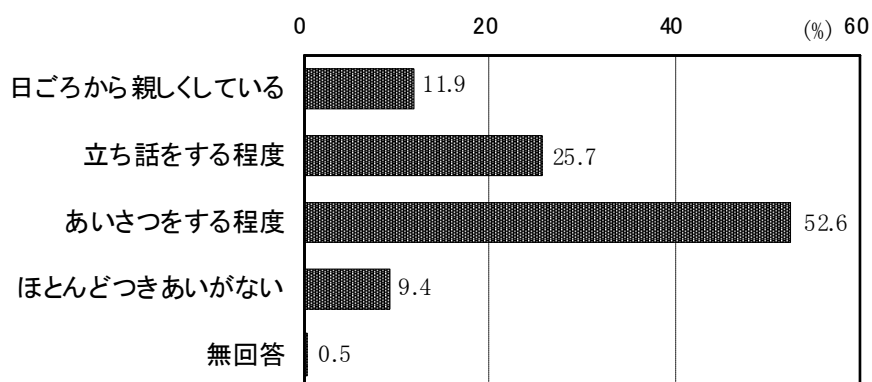


民間7 あなたは普段、隣近所とどの程度のおつきあいをしていますか。(○は1つ)

SA/N=970

全体

隣近所とのつきあいは「あいさつをする程度」(52.6%)が過半数となっている。これに「立ち話をする程度」(25.7%)、「日ごろから親しくしている」(11.9%)、「ほとんどつきあいが無い」(9.4%)と続く。

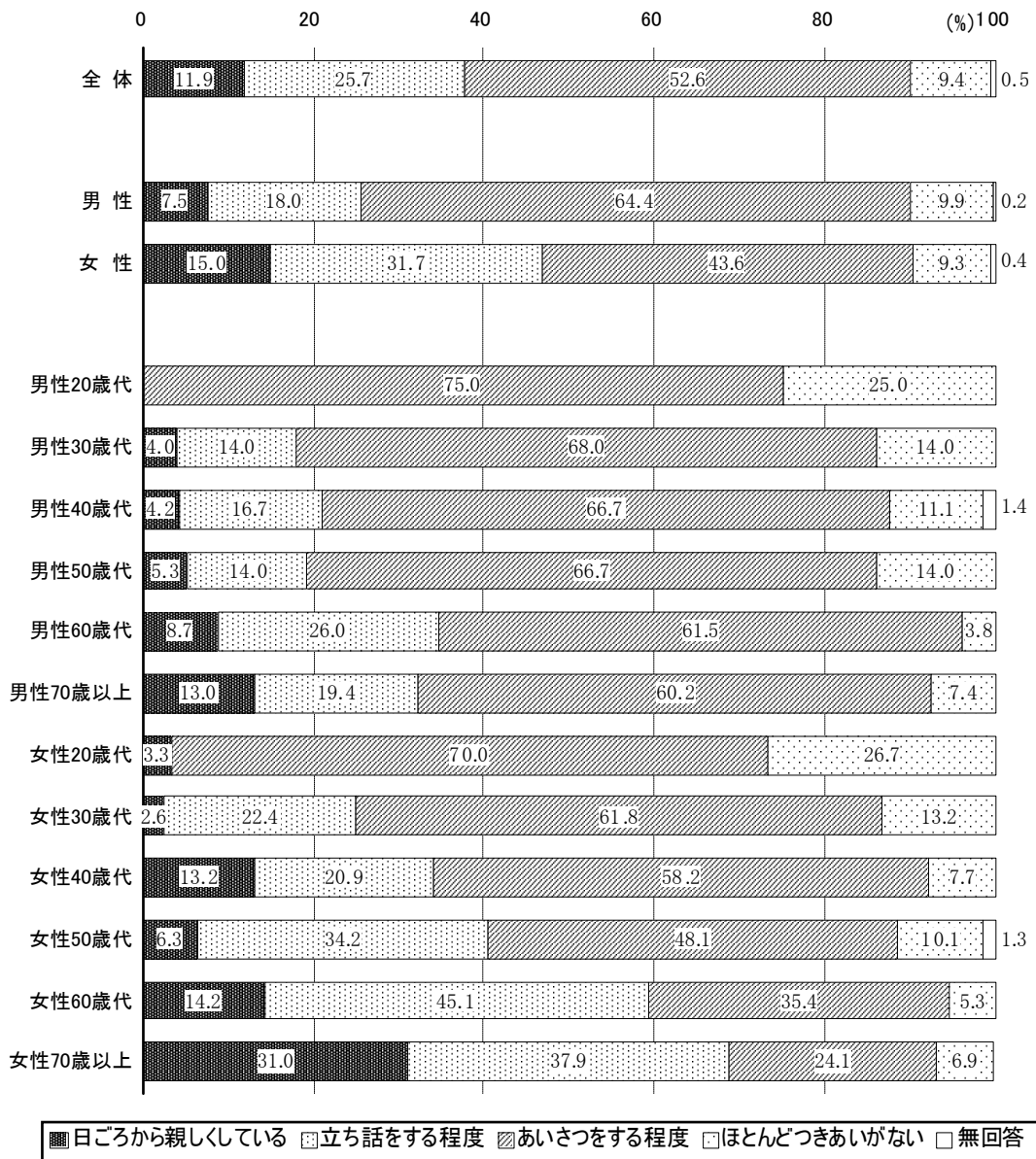


性・年齢別

「日ごろから親しくしている」の割合は、女性が15.0%で男性の7.5%の倍の割合となっている。

また「日ごろから親しくしている」とする回答者の割合は高齢層で高く、女性70歳以上では31.0%で最も高い。逆に「ほとんどつきあがない」とする割合は、女性20歳代で26.7%、男性20歳代で25.0%と若い層で高い。

【性・年齢別】



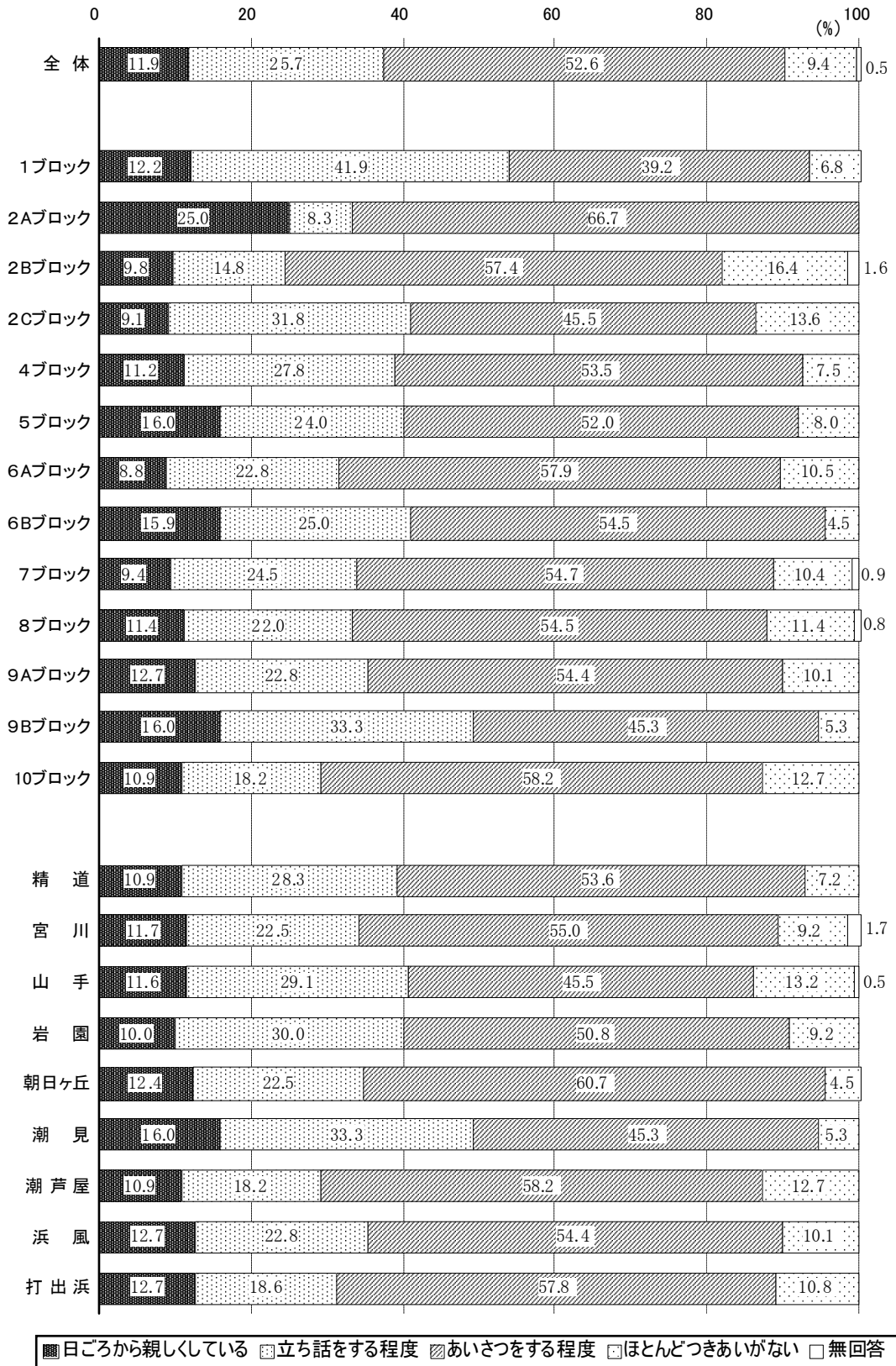
ブロック別

ブロック別では、2Aブロックで「日ごろから親しくしている」が25.0%と高い。「日ごろから親しくしている」の割合と「立ち話をする程度」の割合の合計値で見ると、1ブロックが54.1%、9Bブロックが49.3%で、全体(37.6%)をそれぞれ17ポイント、12ポイント上回っている。「ほとんどつきあいが無い」の割合は、2Bブロックが16.4%で最も高い。

小学校区別

小学校区別で「日ごろから親しくしている」の割合が最も高いのは潮見の16.0%で、これは全体の11.9%を4ポイント上回る程度であるが、潮見では「立ち話をする程度」の割合(33.3%)も最も高く、この合計値49.3%は全体を12ポイント上回る。

【ブロック別／小学校区別】

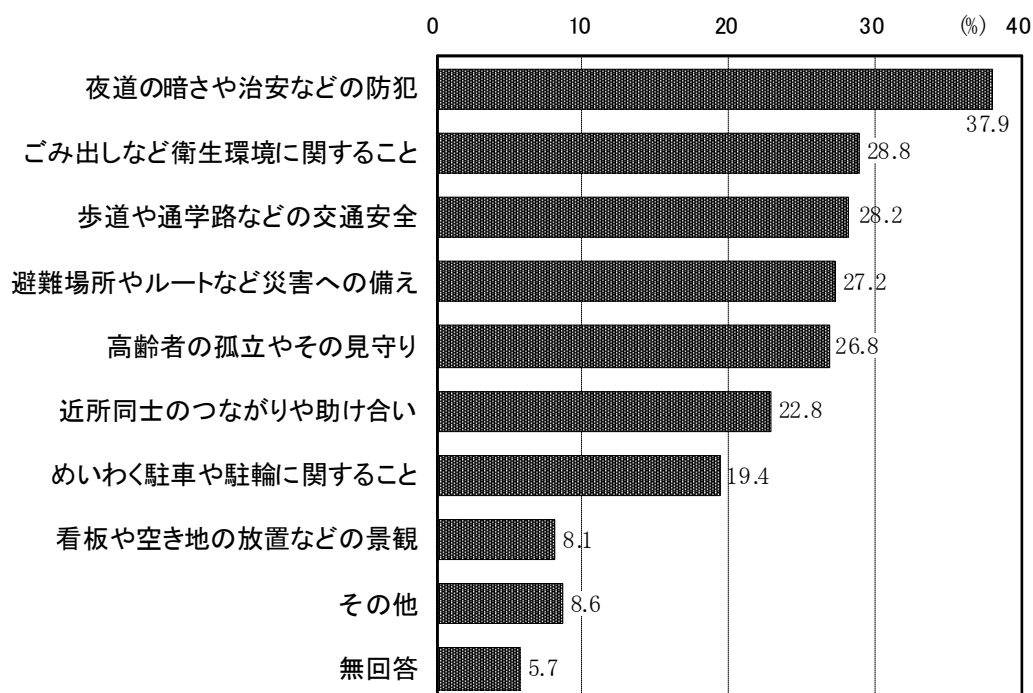


民間8 あなたが住んでいる地域で気になっていることがありますか。(〇は3つまで)

ML3/N=970

全 体

地域で気になることとして「夜道の暗さや治安など防犯に関すること」が37.9%で最も高い。以下、「ごみ出しやポイ捨てなど衛生環境に関すること」(28.8%)、「歩道や通学路など交通安全に関すること」(28.2%)、「避難場所やルートなど災害への備えに関すること」(27.2%)、「高齢者の孤立やその見守りに関すること」(26.8%)などが続く。これら上位5項目のうち3項目は生活上の安全に関わることである。



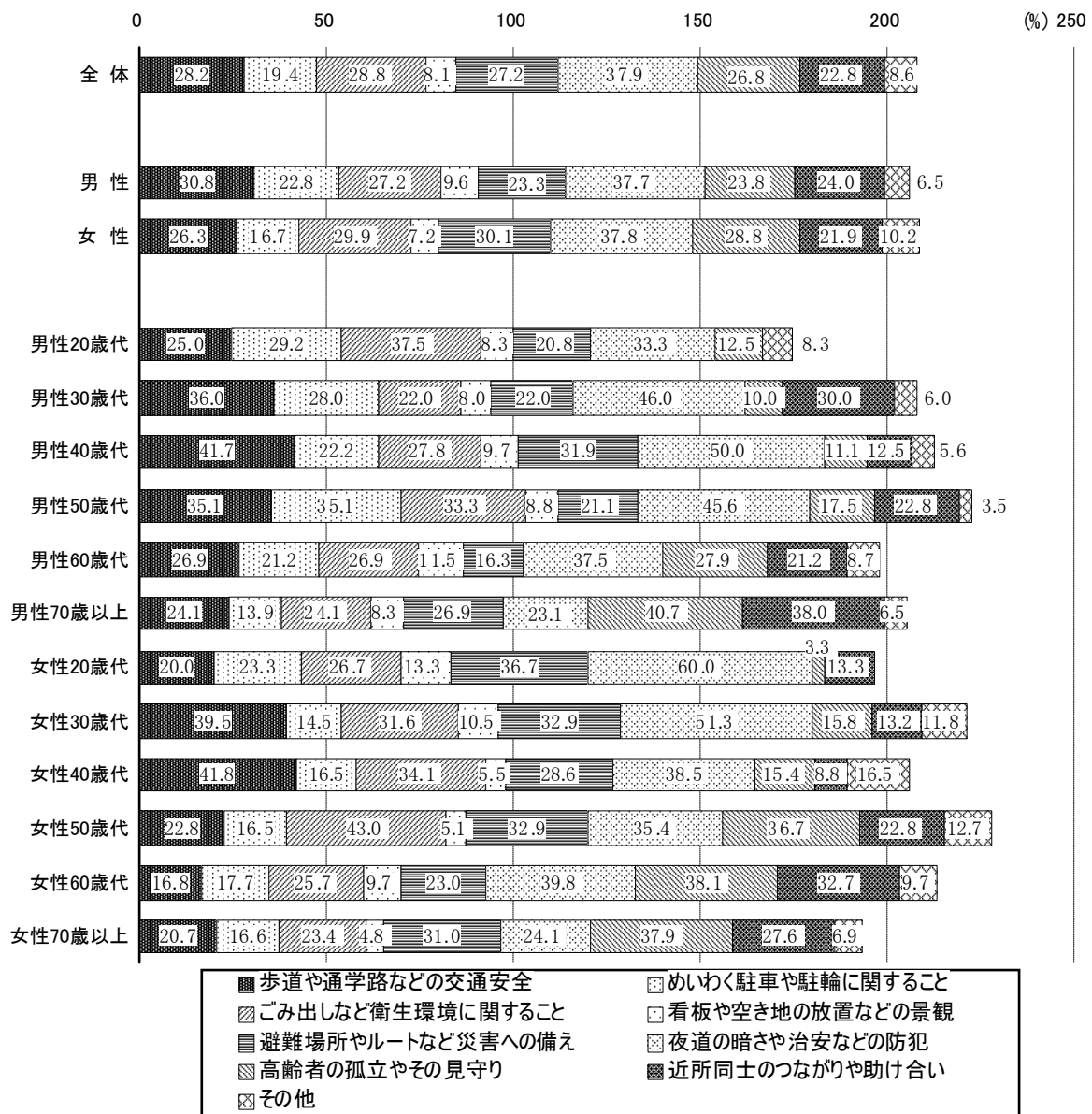
性・年齢別

「夜道の暗さや治安など防犯に関すること」は、女性 20 歳代・30 歳代で過半数となっている。「歩道や通学路など交通安全に関すること」は男性 40 歳代や女性 40 歳代・30 歳代で高い。

「避難場所やルートなど災害への備えに関すること」が第3位までに位置している属性をみると、女性 20 歳代・70 歳以上で第2位、男性 40 歳代・70 歳以上と女性 30 歳代で第3位となっており、女性や高齢層で災害に対する関心が高い。

男性の 60 歳代以上、女性の 50 歳代以上では、全体で第5位であった「高齢者の孤立やその見守りに関すること」が第1位または第2位となっている。また「近所同士のつながりや助け合いに関すること」は全体では 22.8%で第6位であったが、男性 30 歳代・70 歳以上、女性 50 歳代以上などの高齢層を中心として、第3位以内に位置している。

【性・年齢別】



【性・年齢別上位3項目】

網かけは、全体で第4位以下の項目

	第1位	第2位	第3位
男性	夜道の暗さや治安などの防犯	歩道や通学路などの交通安全	ごみ出しなど衛生環境に関すること
女性	夜道の暗さや治安などの防犯	避難場所やルートなど災害への備え	ごみ出しなど衛生環境に関すること
男性 20 歳代	ごみ出しなど衛生環境に関すること	夜道の暗さや治安などの防犯	めいわく駐車や駐輪に関すること
男性 30 歳代	夜道の暗さや治安などの防犯	歩道や通学路などの交通安全	近所同士のつながりや助け合い
男性 40 歳代	夜道の暗さや治安などの防犯	歩道や通学路などの交通安全	避難場所やルートなど災害への備え
男性 50 歳代	夜道の暗さや治安などの防犯	歩道や通学路などの交通安全	めいわく駐車や駐輪に関すること
男性 60 歳代	夜道の暗さや治安などの防犯	高齢者の孤立やその見守り	ごみ出しなど衛生環境に関すること ／歩道や通学路などの交通安全
男性 70 歳以上	高齢者の孤立やその見守り	近所同士のつながりや助け合い	避難場所やルートなど災害への備え
女性 20 歳代	夜道の暗さや治安などの防犯	避難場所やルートなど災害への備え	ごみ出しなど衛生環境に関すること
女性 30 歳代	夜道の暗さや治安などの防犯	歩道や通学路などの交通安全	避難場所やルートなど災害への備え
女性 40 歳代	歩道や通学路などの交通安全	夜道の暗さや治安などの防犯	ごみ出しなど衛生環境に関すること
女性 50 歳代	ごみ出しなど衛生環境に関すること	高齢者の孤立やその見守り	夜道の暗さや治安などの防犯
女性 60 歳代	夜道の暗さや治安などの防犯	高齢者の孤立やその見守り	近所同士のつながりや助け合い
女性 70 歳以上	高齢者の孤立やその見守り	避難場所やルートなど災害への備え	近所同士のつながりや助け合い

ブロック別

「夜道の暗さや治安など防犯に関すること」は、2A ブロックと 9B ブロックで全体を 10 ポイント以上上回っている。

全体で第4位の「避難場所やルートなど災害への備えに関すること」が第3位以内に位置しているのは、2A、6A、6B、7、8の各ブロックである。特に 6A ブロックでは 35.1%、8ブロックでは 35.0%と高い。

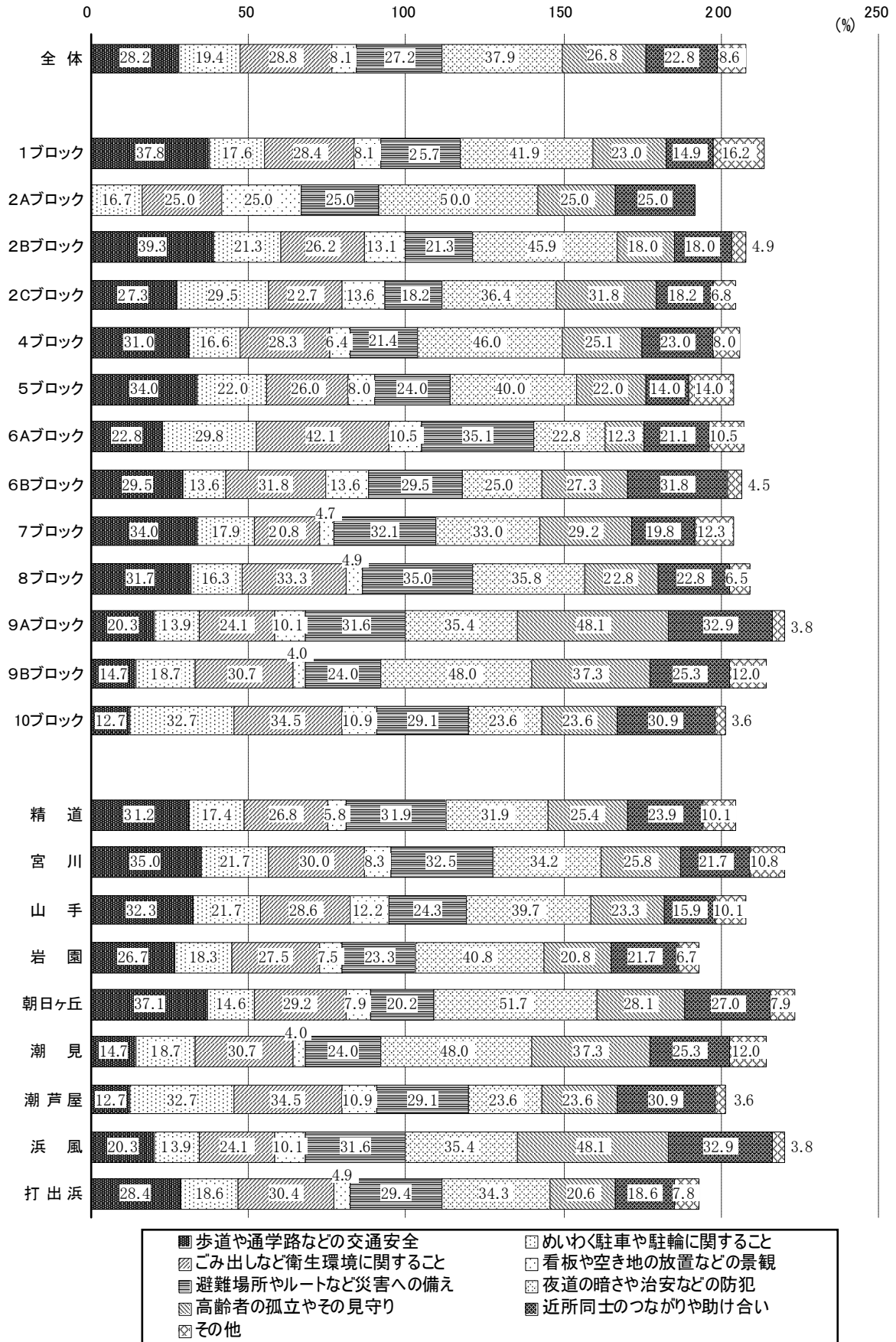
全体で第5位の「高齢者の孤立やその見守りに関すること」は、2A、2C、9A、9B の各ブロックで第1位または第2位となっている。最も高いのは 9A ブロックで 48.1%と全体を 21 ポイント上回っている。「近所同士のつながりや助け合いに関すること」は、6B ブロックで第1位、2A ブロックで第2位、9A ブロックと 10 ブロックで第3位となっている。10 ブロックでは「めいわく駐車や駐輪に関すること」が第2位となっている。

小学校区別

「夜道の暗さや治安など防犯に関すること」は、朝日ヶ丘、潮見で全体を 10 ポイント以上上回っている。

「避難場所やルートなど災害への備えに関すること」は、精道で第1位、宮川・打出浜で第3位となっている。「高齢者の孤立やその見守りに関すること」は、浜風で第1位、潮見で第2位となっている。「近所同士のつながりや助け合いに関すること」は、潮芦屋と浜風で第3位である。浜風では 32.9%と全体より 10 ポイント高い。潮芦屋では「めいわく駐車や駐輪に関すること」が 32.7%と高い。

【ブロック別／小学校区別】



【ブロック別／小学校区別上位3項目】

網かけは、全体で第4位以下の項目

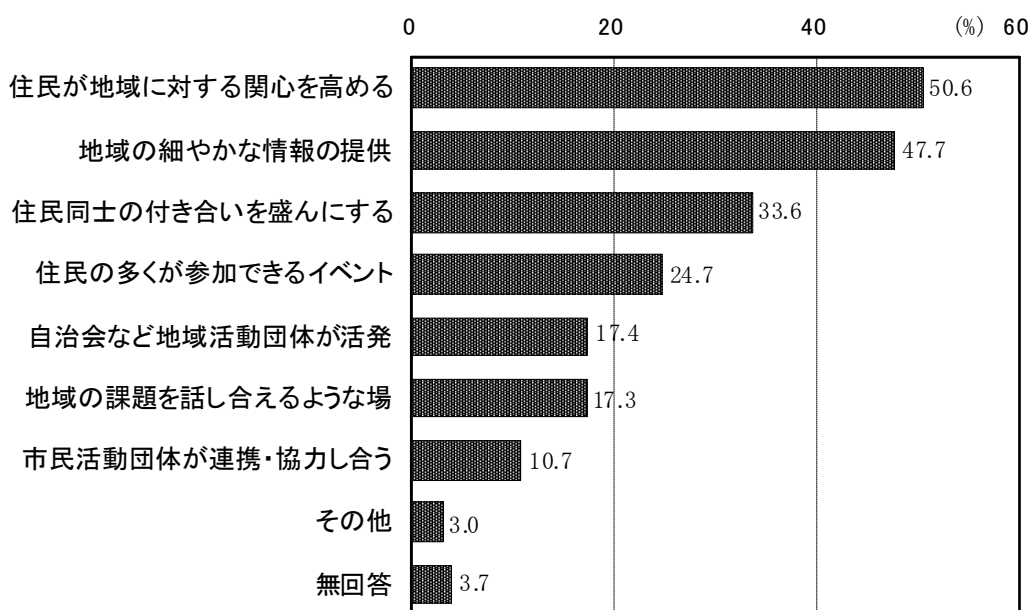
	第1位	第2位	第3位
1ブロック	夜道の暗さや治安などの防犯	歩道や通学路などの交通安全	ごみ出しなど衛生環境に関すること
2Aブロック	夜道の暗さや治安などの防犯	ごみ出しなど衛生環境に関すること／避難場所やルートなど災害への備え／高齢者の孤立やその見守り／近所同士のつながりや助け合い／看板や空き地の放置などの景観	
2Bブロック	夜道の暗さや治安などの防犯	歩道や通学路などの交通安全	ごみ出しなど衛生環境に関すること
2Cブロック	夜道の暗さや治安などの防犯	高齢者の孤立やその見守り	めいわく駐車や駐輪に関すること
4ブロック	夜道の暗さや治安などの防犯	歩道や通学路などの交通安全	ごみ出しなど衛生環境に関すること
5ブロック	夜道の暗さや治安などの防犯	歩道や通学路などの交通安全	ごみ出しなど衛生環境に関すること
6Aブロック	ごみ出しなど衛生環境に関すること	避難場所やルートなど災害への備え	めいわく駐車や駐輪に関すること
6Bブロック	ごみ出しなど衛生環境に関すること／近所同士のつながりや助け合い		歩道や通学路などの交通安全／避難場所やルートなど災害への備え
7ブロック	歩道や通学路などの交通安全	夜道の暗さや治安などの防犯	避難場所やルートなど災害への備え
8ブロック	夜道の暗さや治安などの防犯	避難場所やルートなど災害への備え	ごみ出しなど衛生環境に関すること
9Aブロック	高齢者の孤立やその見守り	夜道の暗さや治安などの防犯	近所同士のつながりや助け合い
9Bブロック	夜道の暗さや治安などの防犯	高齢者の孤立やその見守り	ごみ出しなど衛生環境に関すること
10ブロック	ごみ出しなど衛生環境に関すること	めいわく駐車や駐輪に関すること	近所同士のつながりや助け合い
精道	夜道の暗さや治安などの防犯／避難場所やルートなど災害への備え		歩道や通学路などの交通安全
宮川	歩道や通学路などの交通安全	夜道の暗さや治安などの防犯	避難場所やルートなど災害への備え
山手	夜道の暗さや治安などの防犯	歩道や通学路などの交通安全	ごみ出しなど衛生環境に関すること
岩園	夜道の暗さや治安などの防犯	ごみ出しなど衛生環境に関すること	歩道や通学路などの交通安全
朝日ヶ丘	夜道の暗さや治安などの防犯	歩道や通学路などの交通安全	ごみ出しなど衛生環境に関すること
潮見	夜道の暗さや治安などの防犯	高齢者の孤立やその見守り	ごみ出しなど衛生環境に関すること
潮芦屋	ごみ出しなど衛生環境に関すること	めいわく駐車や駐輪に関すること	近所同士のつながりや助け合い
浜風	高齢者の孤立やその見守り	夜道の暗さや治安などの防犯	近所同士のつながりや助け合い
打出浜	夜道の暗さや治安などの防犯	ごみ出しなど衛生環境に関すること	避難場所やルートなど災害への備え

民間9 住んでいる地域の活力が向上し、みんなが安心して暮らせるためには、あなたはどのようなことが必要だとお考えですか。(〇は3つまで)

ML3/N=970

全体

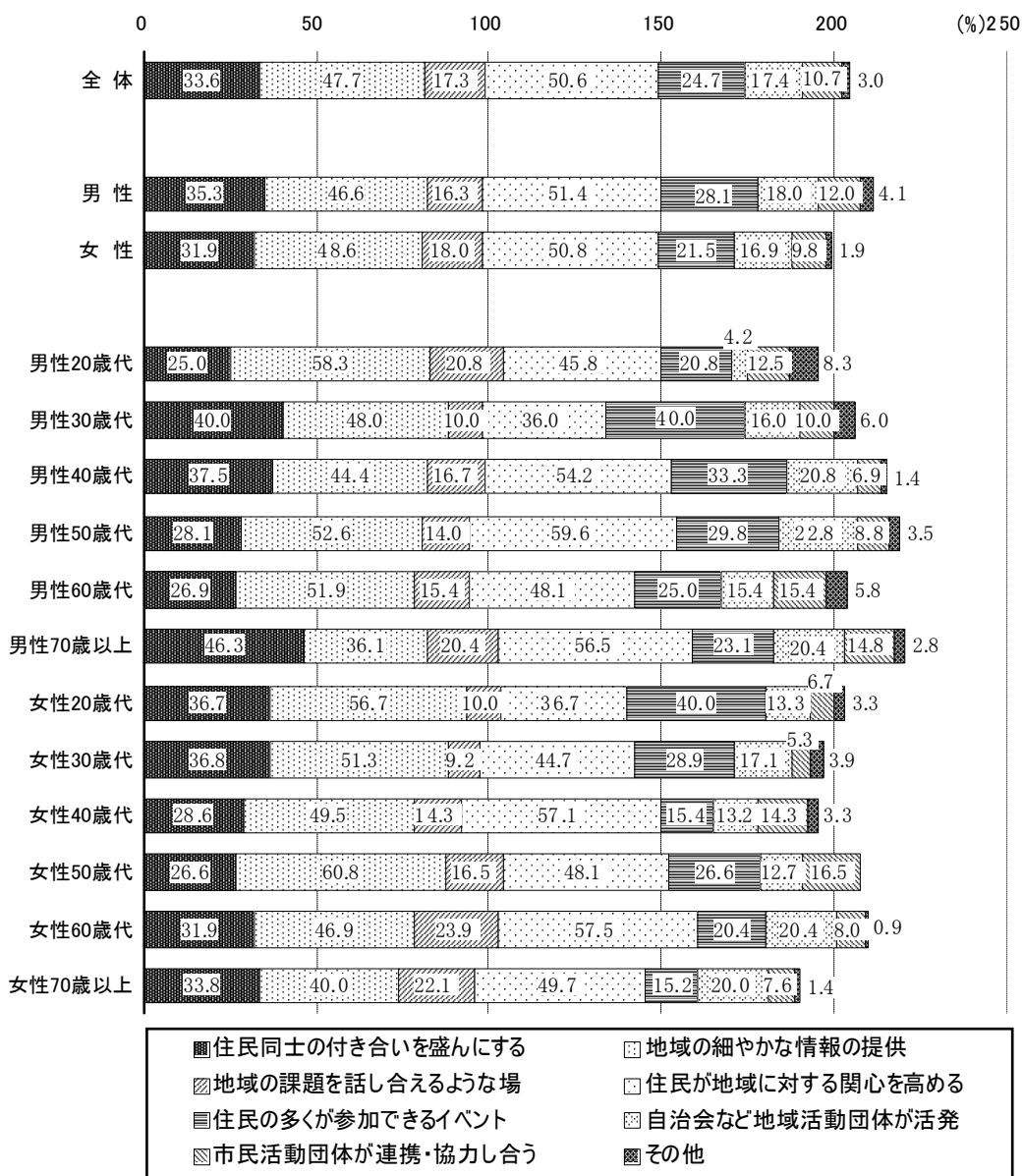
活力があり安心して暮らせる地域にするために必要なこととして「住民一人ひとりが地域に対する関心を高めること」(50.6%)と「地域の細やかな情報をもっと提供されること」(47.7%)が多くあげられ、いずれも約半数を占める。これに「住民同士の付き合いを盛んにすること」(33.6%)、「住民の多くが参加できるイベントが盛んになること」(24.7%)が続く。地域の情報をもとに、地域への関心を高め、イベントなどを通じた人と人とのコミュニケーションを深めていくことが重要であると考えられている。



性・年齢別

「住民一人ひとりが地域に対する関心を高めること」は、男性では50歳代、女性では60歳代で高い。「地域の細やかな情報をもっと提供されること」は、女性50歳代で高いほか、男性20歳代・女性20歳代の若い層でも全体を9～11ポイント上回っている。「住民の多くが参加できるイベントが盛んになること」は全体では第4位であるが、男性30歳代と女性20歳代では第2位となっているほか、男性50歳代と女性50歳代では第3位になっている

【性・年齢別】



【性・年齢別上位3項目】

網かけは、全体で第4位以下の項目

	第1位	第2位	第3位
男性	住民が地域に対する関心を高める	地域の細やかな情報の提供	住民同士の付き合いを盛んにする
女性	住民が地域に対する関心を高める	地域の細やかな情報の提供	住民同士の付き合いを盛んにする
男性 20 歳代	地域の細やかな情報の提供	住民が地域に対する関心を高める	住民同士の付き合いを盛んにする
男性 30 歳代	地域の細やかな情報の提供	住民同士の付き合いを盛んにする	住民の多くが参加できるイベント
男性 40 歳代	住民が地域に対する関心を高める	地域の細やかな情報の提供	住民同士の付き合いを盛んにする
男性 50 歳代	住民が地域に対する関心を高める	地域の細やかな情報の提供	住民の多くが参加できるイベント
男性 60 歳代	地域の細やかな情報の提供	住民が地域に対する関心を高める	住民同士の付き合いを盛んにする
男性 70 歳以上	住民が地域に対する関心を高める	住民同士の付き合いを盛んにする	地域の細やかな情報の提供
女性 20 歳代	地域の細やかな情報の提供	住民の多くが参加できるイベント	住民が地域に対する関心を高める/ 住民同士の付き合いを盛んにする
女性 30 歳代	地域の細やかな情報の提供	住民が地域に対する関心を高める	住民同士の付き合いを盛んにする
女性 40 歳代	住民が地域に対する関心を高める	地域の細やかな情報の提供	住民同士の付き合いを盛んにする
女性 50 歳代	地域の細やかな情報の提供	住民が地域に対する関心を高める	住民同士の付き合いを盛んにする/ 住民の多くが参加できるイベント
女性 60 歳代	住民が地域に対する関心を高める	地域の細やかな情報の提供	住民同士の付き合いを盛んにする
女性 70 歳以上	住民が地域に対する関心を高める	地域の細やかな情報の提供	住民同士の付き合いを盛んにする

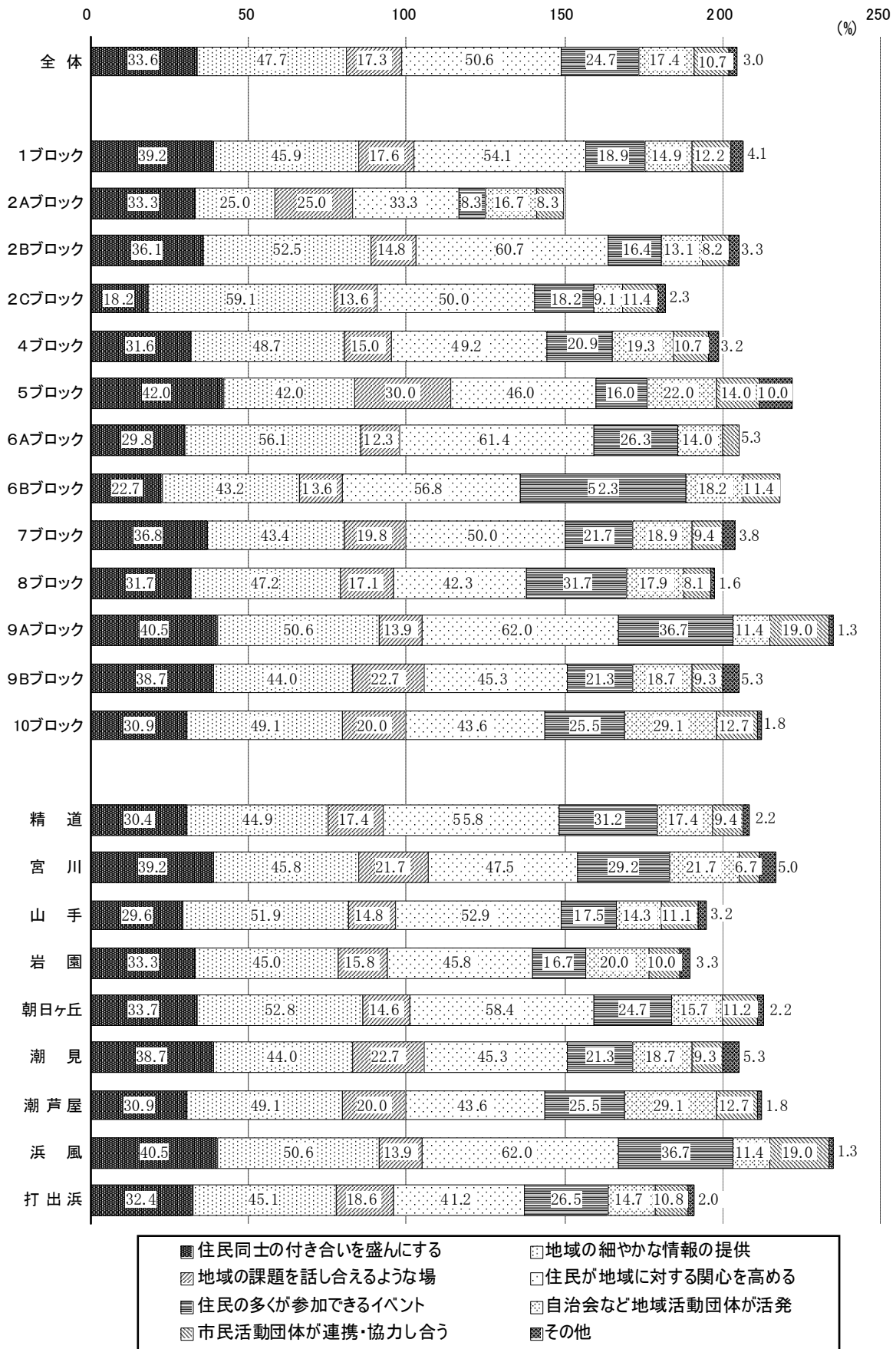
ブロック別

全体で第1位の「住民一人ひとりが地域に対する関心を高めること」は9A、6A、2Bの各ブロックで高い。「地域の細やかな情報をもっと提供されること」は、2Cブロックで59.1%と高く、全体を11ポイント上回っている。6Aブロックもこれに次いで高い。6Bブロックでは全体で第4位の「住民の多くが参加できるイベントが盛んになること」が52.3%で第2位になっている。

小学校区別

浜風では「住民一人ひとりが地域に対する関心を高めること」(62.0%)、「住民同士の付き合いを盛んにすること」(40.5%)、「住民の多くが参加できるイベントが盛んになること」(36.7%)、「地域活動団体とNPOなどの市民活動団体が連携・協力し合うこと」(19.0%)の4項目が全校区中でもっとも高い。

【ブロック別／小学校区別】



【ブロック別／小学校区別上位3項目】

網かけは、全体で第4位以下の項目

	第1位	第2位	第3位
1ブロック	住民が地域に対する関心を高める	地域の細やかな情報の提供	住民同士の付き合いを盛んにする
2Aブロック	住民が地域に対する関心を高める／住民同士の付き合いを盛んにする	地域の細やかな情報の提供	地域の細やかな情報の提供／地域の課題を話し合えるような場
2Bブロック	住民が地域に対する関心を高める	地域の細やかな情報の提供	住民同士の付き合いを盛んにする
2Cブロック	地域の細やかな情報の提供	住民が地域に対する関心を高める	住民同士の付き合いを盛んにする／住民の多くが参加できるイベント
4ブロック	住民が地域に対する関心を高める	地域の細やかな情報の提供	住民同士の付き合いを盛んにする
5ブロック	住民が地域に対する関心を高める	地域の細やかな情報の提供／住民同士の付き合いを盛んにする	
6Aブロック	住民が地域に対する関心を高める	地域の細やかな情報の提供	住民同士の付き合いを盛んにする
6Bブロック	住民が地域に対する関心を高める	住民の多くが参加できるイベント	地域の細やかな情報の提供
7ブロック	住民が地域に対する関心を高める	地域の細やかな情報の提供	住民同士の付き合いを盛んにする
8ブロック	地域の細やかな情報の提供	住民が地域に対する関心を高める	住民同士の付き合いを盛んにする／住民の多くが参加できるイベント
9Aブロック	住民が地域に対する関心を高める	地域の細やかな情報の提供	住民同士の付き合いを盛んにする
9Bブロック	住民が地域に対する関心を高める	地域の細やかな情報の提供	住民同士の付き合いを盛んにする
10ブロック	地域の細やかな情報の提供	住民が地域に対する関心を高める	住民同士の付き合いを盛んにする
精道	住民が地域に対する関心を高める	地域の細やかな情報の提供	住民の多くが参加できるイベント
宮川	住民が地域に対する関心を高める	地域の細やかな情報の提供	住民同士の付き合いを盛んにする
山手	住民が地域に対する関心を高める	地域の細やかな情報の提供	住民同士の付き合いを盛んにする
岩園	住民が地域に対する関心を高める	地域の細やかな情報の提供	住民同士の付き合いを盛んにする
朝日ヶ丘	住民が地域に対する関心を高める	地域の細やかな情報の提供	住民同士の付き合いを盛んにする
潮見	地域の細やかな情報の提供	住民が地域に対する関心を高める	住民同士の付き合いを盛んにする
潮芦屋	地域の細やかな情報の提供	住民が地域に対する関心を高める	住民同士の付き合いを盛んにする
浜風	住民が地域に対する関心を高める	地域の細やかな情報の提供	住民同士の付き合いを盛んにする
打出浜	地域の細やかな情報の提供	住民が地域に対する関心を高める	住民同士の付き合いを盛んにする

2

市民参画協働に関わる行動や意向【市民向け】

問 10 市民活動や地域活動についての経験や今後の意向についておたずねします。
(○は1つ)

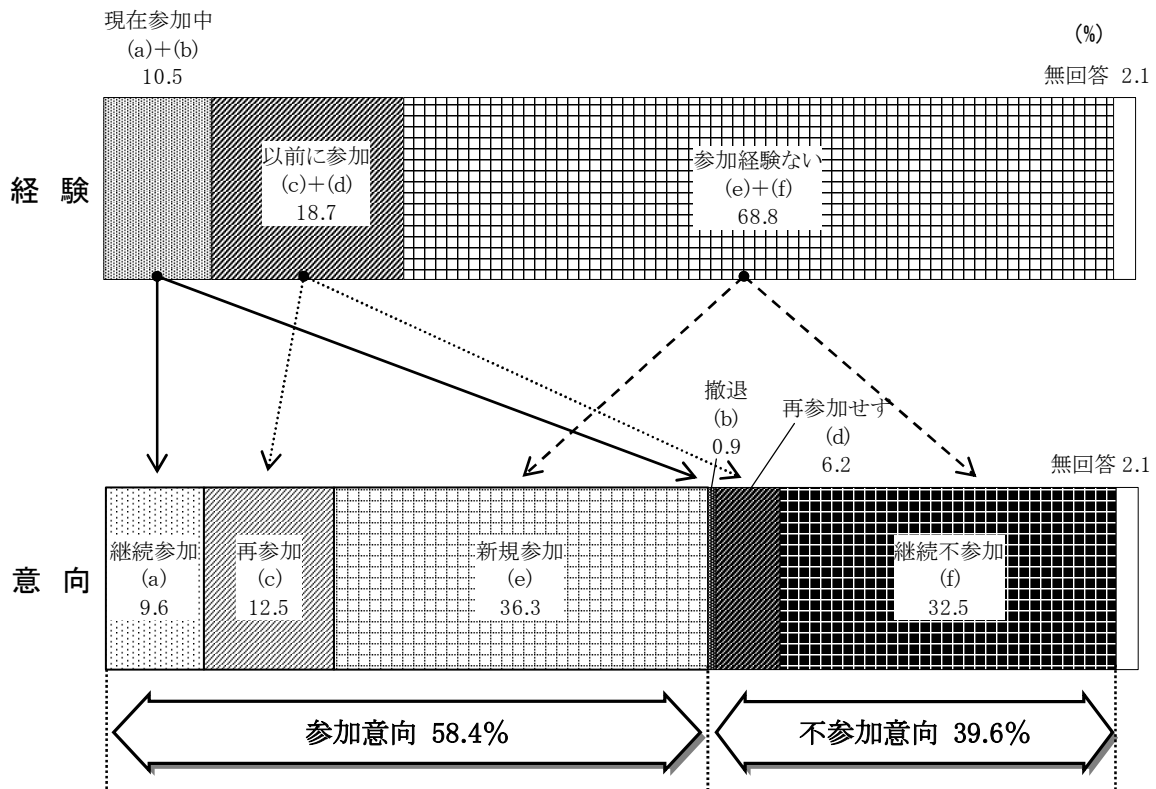
SA/N=970

全 体

(a)「現在、参加しており、今後も参加したい」(9.6%)、(b)「現在、参加しているが、今後は参加したくない」(0.9%)、(c)「以前に参加したことがあり、また参加したい」(12.5%)、(d)「以前に参加したことがあるが、今後は参加したくない」(6.2%)、(e)「これまで参加したことはないが、今後は参加したい」(36.3%)、(f)「これまで参加したことがなく、今後も参加したくない」(32.5%)となっている。

現在参加中の回答者((a)+(b))は10.5%、以前に参加した経験のある回答者((c)+(d))は18.7%、参加経験のない回答者((e)+(f))は68.8%で、約1:2:7の割合である。

また、前者の「参加意向」((a)+(c)+(e))の回答者は58.4%、後者の「不参加意向」((b)+(d)+(f))の回答者は39.6%で、市民活動や地域活動に取り組む意欲のある回答者は約6割である。

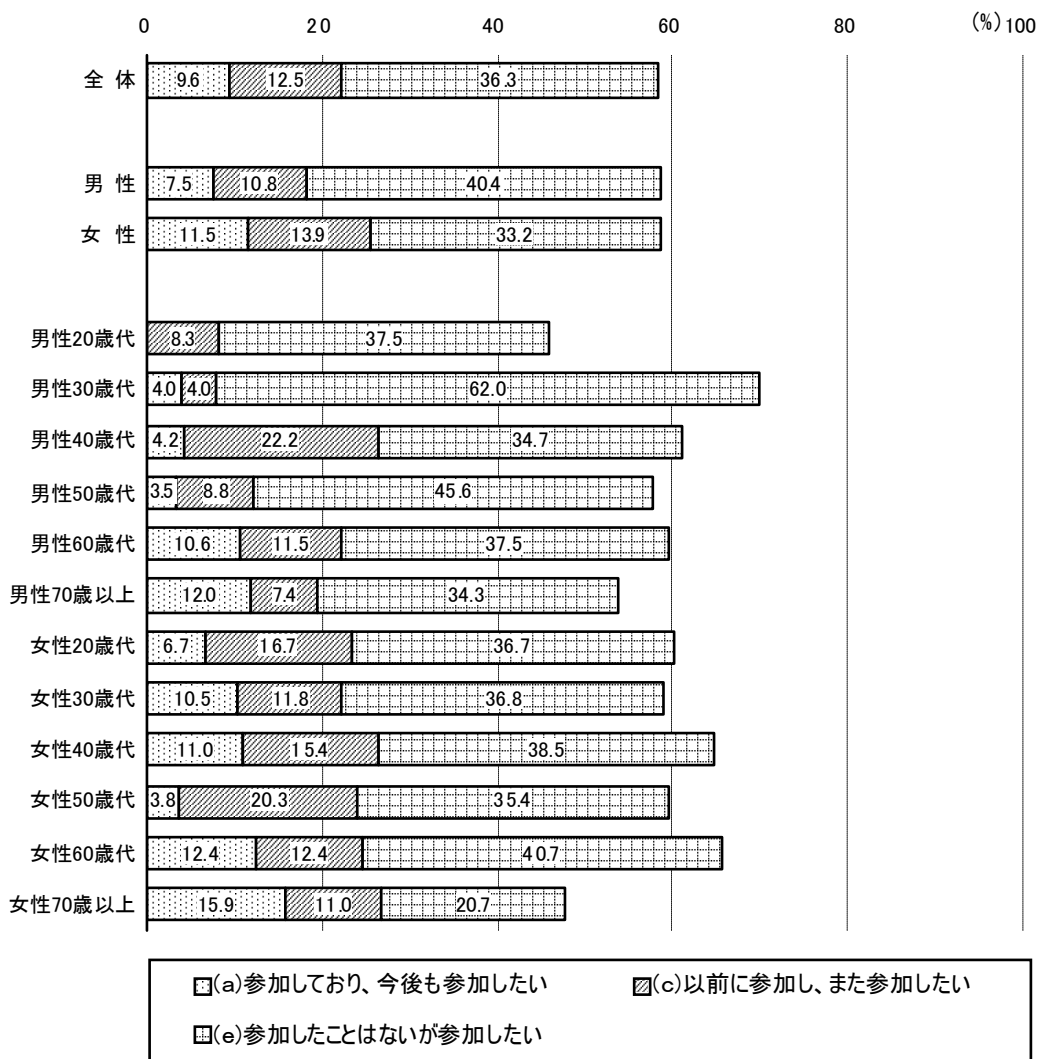


性・年齢別

参加意向の割合についてみると、性別では合計値（(a)+(c)+(e)）ではほとんど差はないが、女性においては継続参加の割合(a)と再参加の割合(c)がともに男性より高い。

性・年齢別で合計値が最も高いのは男性30歳代で70.0%にのぼり、このうち「これまで参加したことはないが、今後は参加したい」（新規参加）が62.0%を占める。男性40歳代と女性50歳代では再参加(c)の割合が高い。

【性・年齢別】参加意向



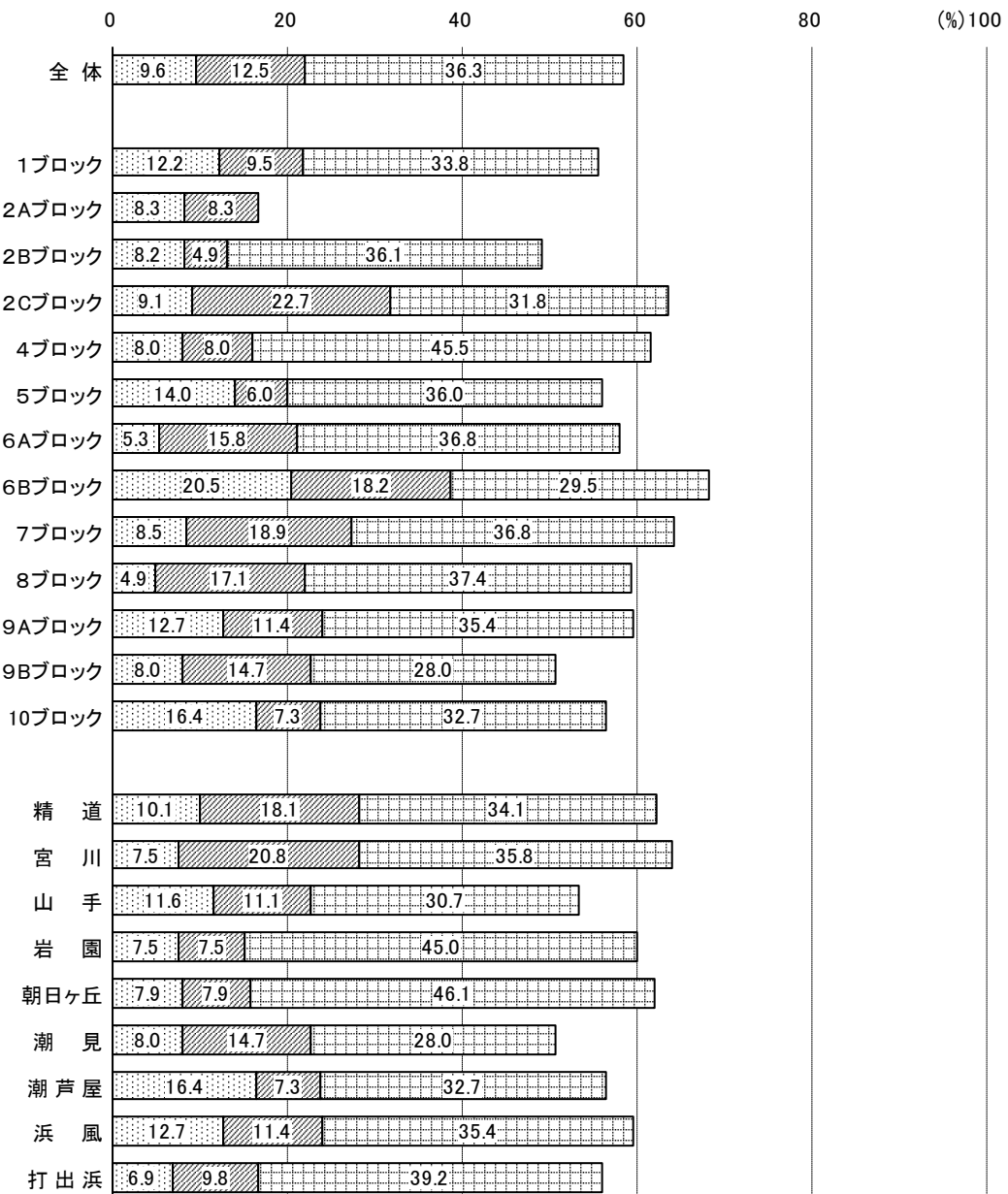
ブロック別

参加意向の合計値では、6Bブロックが68.2%で最も高く、継続参加の割合(a)も20.5%と最も高い。これに次いで7ブロックと2Cブロックで合計値が高いが、両ブロックとも再参加の割合(c)が高い。

小学校区別

小学校区別では、潮芦屋で継続参加が16.4%と高く、再参加の割合は宮川(20.8%)や精道(18.1%)で高い。

【ブロック別/小学校区別】参加意向



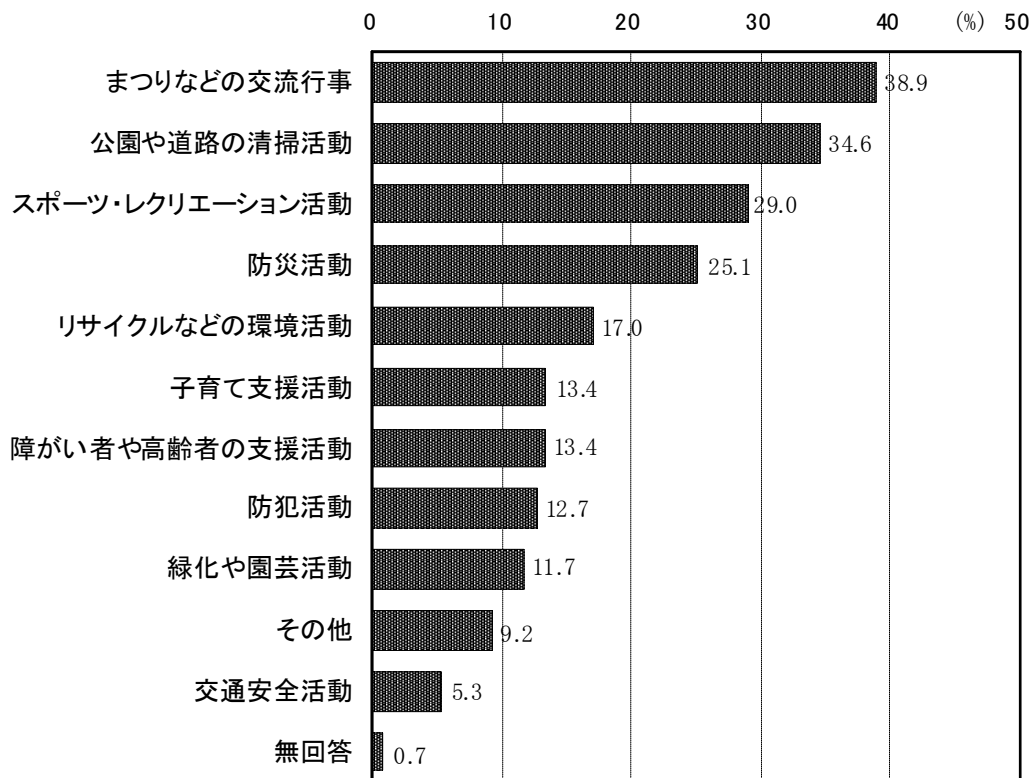
(a)参加しており、今後も参加したい (c)以前に参加し、また参加したい
 (e)参加したことはないが参加したい

民間 11 問 10 で、1～4 のいずれかに○をした方におたずねします。
それはどのような活動への参加ですか。(該当するものすべてに○)

MA/N=283

全 体

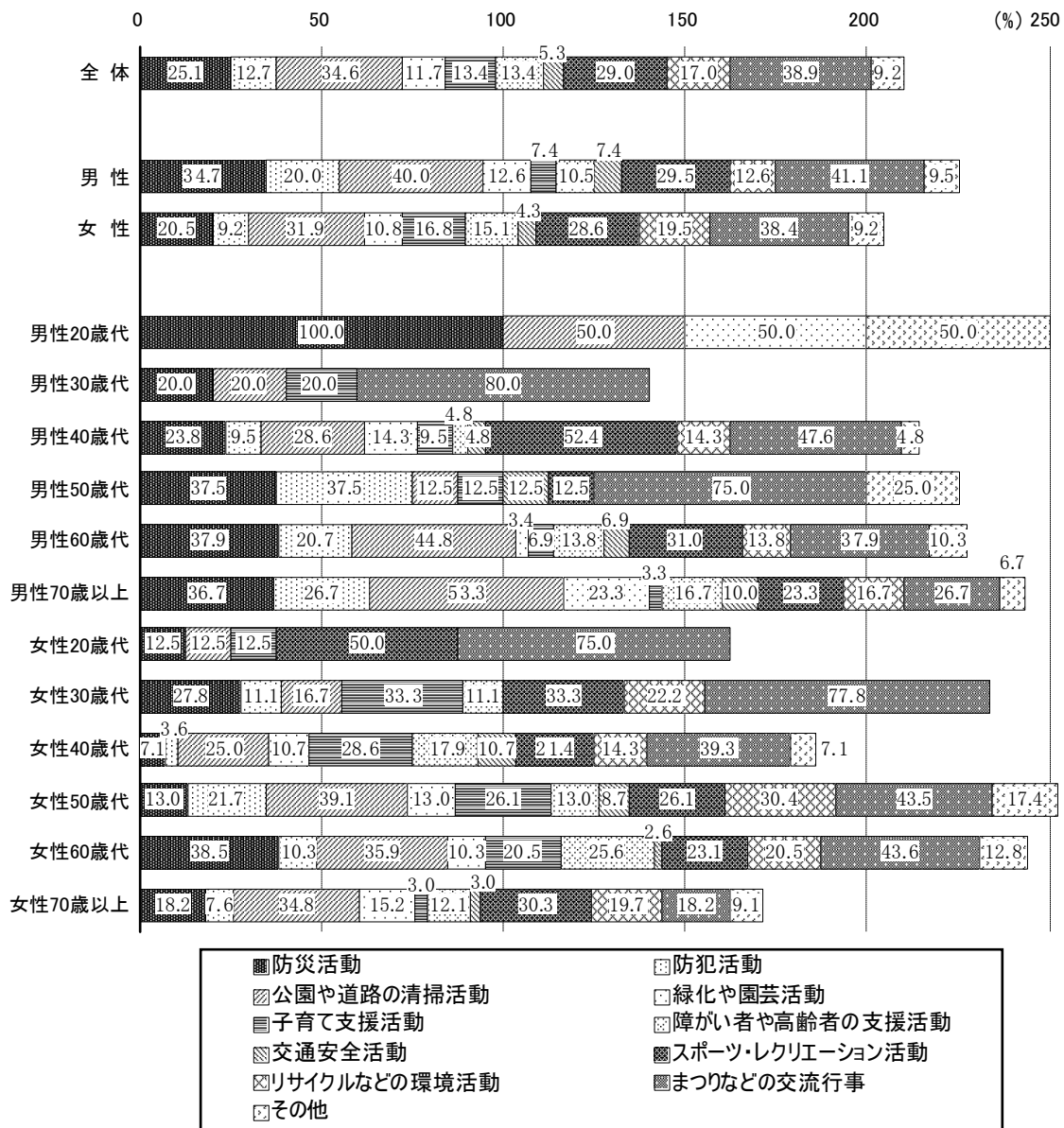
「まつりなどの交流行事」が 38.9%で最も多くの回答者があげる参加分野である。これに続く「公園や道路の清掃活動」(34.6%)、「スポーツ・レクリエーション活動」(29.0%)、「防災活動」(25.1%)が 20%以上の支持を得ている。



性・年齢別

男性では「防災活動」が34.7%で第3位となっている。「防災活動」は男性の50歳以上を中心として上位に位置している。「まつりなどの交流行事」は男性30歳代・50歳代、女性20歳代・30歳代の若い層を中心に70%を超えている。「リサイクルなどの環境活動」は全体では第5位であるが、女性50歳代・70歳以上では第3位となっている。「子育て支援活動」は男性30歳代、女性20歳代～40歳代で第2位または第3位となっている。

【性・年齢別】



【性・年齢別上位3項目】

網かけは、全体で第4位以下の項目

	第1位	第2位	第3位
男性	まつりなどの交流行事	公園や道路の清掃活動	防災活動
女性	まつりなどの交流行事	公園や道路の清掃活動	スポーツ・レクリエーション活動
男性 20 歳代	防災活動	公園や道路の清掃活動／緑化や園芸活動／その他	
男性 30 歳代	まつりなどの交流行事	公園や道路の清掃活動／防災活動／子育て支援活動	
男性 40 歳代	スポーツ・レクリエーション活動	まつりなどの交流行事	公園や道路の清掃活動
男性 50 歳代	まつりなどの交流行事	防災活動／防犯活動	
男性 60 歳代	公園や道路の清掃活動	まつりなどの交流行事／防災活動	
男性 70 歳以上	公園や道路の清掃活動	防災活動	まつりなどの交流行事／防災活動
女性 20 歳代	まつりなどの交流行事	スポーツ・レクリエーション活動	公園や道路の清掃活動／防災活動／子育て支援活動
女性 30 歳代	まつりなどの交流行事	スポーツ・レクリエーション活動／子育て支援活動	
女性 40 歳代	まつりなどの交流行事	子育て支援活動	公園や道路の清掃活動
女性 50 歳代	まつりなどの交流行事	公園や道路の清掃活動	リサイクルなどの環境活動
女性 60 歳代	まつりなどの交流行事	防災活動	公園や道路の清掃活動
女性 70 歳以上	公園や道路の清掃活動	スポーツ・レクリエーション活動	リサイクルなどの環境活動

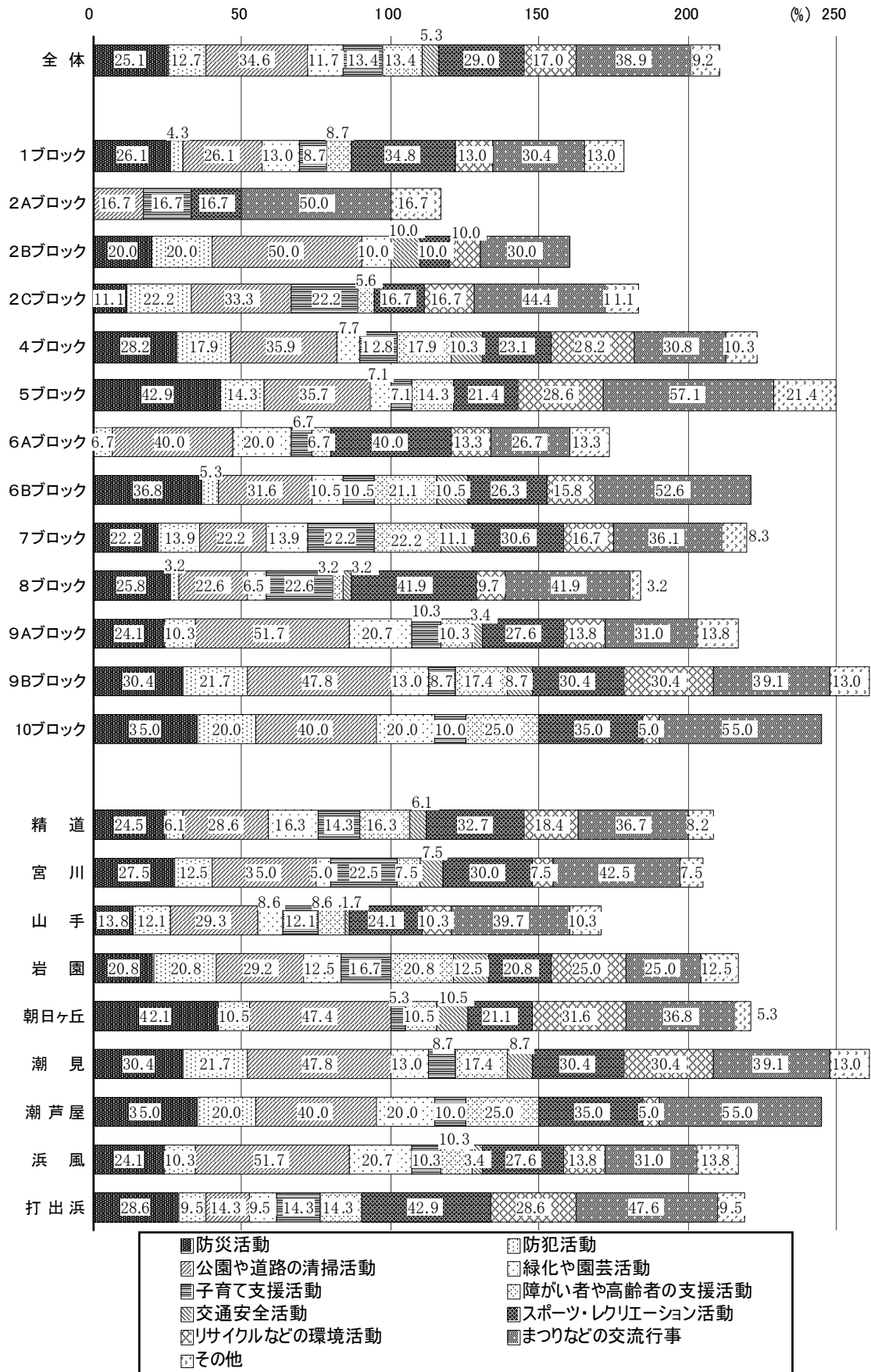
ブロック別

「防災活動」が第3位以内に位置しているブロックは、1、2B、4、5、6B、7、8、9B、10で、多くのブロックで防災活動への参加意向が比較的高い。4ブロックと9Bブロックでは「リサイクルなどの環境活動」が第3位となっている。

小学校区別

「防災活動」が第3位以内に位置している小学校区は、朝日ヶ丘、潮見、潮芦屋、打出浜である。「リサイクルなどの環境活動」が第3位以内に位置するのは、岩園、潮見、打出浜である。

【ブロック別／小学校区別】



【ブロック別／小学校区別上位3項目】

網かけは、全体で第4位以下の項目

	第1位	第2位	第3位
1ブロック	スポーツ・レクリエーション活動	まつりなどの交流行事	公園や道路の清掃活動／防災活動
2Aブロック	まつりなどの交流行事	スポーツ・レクリエーション活動 公園や道路の清掃活動／子育て支援活動／その他	
2Bブロック	公園や道路の清掃活動	まつりなどの交流行事	防災活動／防犯活動
2Cブロック	まつりなどの交流行事	公園や道路の清掃活動	子育て支援活動／防犯活動
4ブロック	公園や道路の清掃活動	まつりなどの交流行事	防災活動／リサイクルなどの環境活動
5ブロック	まつりなどの交流行事	防災活動	公園や道路の清掃活動
6Aブロック	公園や道路の清掃活動／スポーツ・レクリエーション活動		まつりなどの交流行事
6Bブロック	まつりなどの交流行事	防災活動	公園や道路の清掃活動
7ブロック	まつりなどの交流行事	スポーツ・レクリエーション活動	公園や道路の清掃活動／防災活動 ／子育て支援活動／障がい者 や高齢者の支援活動
8ブロック	まつりなどの交流行事／スポーツ・レクリエーション活動		防災活動
9Aブロック	公園や道路の清掃活動	まつりなどの交流行事	スポーツ・レクリエーション活動
9Bブロック	公園や道路の清掃活動	まつりなどの交流行事	スポーツ・レクリエーション活動／防 災活動／リサイクルなどの環境活動
10ブロック	まつりなどの交流行事	公園や道路の清掃活動	スポーツ・レクリエーション活動／防 災活動
精道	まつりなどの交流行事	スポーツ・レクリエーション活動	公園や道路の清掃活動
宮川	まつりなどの交流行事	公園や道路の清掃活動	スポーツ・レクリエーション活動
山手	まつりなどの交流行事	公園や道路の清掃活動	スポーツ・レクリエーション活動
岩園	公園や道路の清掃活動	まつりなどの交流行事／リサイクルなどの環境活動	
朝日ヶ丘	公園や道路の清掃活動	防災活動	まつりなどの交流行事
潮見	公園や道路の清掃活動	まつりなどの交流行事	スポーツ・レクリエーション活動／防 災活動／リサイクルなどの環境活動
潮芦屋	まつりなどの交流行事	公園や道路の清掃活動	スポーツ・レクリエーション活動／ 防災活動
浜風	公園や道路の清掃活動	まつりなどの交流行事	スポーツ・レクリエーション活動
打出浜	まつりなどの交流行事	スポーツ・レクリエーション活動	防災活動／リサイクルなどの環境活 動

民間 問 12 問 10 で、5 に○をした方におたずねします。

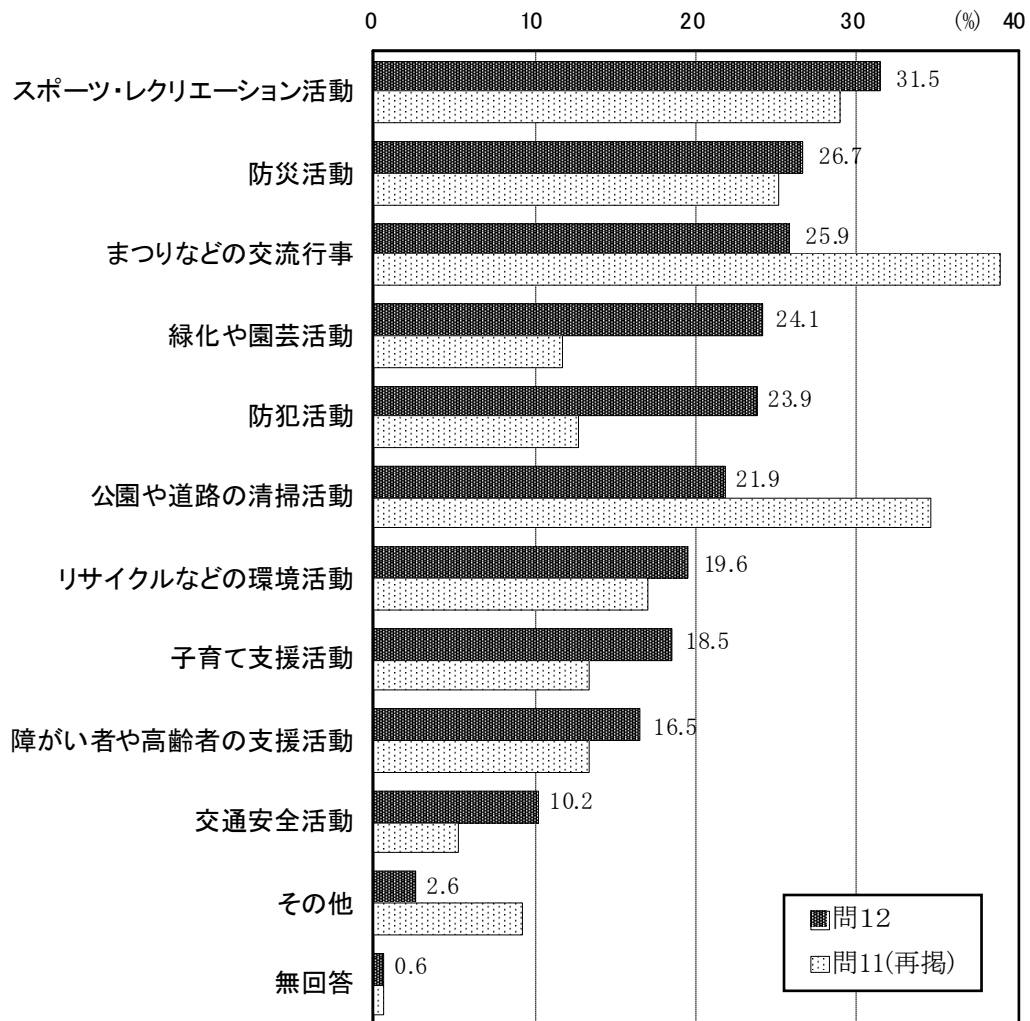
どのようなテーマであれば参加したいと思いますか。(○は3つまで)

ML3/N=352

全 体

「スポーツ・レクリエーション活動」(31.5%)、「防災活動」(26.7%)、「まつりなどの交流行事」(25.9%)などが上位に位置する。

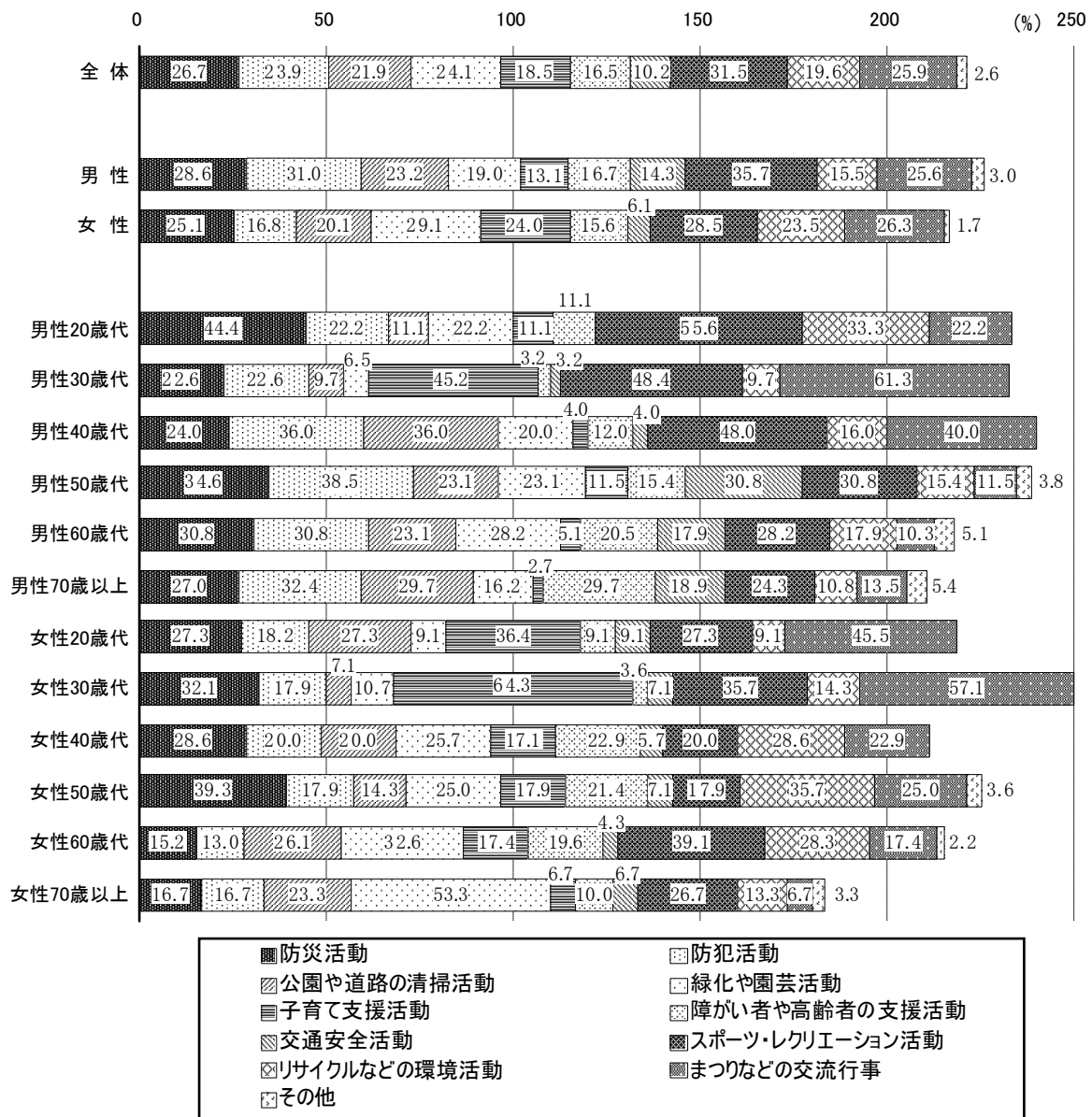
問 11 の実際の活動割合と比較すると、「緑化や園芸活動」「防犯活動」などは実際の活動割合より、活動を希望する割合のほうがかなり多い。逆に「まつりなどの交流行事」「公園や道路の清掃活動」は実際の活動割合が活動を希望する割合をかなり上回っている。



性・年齢別

「防災活動」は男性 20 歳代と女性 50 歳代で全体を 10 ポイント以上上回っている。全体では第 4 位の「緑化や園芸活動」が女性では 29.1% で第 1 位になっており、女性 40 歳代以上を中心にして支持が高い。全体で第 5 位の「防犯活動」が男性では第 2 位になっており、男性 40 歳代・50 歳代で全体を 10 ポイント以上上回っている。「子育て支援活動」は全体では 18.5% であるが、女性 30 歳代で 64.3%、男性 30 歳代で 45.2% と高い。

【性・年齢別】



【性・年齢別上位3項目】

網かけは、全体で第4位以下の項目

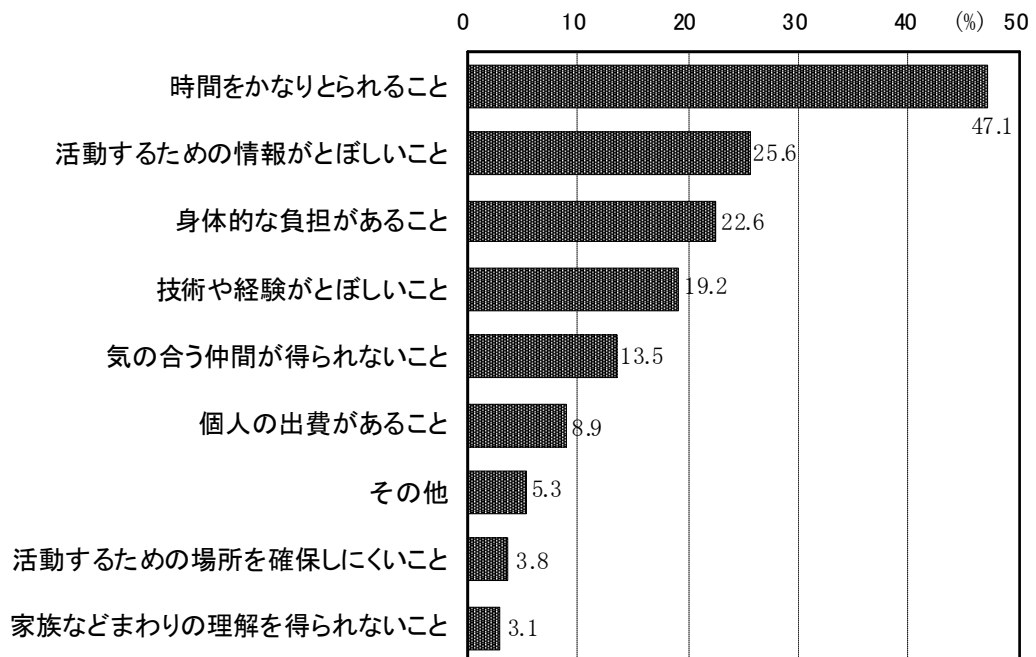
	第1位	第2位	第3位
男性	スポーツ・レクリエーション活動	防犯活動	防災活動
女性	緑化や園芸活動	スポーツ・レクリエーション活動	まつりなどの交流行事
男性 20 歳代	スポーツ・レクリエーション活動	防災活動	リサイクルなどの環境活動
男性 30 歳代	まつりなどの交流行事	スポーツ・レクリエーション活動	子育て支援活動
男性 40 歳代	スポーツ・レクリエーション活動	まつりなどの交流行事	防犯活動／公園や道路の清掃活動
男性 50 歳代	防犯活動	防災活動	スポーツ・レクリエーション活動 ／交通安全活動
男性 60 歳代	防災活動／防犯活動		スポーツ・レクリエーション活動 ／緑化や園芸活動
男性 70 歳以上	防犯活動	公園や道路の清掃活動／障がい者や高齢者の支援活動	
女性 20 歳代	まつりなどの交流行事	子育て支援活動	スポーツ・レクリエーション活動 ／防災活動／公園や道路の清掃活動
女性 30 歳代	子育て支援活動	まつりなどの交流行事	スポーツ・レクリエーション活動
女性 40 歳代	防災活動／リサイクルなどの環境活動		緑化や園芸活動
女性 50 歳代	防災活動	リサイクルなどの環境活動	まつりなどの交流行事 ／緑化や園芸活動
女性 60 歳代	スポーツ・レクリエーション活動	緑化や園芸活動	リサイクルなどの環境活動
女性 70 歳以上	緑化や園芸活動	スポーツ・レクリエーション活動	公園や道路の清掃活動

民問 13 市民活動や地域活動をおこなう上で負担になりそうなこと、または実際に負担に感じたことはどのようなことですか。(〇は3つまで)

ML3/N=970

全 体

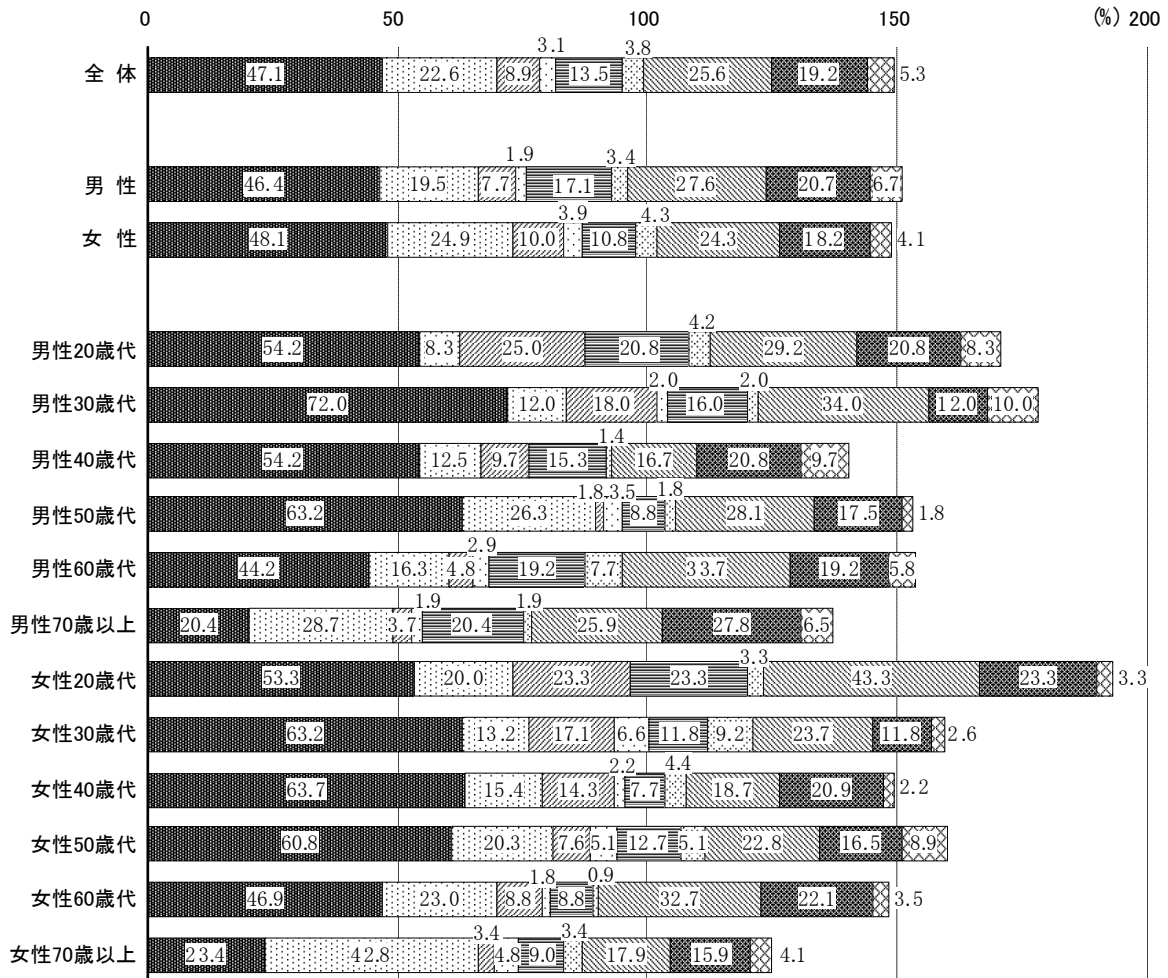
「時間をかなりとられること」(47.1%)が約半数となっている。これに「活動するための情報がとぼしいこと」(25.6%)、「身体的な負担があること」(22.6%)などが続く。



性・年齢別

「時間をかなりとられること」は、男性 30 歳代の 72.0% をトップにして、男性 50 歳代と女性 30 歳代～50 歳代が 60% 台と高い。「活動するための情報がとぼしいこと」は女性 20 歳代で高い。「身体的な負担があること」は女性 70 歳以上で高いほか、男性 70 歳以上がこれに次ぐ。

【性・年齢別】



- 時間をかなりとられること
- ▨ 個人の出費があること
- ▩ 気の合う仲間が得られないこと
- ▧ 活動するための情報がとぼしいこと
- ▦ その他
- ▤ 身体的な負担があること
- ▣ 家族などまわりの理解を得られない
- ▢ 活動するための場所を確保しにくい
- 技術や経験がとぼしいこと

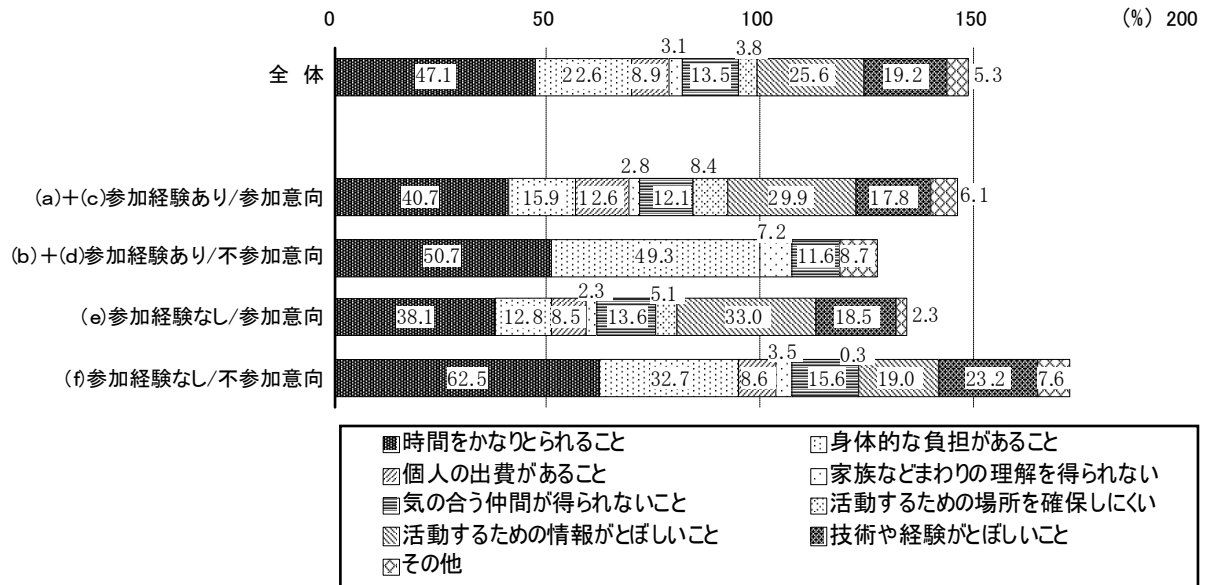
問 10 参加経験／参加意向との関係

問 10 では市民活動・地域活動に対する参加経験と今後の参加意向をたずねたが、この回答との関係を見た。

これによると全体で第 1 位であった「時間をかなりとられること」は、参加した経験がなく今後も参加したくないとする回答者（(f)参加経験なし／不参加意向）で高く 62.5%となっている。そして現在参加しているかかつて参加したことがあり今後は参加したくないとする回答者（(b)+(d)参加経験あり／不参加意向）の 50.7%がこれに次ぐ。

参加経験／参加意向のタイプ別に全体の割合と比較すると、不参加意向の回答者は「身体的な負担があること」「時間をかなりとられること」をあげる割合が高く、これらが参加への障害となっていることがうかがえる。参加意向の回答者は、活動のための場所や情報など、活動のための条件をあげる割合が高い。

【参加経験／参加意向との関係】



【参加経験／参加意向との関係】

全体を3ポイント以上上回る項目。カッコ内はポイントの差

	参加意向	不参加意向
	(a) + (c)	(b) + (d)
参加経験あり	活動するための場所を確保しにくいこと (+5) 活動するための情報がとぼしいこと (+4) 個人の出費があること (+4)	身体的な負担があること (+27) 家族などまわりの理解を得られないこと (+4) 時間をかなりとられること (+4) その他 (+3)
	(e)	(f)
参加経験なし	活動するための情報がとぼしいこと (+7)	時間をかなりとられること (+15) 身体的な負担があること (+10) 活動するための技術や経験がとぼしいこと (+4)

3

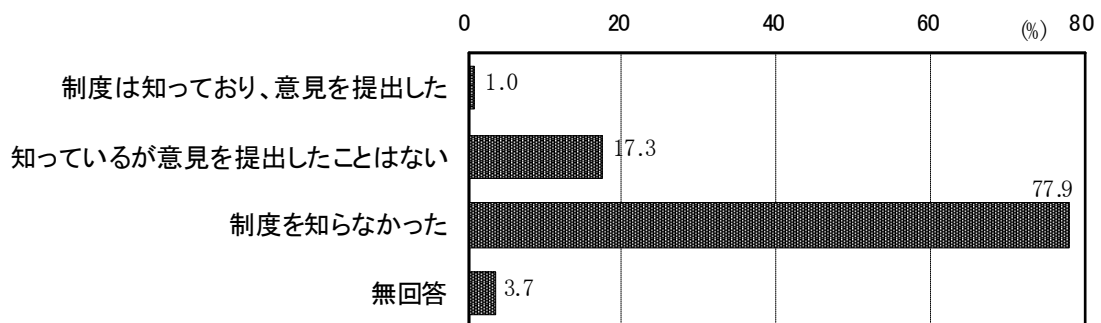
その他 [市民向け]

民間 21 市の施策について、広く市民から意見をもとめるパブリックコメント制度（市が施策を策定するにあたって広く市民の意見を求め、その意見に対する市の考えなどを公表する手続きのこと）についておたずねします。（○は1つ）

SA/N=970

全体

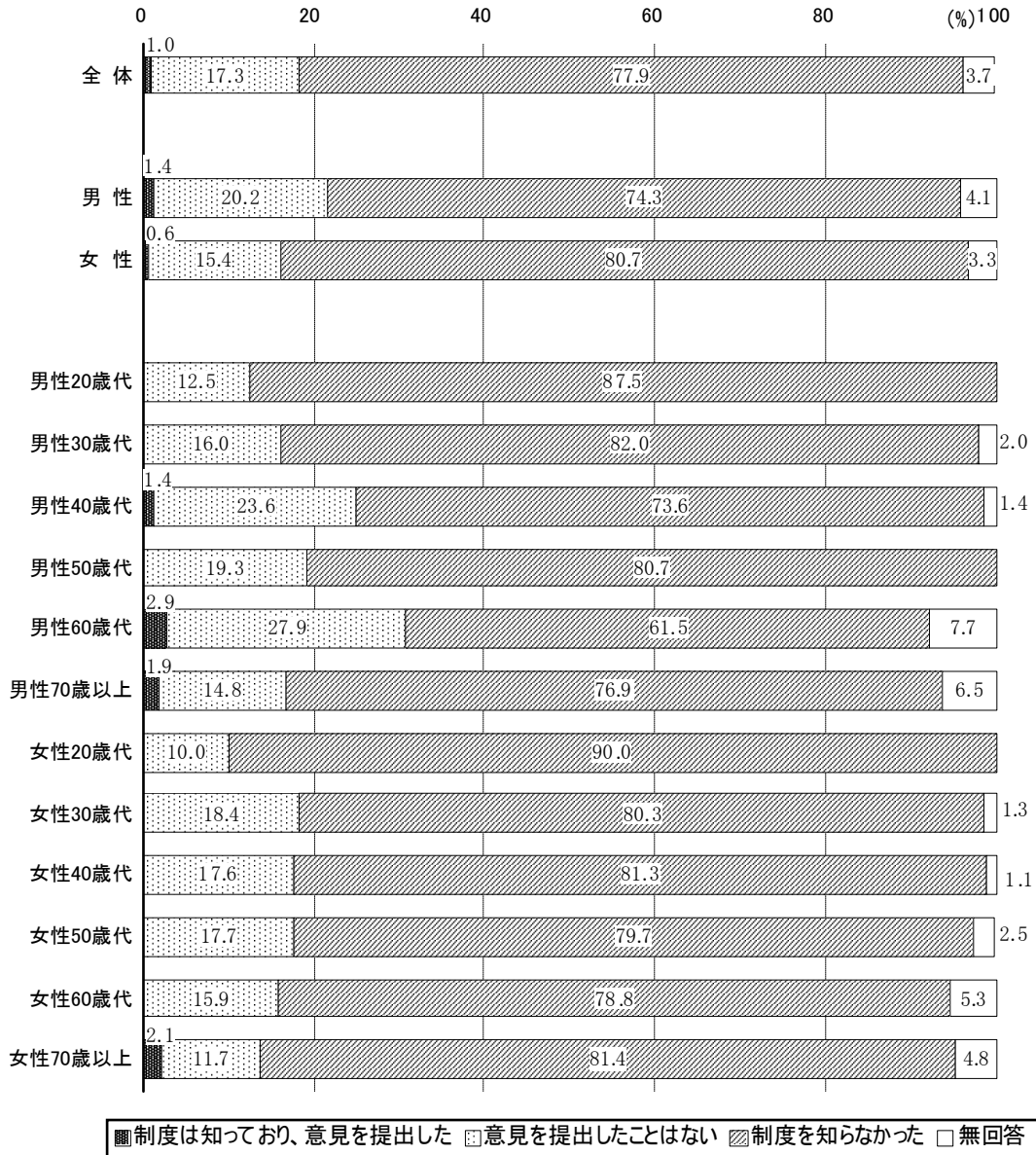
77.9%の回答者が「パブリックコメント制度を知らなかった」としている。知っている回答者は18.3%（「パブリックコメント制度は知っており、意見を提出したことがある」1.0%と「パブリックコメント制度は知っているが、意見を提出したことはない」17.3%の合計値）である。



性・年齢別

最も良く周知しているのは男性 60 歳代で「パブリックコメント制度は知っており、意見を提出したことがある」と「パブリックコメント制度は知っているが、意見を提出したことはない」の合計値が 30.8%である。最も低いのは女性 20 歳代の 10.0%である。

【性・年齢別】

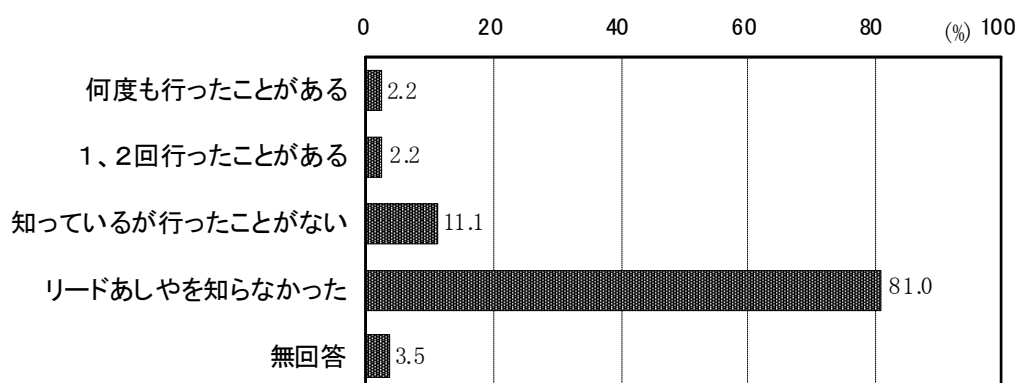


民問 22 芦屋市立あしや市民活動センター(リードあしや)についておたずねします。(〇は1つ)

SA/N=970

全 体

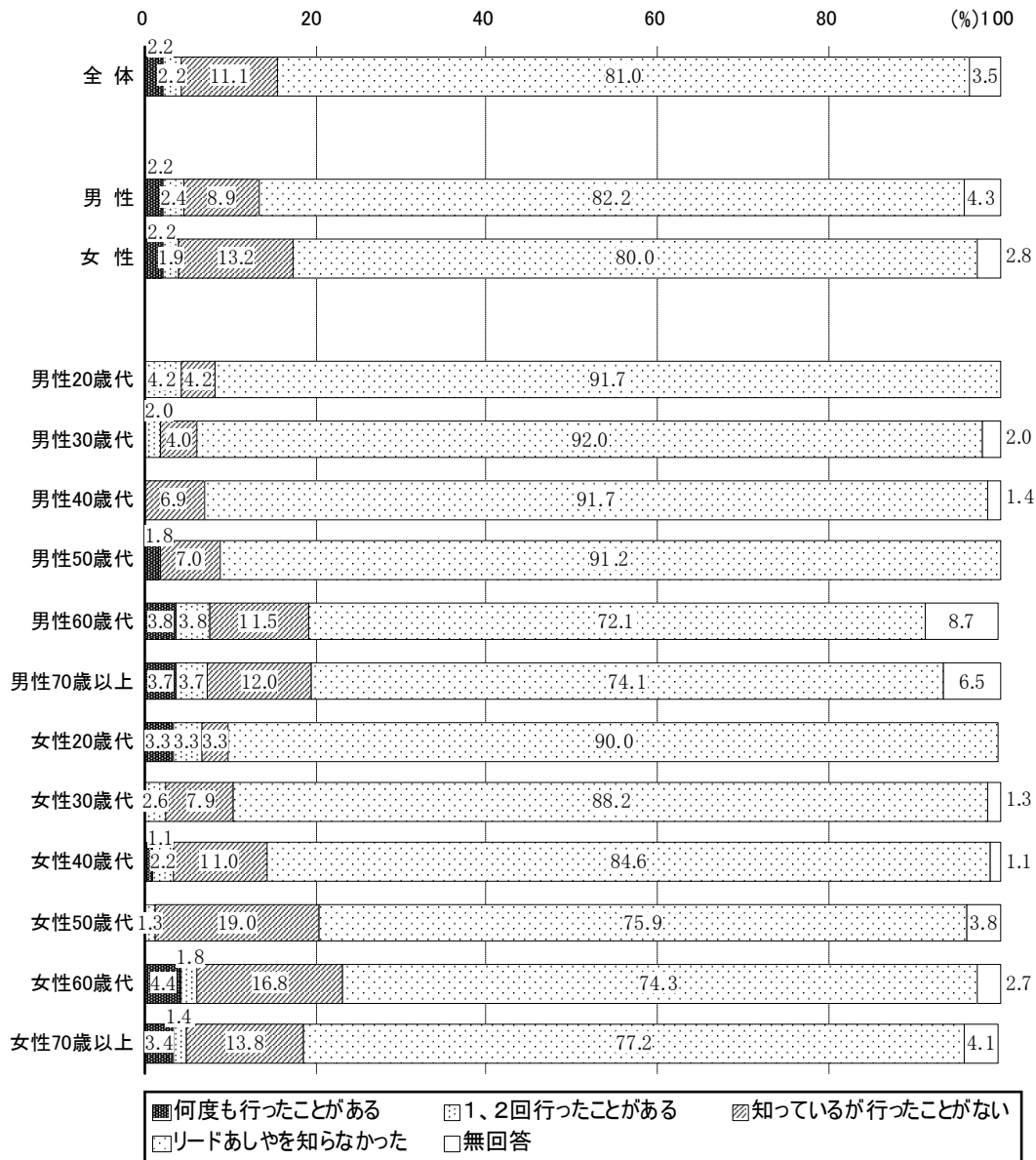
「リードあしやを知らなかった」とする割合が 81.0%を占める。「リードあしやを知っているが行ったことがない」(11.1%)、「リードあしやに1、2 回行ったことがある」(2.2%)、「リードあしやに何度も行ったことがある」(2.2%)の合計値は 15.5%で、知っている割合は約7人に1人である。



性・年齢別

「リードあしやを知っているが行ったことがない」「リードあしやに1、2回行ったことがある」「リードあしやに何度も行ったことがある」の合計値は女性60歳代が23.0%で最も高い。以下、女性50歳代(20.3%)、男性70歳代(19.4%)、男性60歳代(19.1%)と続き、60歳以上の層で比較的良好に知られている。周知度が低いのは、男性の50歳代以下の層である。

【性・年齢別】



4

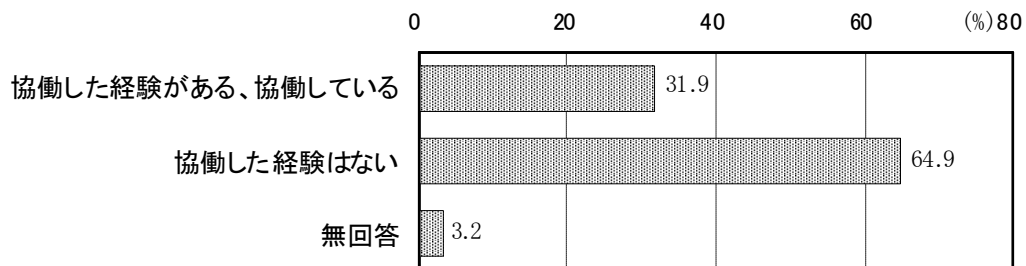
協働に関する業務経験など [市職員向け]

職問5 あなたがこれまで担当してきた業務のなかで、市民活動団体(NPO、ボランティア団体など)、地域活動団体(自治会、管理組合など)と協働した経験がありますか。(○は1つ)

SA/N=527

全体

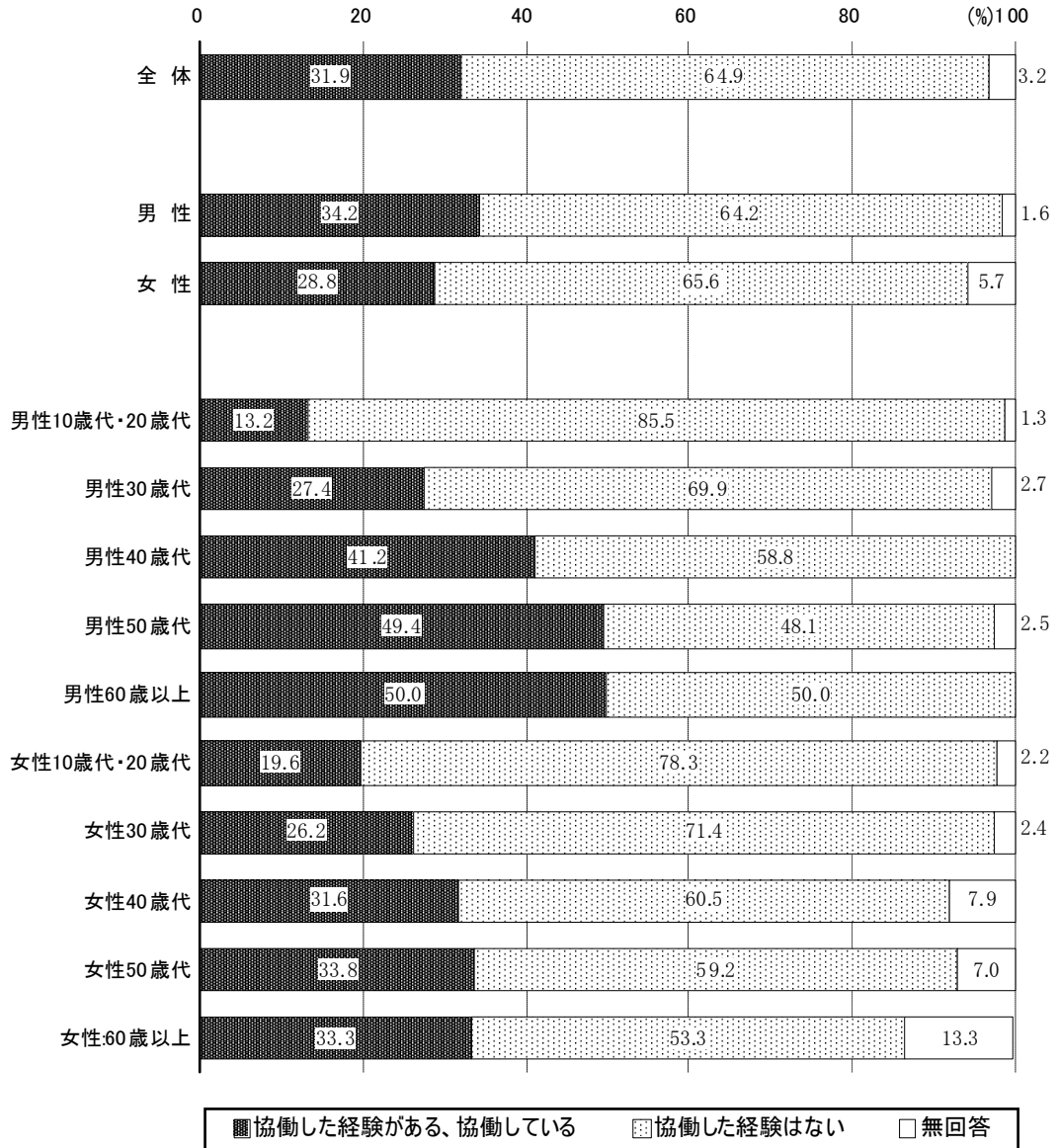
「協働した経験がある、協働している」とする回答者は31.9%で、約3人に1人は市民との協働経験を持っている。



性・年齢別

男性がやや高く、また年齢が上がるほどに経験した割合が高くなる。

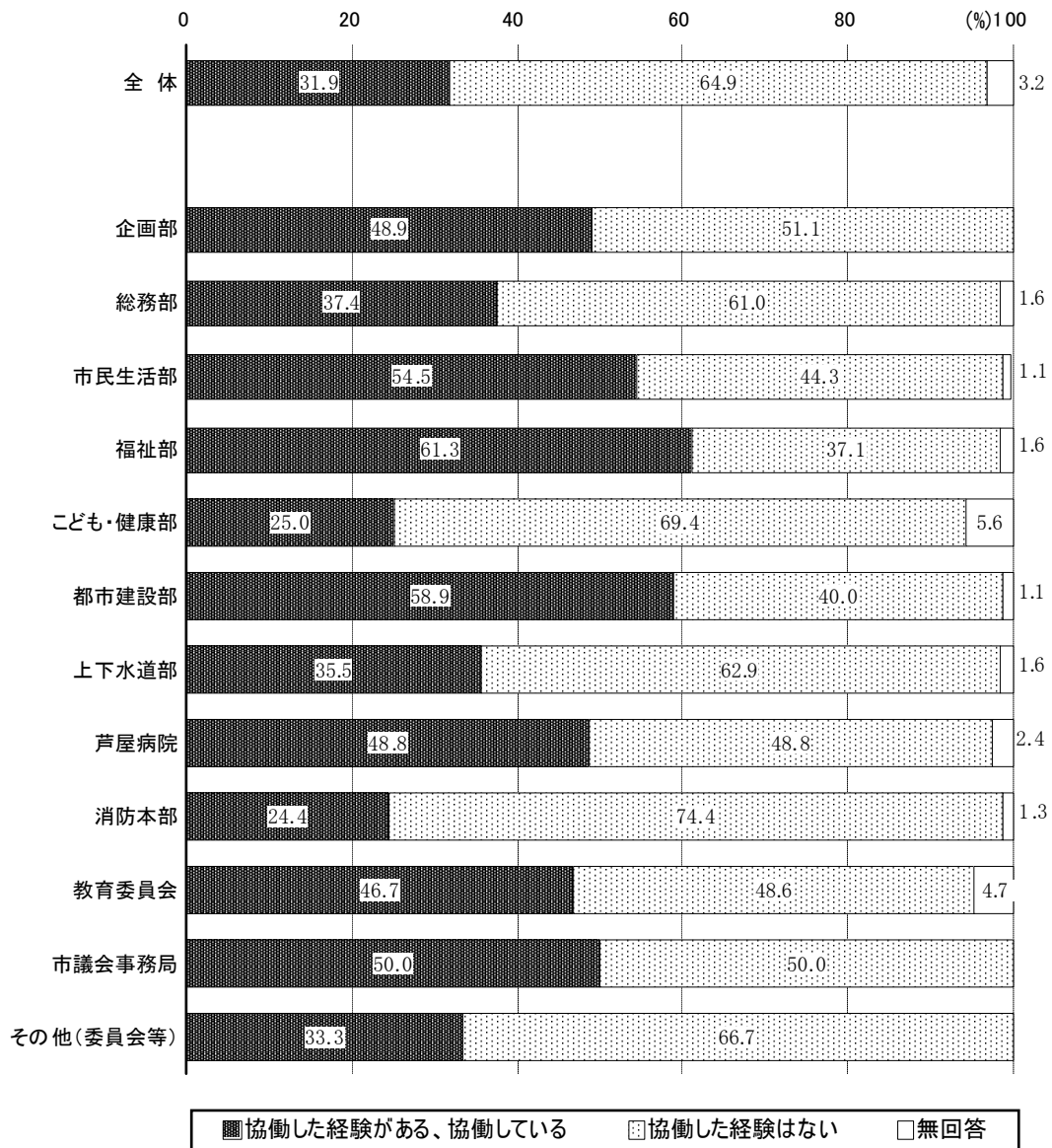
【性・年齢別】



所属経験のある部別

福祉部に所属したことがある回答者では、協働した経験の割合が61.3%で最も高い。このほか都市建設部(58.9%)、市民生活部(54.5%)などで高い。

【所属経験のある部別】



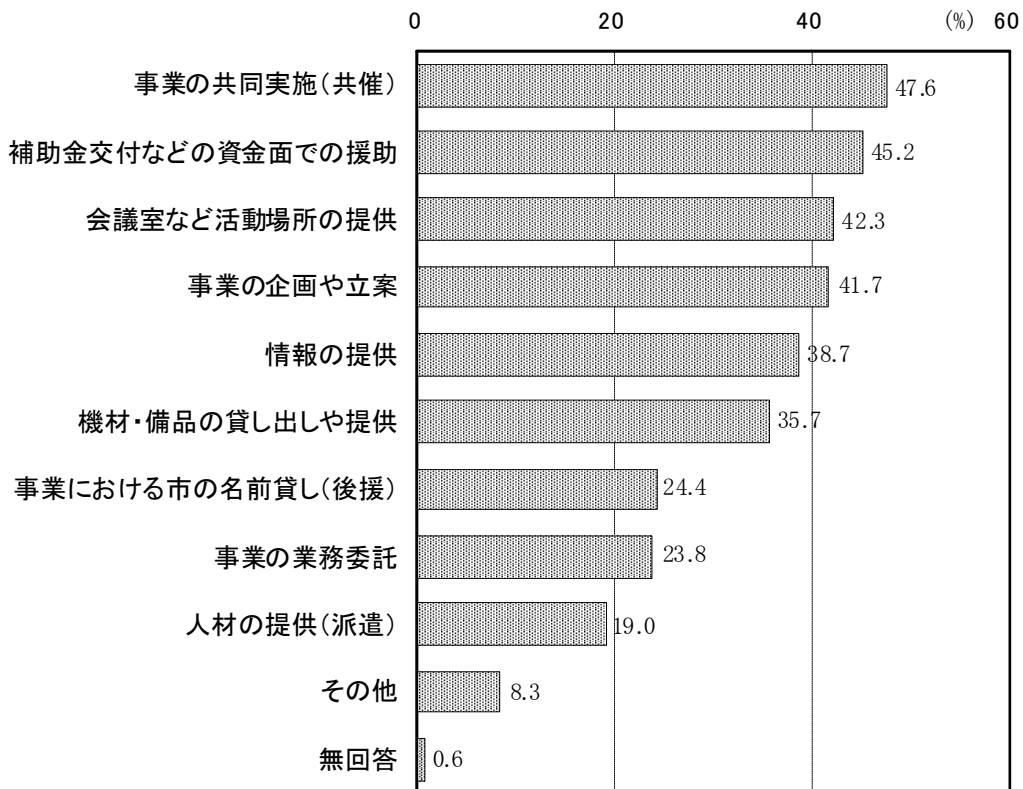
職問6

問5で「1. 協働した経験がある、現在協働している」と答えた方におたずねします。
協働したのはどのような内容のものでしたか。(該当するものすべてに○)

MA/N=168

全 体

協働の内容としては「事業の共同実施（共催）」(47.6%)、「補助金交付などの資金面での援助」(45.2%)、「会議室など活動場所の提供」(42.3%)、「事業の企画や立案」(41.7%)などが多く、これらはいずれも4割以上を占める。

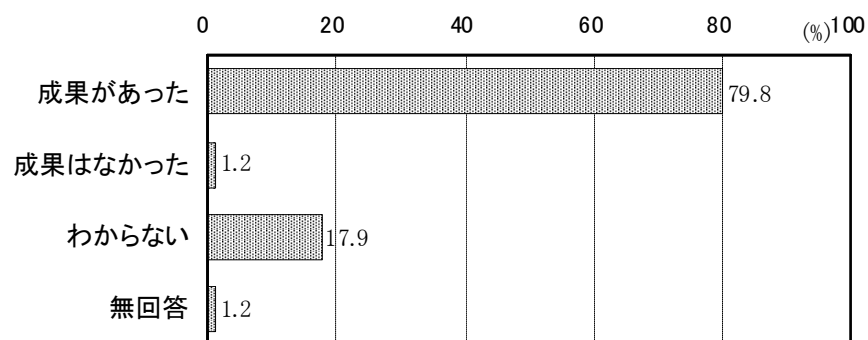


職問7 協働したことの成果はありましたか。(○は1つ)

SA/N=168

全 体

協働の「成果があった」とする割合は79.8%で、約8割の回答者が成果を認めている。次いで「わからない」が17.9%で、「成果はなかった」とするのは1.2%である。



職問 8

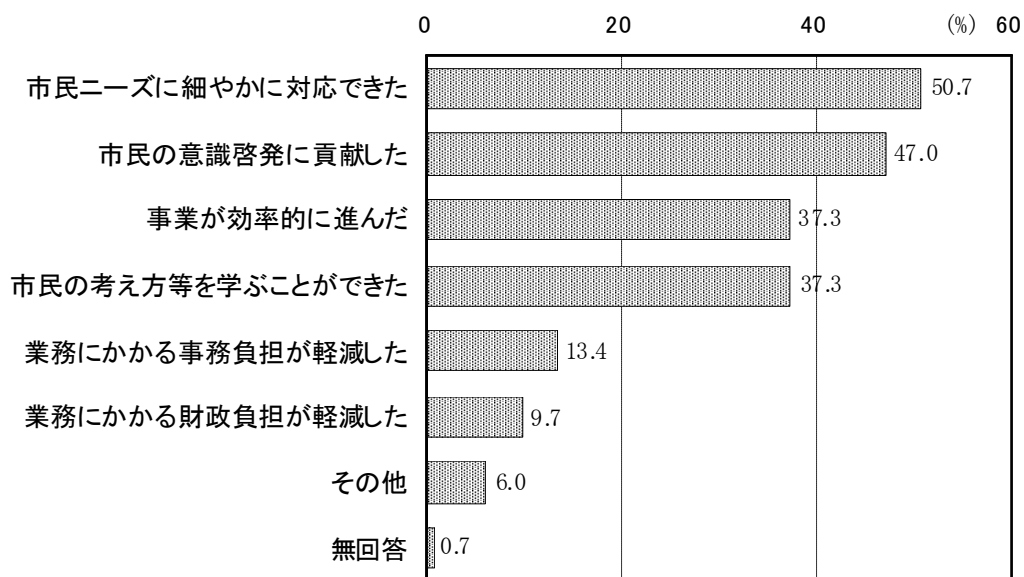
問7で「1. 成果があった」と答えた方におたずねします。

どのような成果がありましたか。(該当するもの全てに○)

MA/N=134

全 体

成果の内容としては「行政だけで実施するよりも、市民ニーズに細やかに対応できた」(50.7%)と「自治意識の向上など、市民の意識啓発に貢献した」(47.0%)が約半数である。これに「行政だけで実施するよりも、事業が効率的に進んだ」(37.3%)、「市民の考え方や手法を学ぶことができた」(37.3%)などが続く。これらと比べると「業務にかかる事務負担が軽減した」「業務にかかる財政負担が軽減した」など、行政経営の効率性を評価する意見は少ない。



職問9

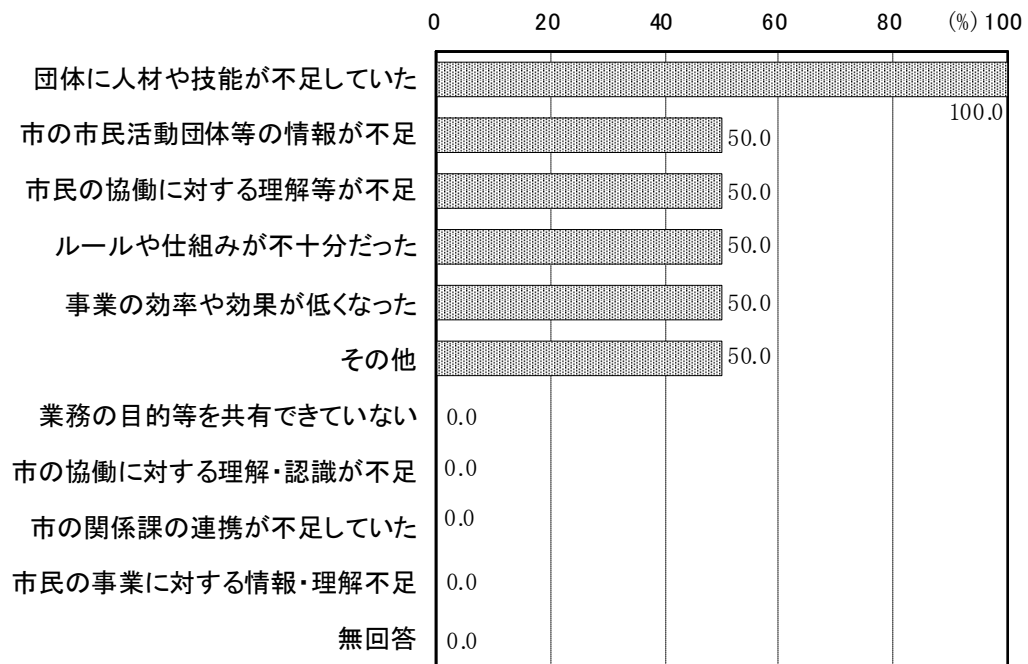
問7で「2. 成果はなかった」と答えた方におたずねします。

成果がなかったのは、どのようなことが原因だったと思いますか。(該当するもの全てに○)

MA/N=2

全 体

問7で「成果がなかった」とする回答者数は2で少ないが、「市民活動団体や地域活動団体に、協働するための人材や技能が不足していた」が100%、その他「市における市民活動団体や地域活動団体に関する情報や理解が不足していた」「市民の側で、協働に対する理解・認識が不足していた」「協働を進めるうえでのルールや仕組みが不十分だった」「協働すると、かえって事業の効率や効果が低くなった」などの意見があげられている。



5

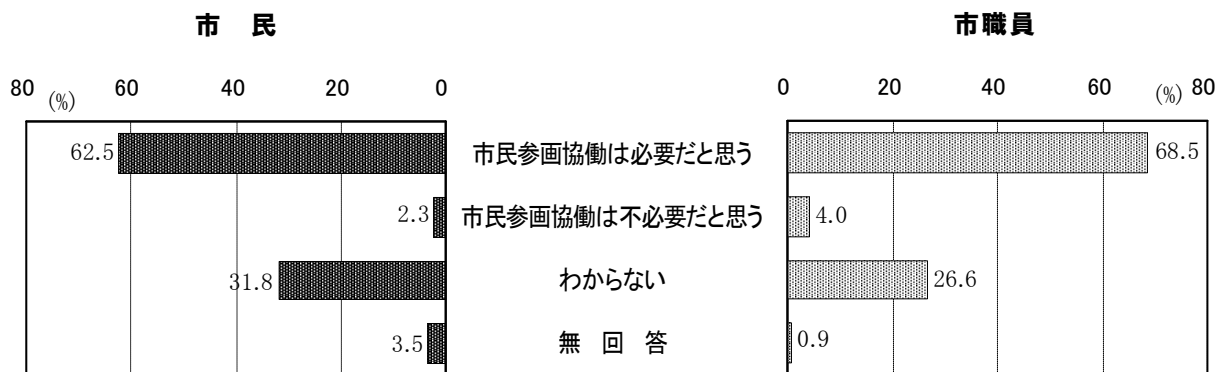
市民参画協働の進めかた [市民・市職員共通]

民問 14 市民が市政に参画し、また市民と行政が互いに協力し合ってまちづくりに取り組む「市民参画協働」の必要性についておたずねします。(○は1つ)
職問 10

SA/民 N=970 職 N=527

全体

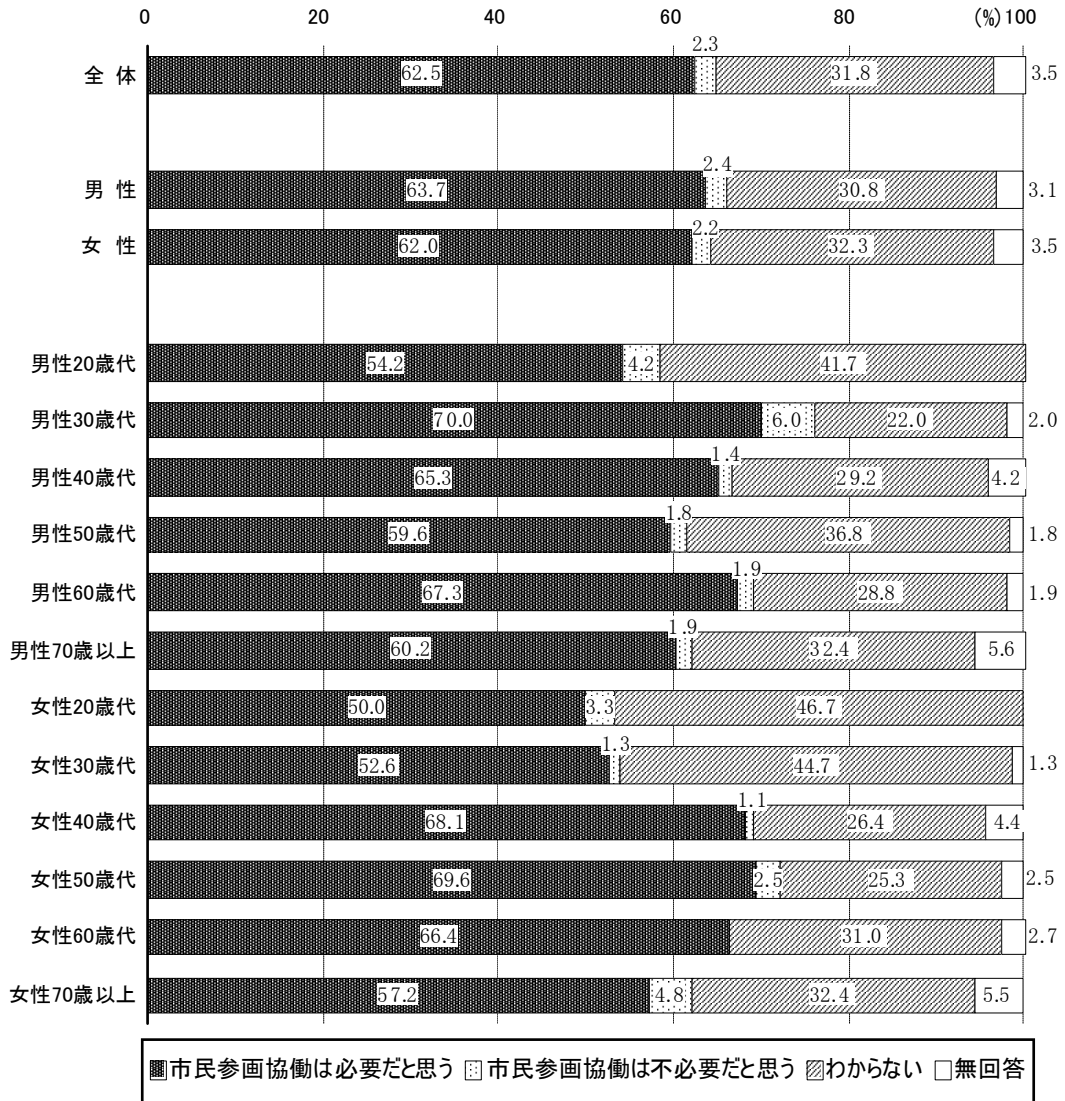
「市民参画協働は必要だと思う」の割合は、市民では 62.5%、市職員では 68.5%であり、協働の必要性について、市民、市職員ともにほぼ同等の必要性を認めている。また「市民参画協働は不必要だと思う」の割合は、市民では 2.3%、市職員では 4.0%と少ない。



市民：性・年齢別

市民参画協働の必要性を高く認めているのは、男性30歳代(70.0%)、女性50歳代(69.6%)、女性40歳代(68.1%)などの層である。男性20歳代、女性20歳代・30歳代では、40%以上の回答者が「わからない」としている。

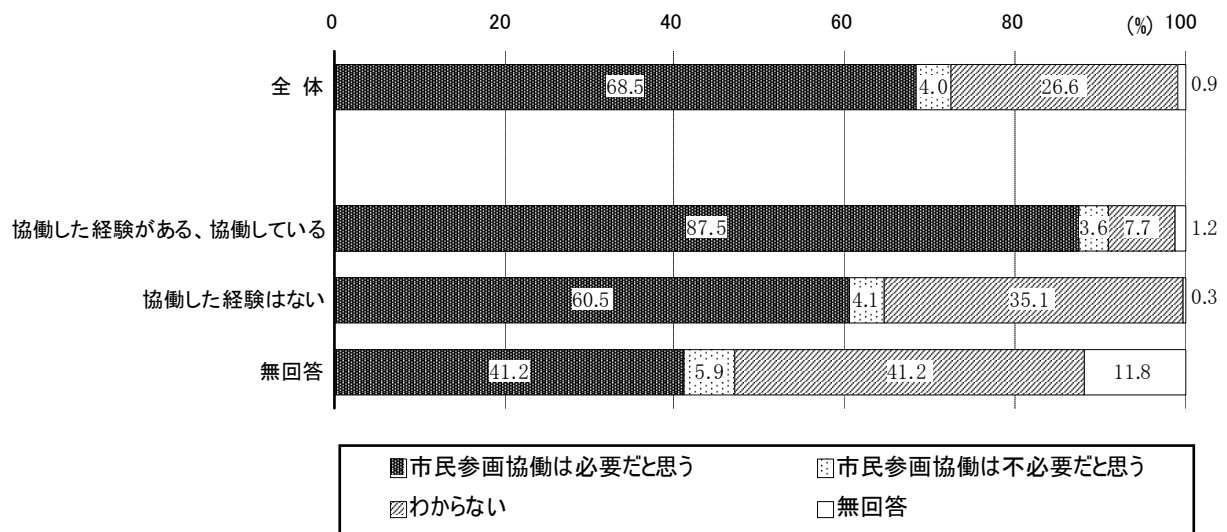
【性・年齢別】



市職員：問5 協働経験の有無との関係

問5でたずねた、業務における協働経験の有無との関係を見た。「協働した経験がある、協働している」と答えた層は「市民参画協働は必要だと思う」と回答した割合が87.5%で全体を19ポイント上回り、「わからない」の割合も7.7%と低い。市民参画協働を経験した職員は、その必要性をより強く認めている。

【協働経験の有無との関係】



民問 15 **民問 14 (職問 10) で「2.市民参画協働は不必要だと思う」と答えた方におたずねします。**
職問 11 **市民参画協働が不必要だと思う理由をおたずねします。(〇は2つまで)**

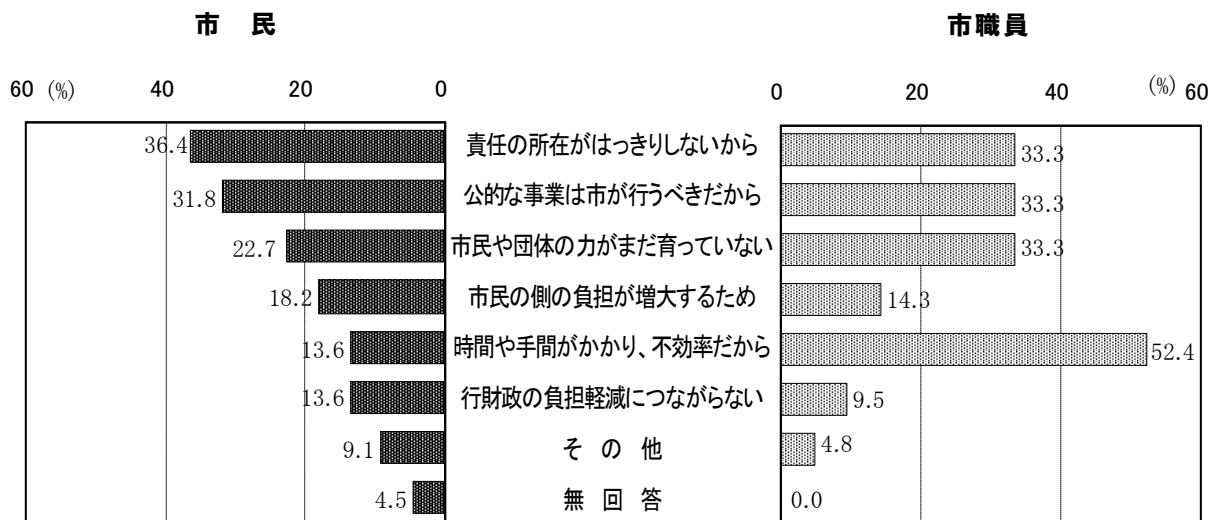
ML2/民 N=22 職 N=21

全 体

市民参画協働が不必要だとする理由として、市民では「事業に対する責任の所在がはっきりしないから」(36.4%)、「公的な事業は市が行うべきだから」(31.8%)、「市民や団体の力がまだ育っていないため」(22.7%)などが上位である。

市職員では「時間や手間がかかり、不効率だから」が52.4%を占める。

市民側では、公共サービスの供給主体としての自治体を重視するという理由が多いのに対し、市職員側では事業運営の効率性からの視点が重視されている。



民間 16 **民間 14 (職問 10)**で「1. 市民参画協働は必要だと思う」と答えた方におたずねします。
職問 12 **市民参画協働が必要だと思う理由をおたずねします。(〇は2つまで)**

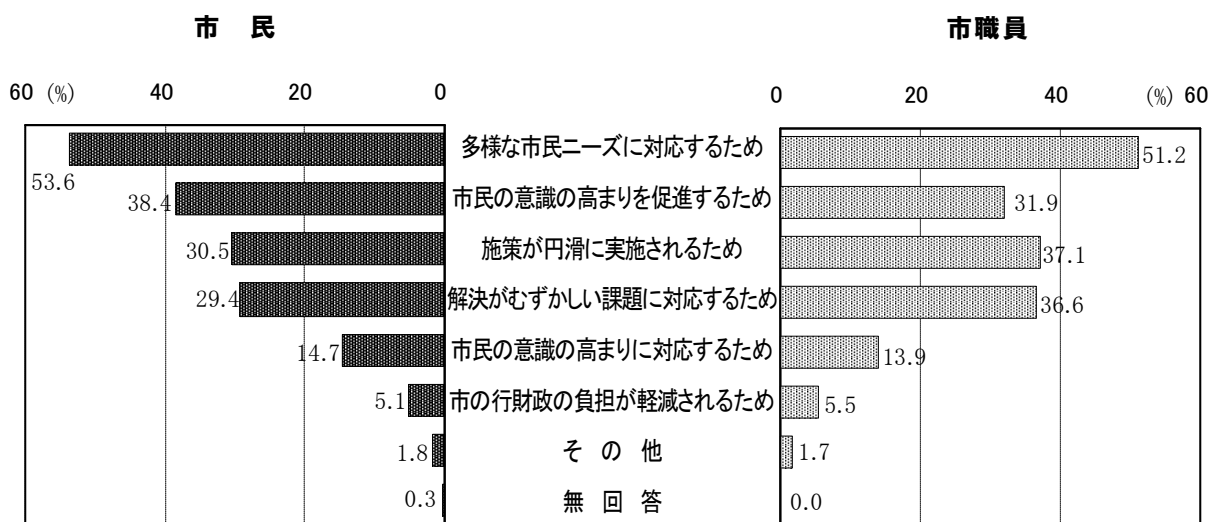
ML2/ **民** N=606 **職** N=361

全 体

市民参画協働が必要だと思う理由について、市民では「個別地域の課題解決や多様な市民ニーズに対応するため」が53.6%で最も高い。これに「市民自治に対する市民の意識の高まりを促進するため」(38.4%)、「互いに協働するほうが施策が円滑に実施されるため」(30.5%)が続く。

市職員では「個別地域の課題解決や多様な市民ニーズに対応するため」が51.2%で、市民と同じく第1位である。第2位以下は「互いに協働するほうが施策が円滑に実施されるため」(37.1%)、「市民、行政それぞれでは解決がむずかしい課題に対応するため」(36.6%)、「市民自治に対する市民の意識の高まりを促進するため」(31.9%)と続く。

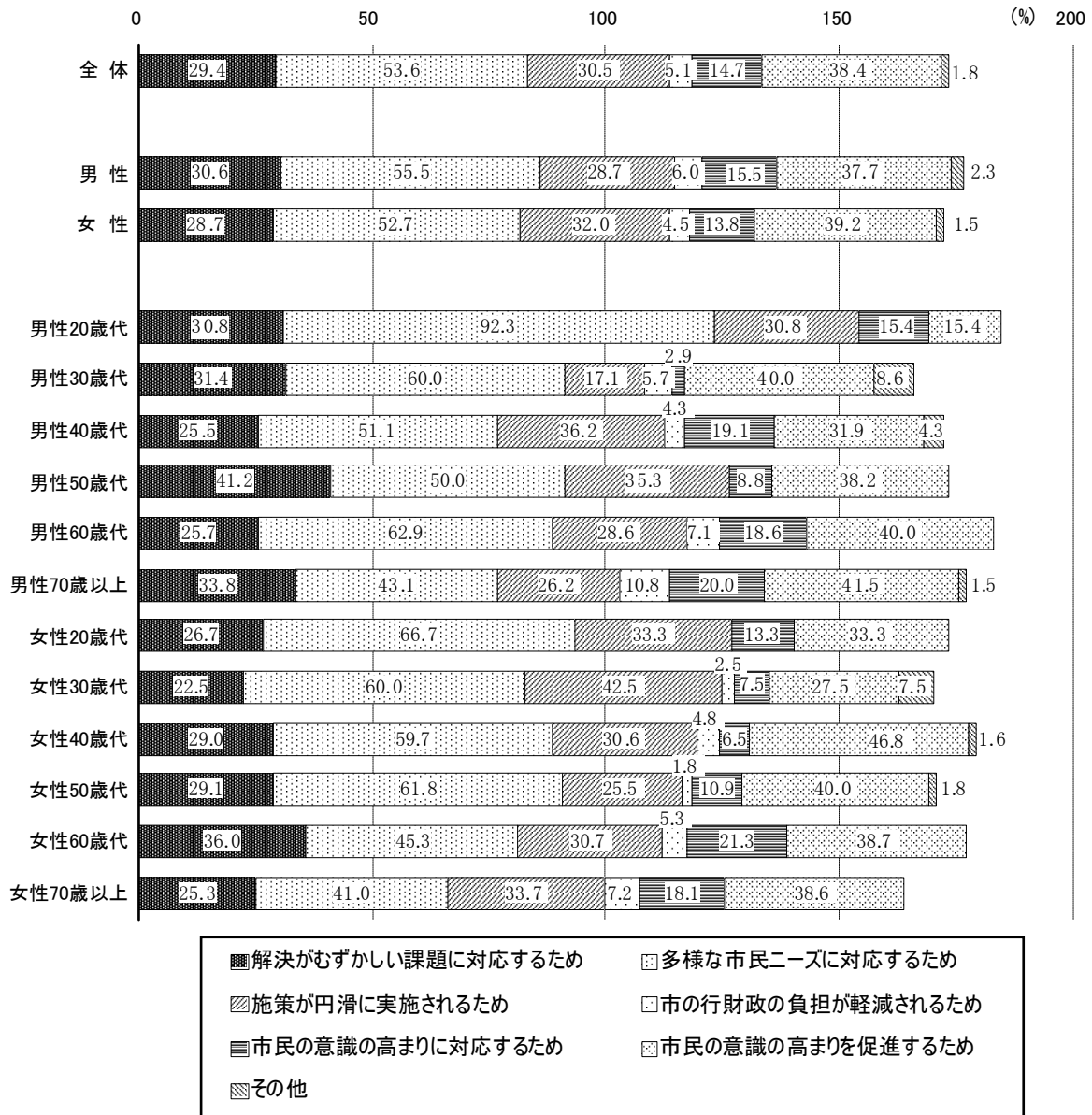
順位がやや異なるものの、市民、市職員とも市民参画協働が必要な理由については、ニーズへの細やかな対応や施策実施の円滑化などを中心としており、両者に大きな違いはないものとみることができる。



市民：性・年齢別

全体の第1位であった「個別地域の課題解決や多様な市民ニーズに対応するため」への支持は若い層で高く、男性20歳代で92.3%、女性20歳代で66.7%にのぼる。「互いに協働するほうが施策が円滑に実施されるため」は女性30歳代で高い。「市民、行政それぞれでは解決がむずかしい課題に対応するため」は男性50歳代や女性60歳代で高い。

【性・年齢別】



民問 17 市民参画協働のまちづくりを推進するために、どのような取り組みが必要だと思いますか。(〇は3つまで)
職問 13

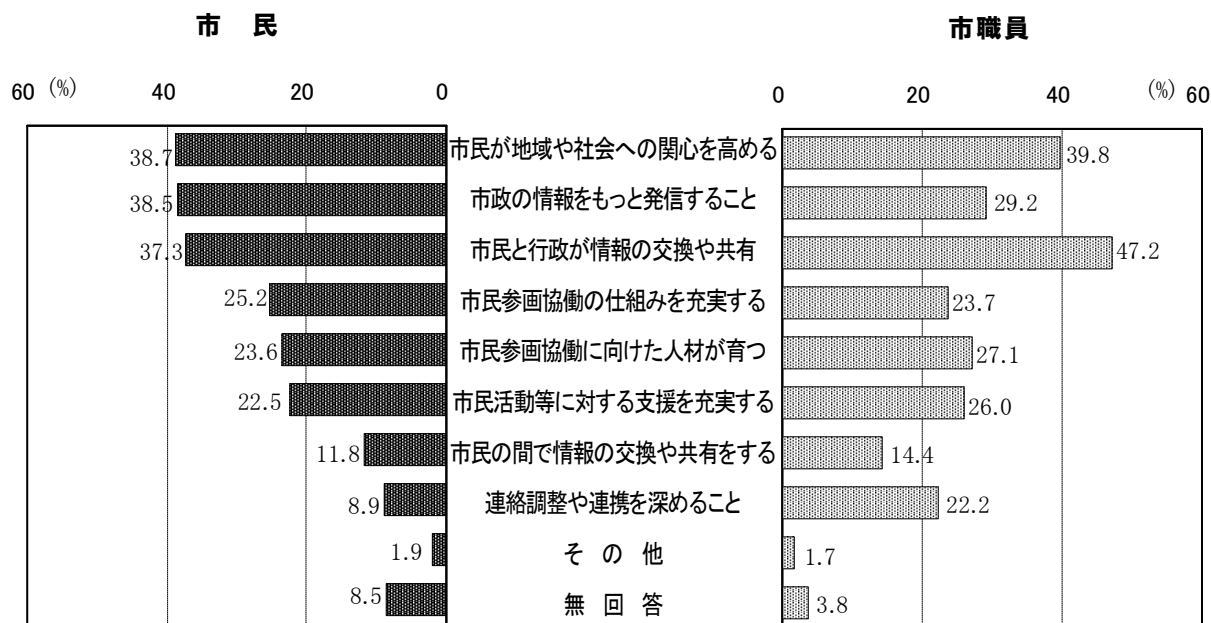
ML3/ 民 N=970 職 N=527

全 体

市民の回答では「市民が地域や社会への関心を高めること」(38.7%)、「行政が市政にかかわる情報をもっと発信すること」(38.5%)、「市民の間で積極的に情報の交換や共有をすること」(37.3%)が、ほぼ同じ割合で上位を占める。

市職員の回答では「市民の間で積極的に情報の交換や共有をすること」(47.2%)がほぼ半数を占め、「市民が地域や社会への関心を高めること」(39.8%)と「行政が市政にかかわる情報をもっと発信すること」(29.2%)がこれに続く。

市民、市職員ともに、上位3項目は「市民が関心を高める」「市の情報発信」「互いの情報共有」とする点で一致する。そして市職員ではこのなかの「互いの情報共有」が特に重視されている。

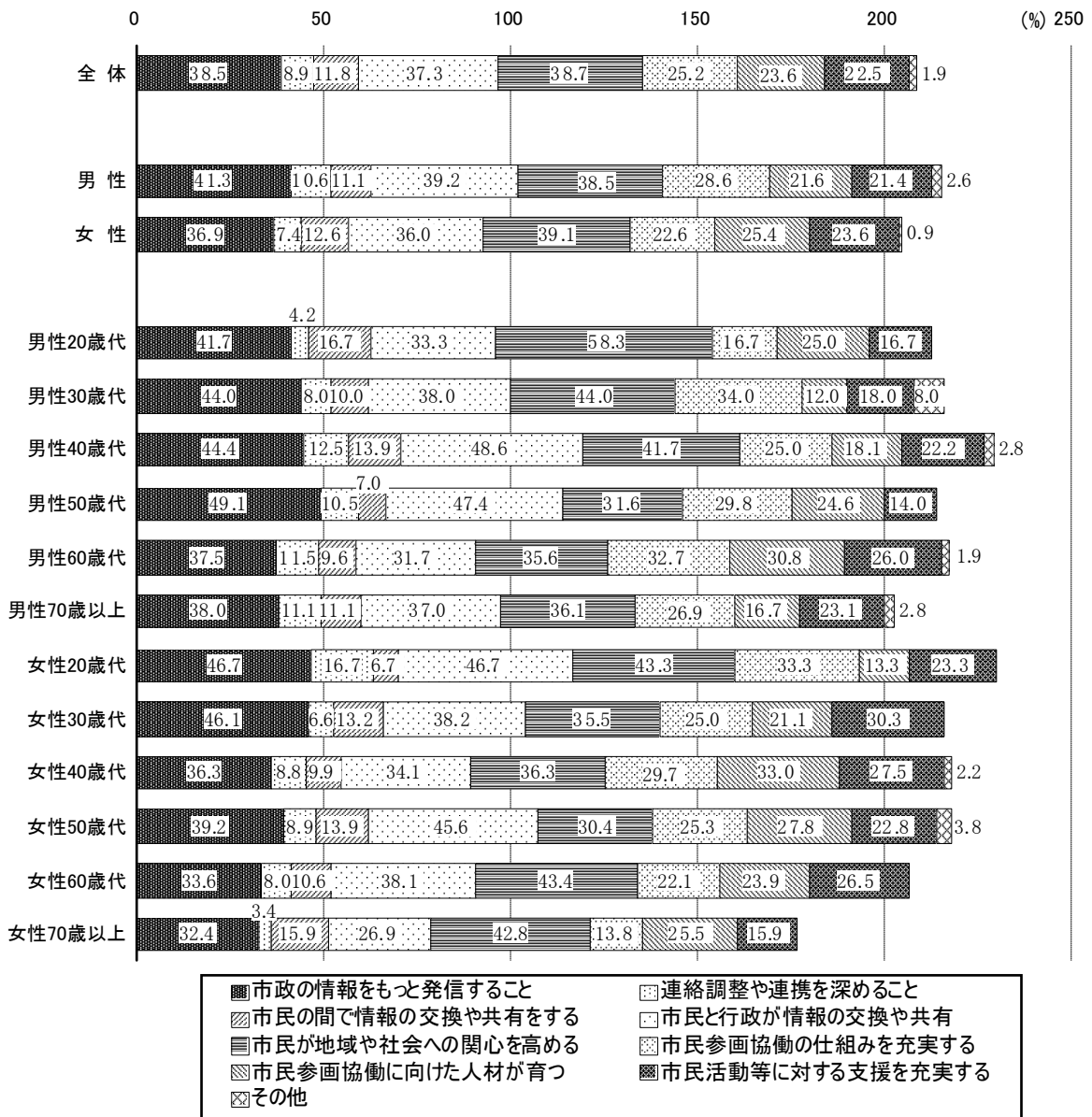


市民：性・年齢別

「市民が地域や社会への関心を高めること」は男性 20 歳代で 58.3%と高い。「行政が市政にかかわる情報をもっと発信すること」は男性 50 歳代で、また「市民の間で積極的に情報の交換や共有をすること」は男性 40 歳代でそれぞれ高い。

上位3項目をみると、順位の動きはあるが全体の上位3項目とほとんど一致している。男性 60 歳代だけは「市民参画協働にかかわる仕組みを充実すること」が第3位になっている。

【性・年齢別】



【性・年齢別上位3項目】

網かけは、全体で第4位以下の項目

	第1位	第2位	第3位
男性	市政の情報をもっと発信すること	市民と行政が情報の交換や共有	市民が地域や社会への関心を高める
女性	市民が地域や社会への関心を高める	市政の情報をもっと発信すること	市民と行政が情報の交換や共有
男性 20 歳代	市民が地域や社会への関心を高める	市政の情報をもっと発信すること	市民と行政が情報の交換や共有
男性 30 歳代	市民が地域や社会への関心を高める／市政の情報をもっと発信すること	市民と行政が情報の交換や共有	市民と行政が情報の交換や共有
男性 40 歳代	市民と行政が情報の交換や共有	市政の情報をもっと発信すること	市民が地域や社会への関心を高める
男性 50 歳代	市政の情報をもっと発信すること	市民と行政が情報の交換や共有	市民が地域や社会への関心を高める
男性 60 歳代	市政の情報をもっと発信すること	市民が地域や社会への関心を高める	市民参画協働の仕組みを充実する
男性 70 歳以上	市政の情報をもっと発信すること	市民と行政が情報の交換や共有	市民が地域や社会への関心を高める
女性 20 歳代	市政の情報をもっと発信すること／市民と行政が情報の交換や共有	市民と行政が情報の交換や共有	市民が地域や社会への関心を高める
女性 30 歳代	市政の情報をもっと発信すること	市民と行政が情報の交換や共有	市民が地域や社会への関心を高める
女性 40 歳代	市政の情報をもっと発信すること／市民が地域や社会への関心を高める	市民と行政が情報の交換や共有	市民と行政が情報の交換や共有
女性 50 歳代	市民と行政が情報の交換や共有	市政の情報をもっと発信すること	市民が地域や社会への関心を高める
女性 60 歳代	市民が地域や社会への関心を高める	市民と行政が情報の交換や共有	市政の情報をもっと発信すること
女性 70 歳以上	市民が地域や社会への関心を高める	市政の情報をもっと発信すること	市民と行政が情報の交換や共有

民問 18 市民や市職員が、市民参画協働に対する理解を深め、人材が育つようにするためには、どのような施策を充実することが必要だと思えますか。(〇は2つまで)

職問 14

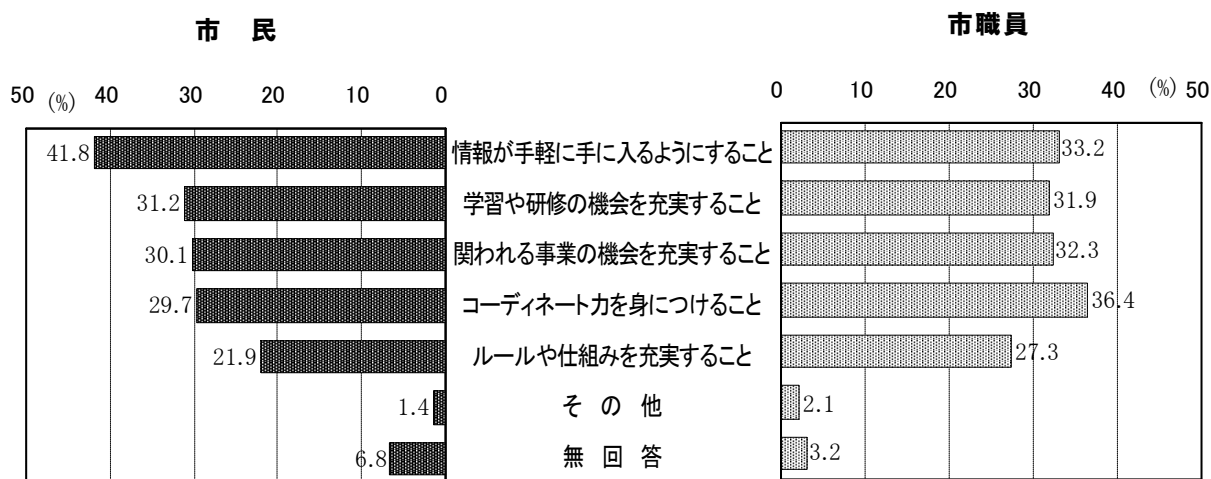
ML2/民 N=970 職 N=527

全 体

市民では「市民参画協働に関する情報が手軽に手に入るようにすること」が41.8%で最も高く、これに「市民参画協働に関する学習や研修の機会を充実すること」(31.2%)、「具体的に市民参画協働に関われる事業の機会を充実すること」(30.1%)、「さまざまな情報や人を結びつけ、とりまとめることのできるコーディネート力を身につけること」(29.7%)がいずれも3割程度の割合で続いている。

市職員においては、第1位は「さまざまな情報や人を結びつけ、とりまとめることのできるコーディネート力を身につけること」(36.4%)であるが、これを数ポイント下回って「市民参画協働に関する情報が手軽に手に入るようにすること」(33.2%)、「具体的に市民参画協働に関われる事業の機会を充実すること」(32.3%)、「市民参画協働に関する学習や研修の機会を充実すること」(31.9%)が続く。

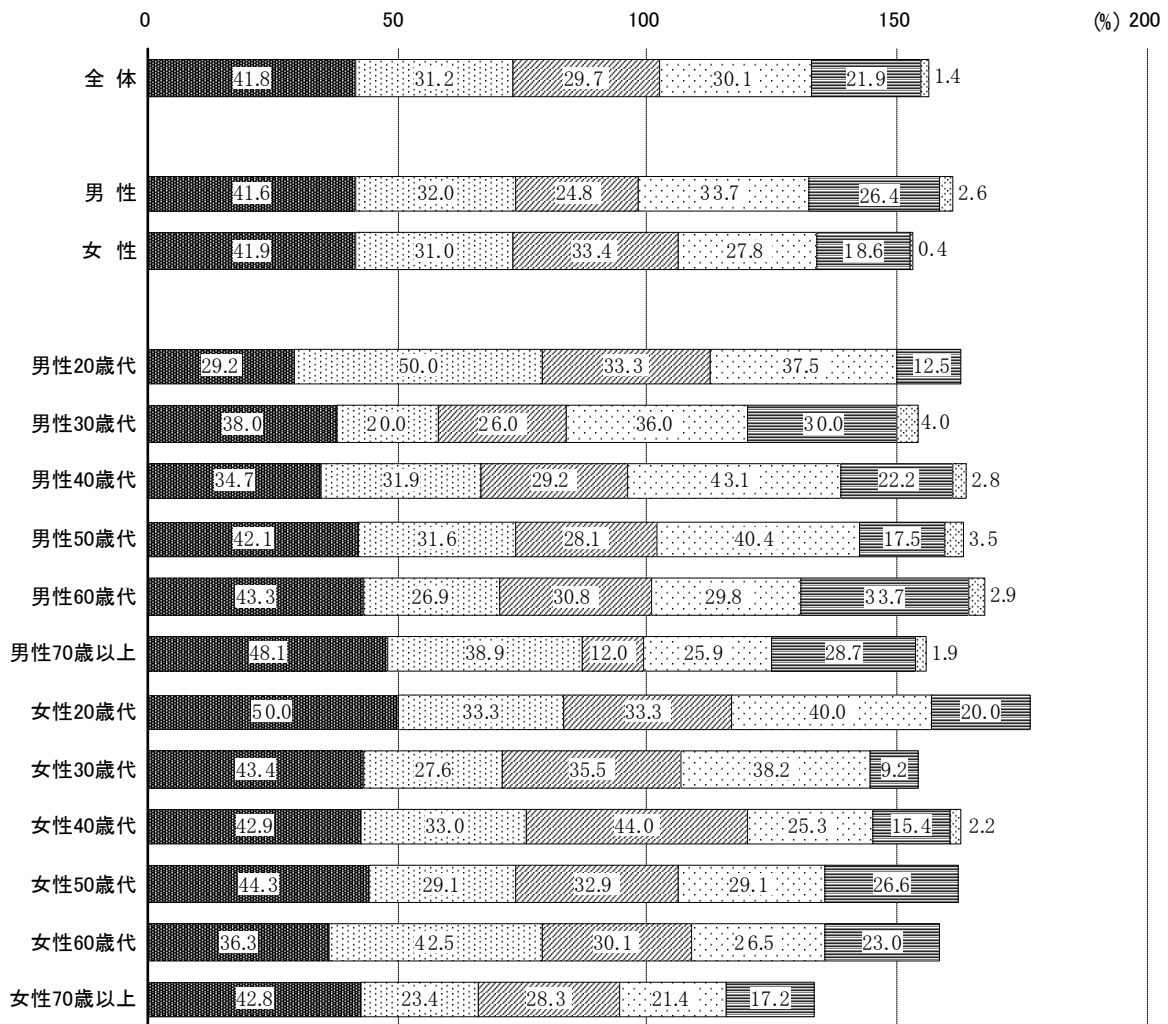
市民が最も充実することが必要だと考える施策は「情報の入手」、市職員が最も必要とする施策は「コーディネート力」であるが、ほかの施策も大きな差がなく支持されている。



市民：性・年齢別

性・年齢別に、全体を10ポイント以上上回るものをみると、「市民参画協働に関する学習や研修の機会を充実すること」については男性20歳代と女性60歳代、「具体的に市民参画協働に関われる事業の機会を充実すること」については男性40歳代・50歳代、「さまざまな情報や人を結びつけ、とりまとめることのできるコーディネート力を身につけること」については女性40歳代などとなっており、性・年齢によって充実すべき施策の力点が異なっている。

【性・年齢別】



- 情報が手軽に手に入るようにする
- 学習や研修の機会を充実すること
- コーディネート力を身につけること
- 関われる事業の機会を充実すること
- ルールや仕組みを充実すること
- その他

民問 19 市民活動や地域活動が活発になるためには、どのような支援策を充実することが必要だと思いますか。(〇は3つまで)
職問 15

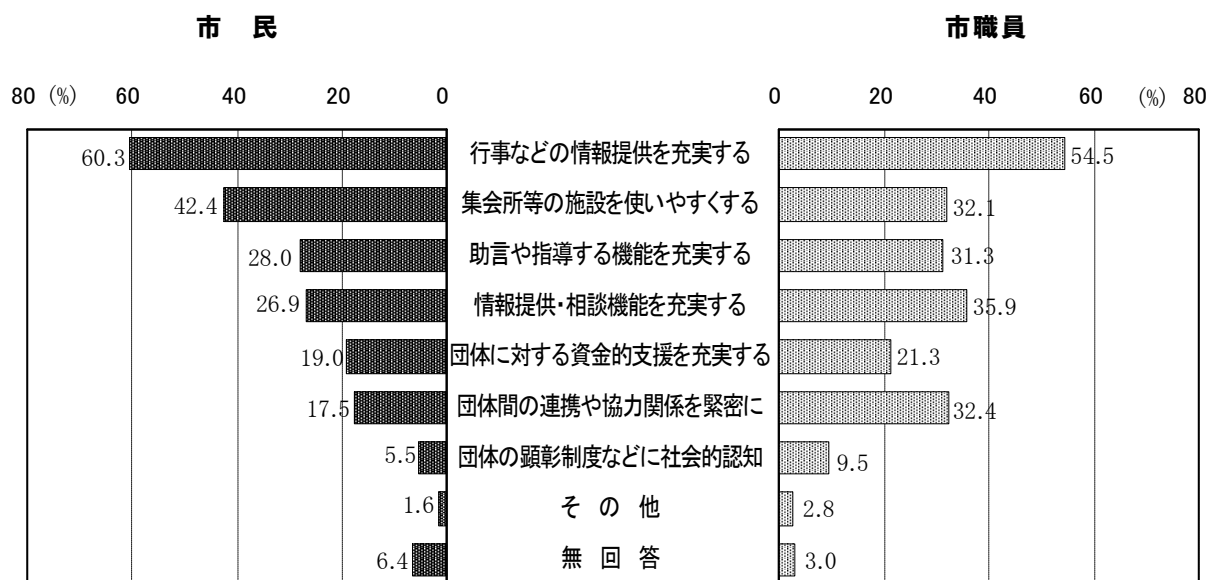
ML3/民 N=970 職 N=527

全 体

市民では「市内の団体や行事などについての情報提供を充実する」が 60.3%で最も高い。「集会所などの施設をより使いやすくする」が 42.4%でこれに次いでいる。

市職員においても「市内の団体や行事などについての情報提供を充実する」が 54.5%で第1位であるが、第2位以下は「団体の立ち上げや運営などについての情報提供・相談機能を充実する」(35.9%)、「団体間の連携や協力関係を緊密にする」(32.4%)、「集会所などの施設をより使いやすくする」(32.1%)、「専門家の派遣など助言や指導する機能を充実する」(31.3%)がほぼ同じ割合で続いている。

市民においては「団体・行事の情報」と「使いやすい設備」が優先的に望まれている。市職員においても「団体・行事の情報」が最も重要な支援策として考えられている。

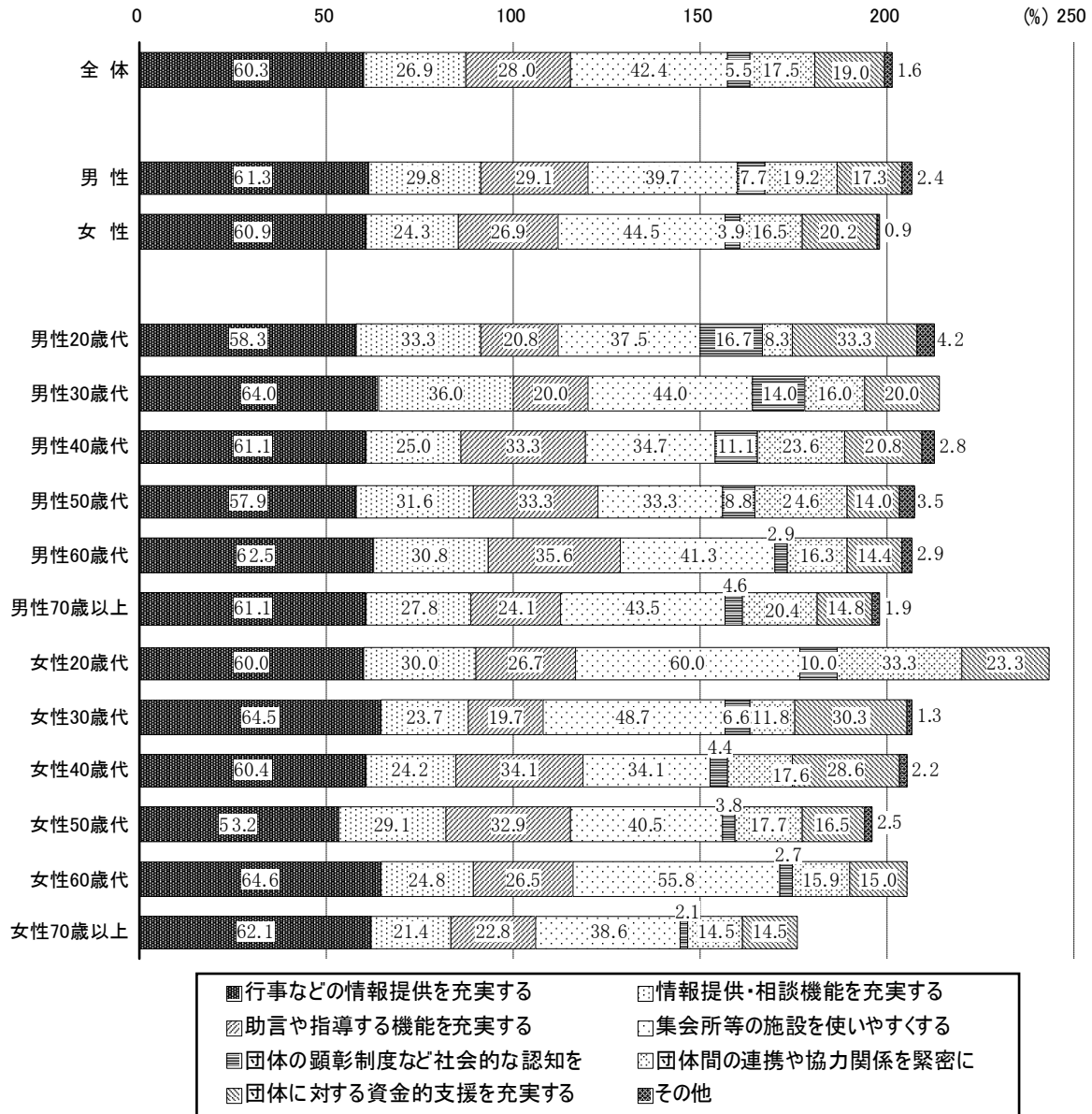


市民：性・年齢別

全体の第1位「市内の団体や行事などについての情報提供を充実する」と第2位「集会所などの施設をより使いやすくする」はすべての性・年齢別で同じ順位である。特に「集会所などの施設をより使いやすくする」については女性20歳代・60歳代で全体を10ポイント以上上回っている。

全体では第3位の「専門家の派遣など助言や指導する機能を充実する」に代わって、男性20歳代・30歳代・70歳以上では「団体の立ち上げや運営などについての情報提供・相談機能を充実する」が、男性20歳代と女性30歳代では「団体に対する資金的支援を充実する」が、そして女性20歳代では「団体間の連携や協力関係を緊密にする」が、それぞれ第3位に位置している。

【性・年齢別】



【性・年齢別上位3項目】

網かけは、全体で第4位以下の項目

	第1位	第2位	第3位
男性	行事などの情報提供を充実する	集会所等の施設を使いやすくする	情報提供・相談機能を充実する
女性	行事などの情報提供を充実する	集会所等の施設を使いやすくする	助言や指導する機能を充実する
男性 20 歳代	行事などの情報提供を充実する	集会所等の施設を使いやすくする	情報提供・相談機能を充実する／団体に対する資金的支援を充実する
男性 30 歳代	行事などの情報提供を充実する	集会所等の施設を使いやすくする	情報提供・相談機能を充実する
男性 40 歳代	行事などの情報提供を充実する	集会所等の施設を使いやすくする	助言や指導する機能を充実する
男性 50 歳代	行事などの情報提供を充実する	集会所等の施設を使いやすくする	助言や指導する機能を充実する
男性 60 歳代	行事などの情報提供を充実する	集会所等の施設を使いやすくする	助言や指導する機能を充実する
男性 70 歳以上	行事などの情報提供を充実する	集会所等の施設を使いやすくする	情報提供・相談機能を充実する
女性 20 歳代	行事などの情報提供を充実する／集会所等の施設を使いやすくする		団体間の連携や協力関係を緊密に
女性 30 歳代	行事などの情報提供を充実する	集会所等の施設を使いやすくする	団体に対する資金的援助を充実する
女性 40 歳代	行事などの情報提供を充実する	集会所等の施設を使いやすくする	助言や指導する機能を充実する
女性 50 歳代	行事などの情報提供を充実する	集会所等の施設を使いやすくする	助言や指導する機能を充実する
女性 60 歳代	行事などの情報提供を充実する	集会所等の施設を使いやすくする	助言や指導する機能を充実する
女性 70 歳以上	行事などの情報提供を充実する	集会所等の施設を使いやすくする	助言や指導する機能を充実する

6

市民参画協働の達成状況〔市民・市職員共通〕

民問 20 市民参画協働にかかわる下の(1)～(8)について、芦屋市ではどの程度だと思
職問 16 いますか。(各問 1～4 のうち、○は1つ)

SA/民 N=970 職 N=527

全体

全体的には「おおむねできている」の割合は市職員が市民より高く、「できていない」の割合は市民が市職員より高い。また「できているが不十分」の割合は、市職員のほうが高い場合が多い。

「おおむねできている」と回答した割合を、高いものからみると、市民では(1)市政に関するさまざまな情報が、市民に対してわかりやすくまた十分に提供されている(15.1%)、(2)市民参画協働に関する市の情報が、市民に対してわかりやすくまた十分に提供されている(6.3%)、(3)市民参画協働にかかわる団体や催しなどの情報が、市民に対してわかりやすくまた十分に提供されている(5.8%)、(7)市民活動や地域活動に取り組むための場が充分にある(5.6%)、などとなり、情報提供や活動の場の提供については、比較的高く評価されている。

市職員においては、(1)(3)(7)は市民と同様に上位4項目に入っており、ほかに、(6)市の施策や施策案に対して、市民が意見を伝える機会が充分に開かれている、が第2位に位置する。

「できていない」と回答した割合をみると、市民では、「おおむねできている」の割合でも上位であった(2)(3)のほかに、(8)市民と市が協力し合っって市内や地域の課題解決に取り組む機会が充分にある、と(6)が低い評価の項目として位置する。

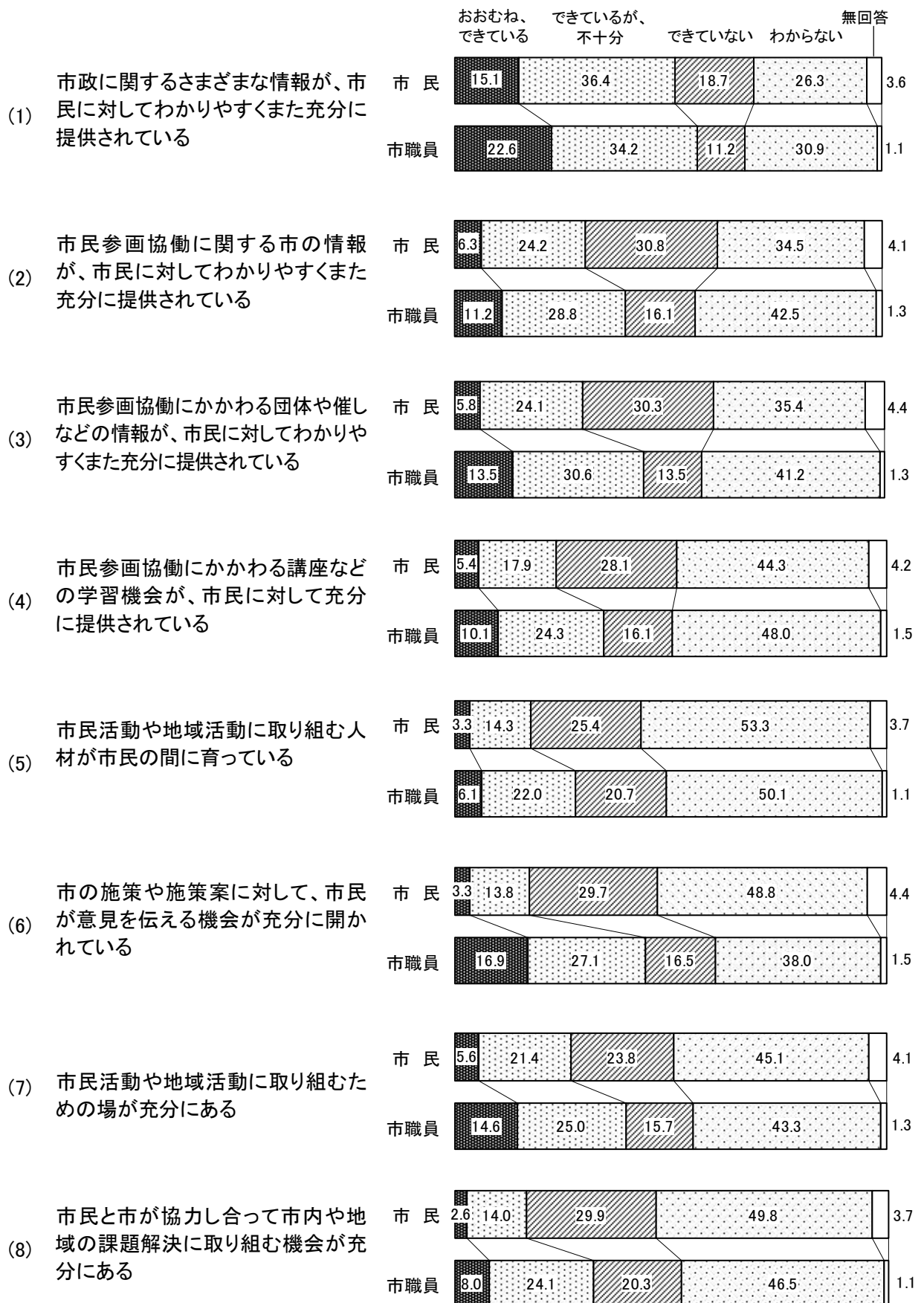
市職員では、(5)市民活動や地域活動に取り組む人材が市民の間に育っている、(8)、(6)、(2)、(4)市民参画協働にかかわる講座などの学習機会が、市民に対して十分に提供されている、が「できていない」割合の高い項目である。このうち(6)は、「おおむねできている」の上位にも位置していた。

【市民／市職員 「おおむねできている」 割合上位4項目】

	第1位	第2位	第3位	第4位
市民	(1)市政に関するさまざまな情報が、市民に対してわかりやすくまた十分に提供されている	(2)市民参画協働に関する市の情報が、市民に対してわかりやすくまた十分に提供されている	(3)市民参画協働にかかわる団体や催しなどの情報が、市民に対してわかりやすくまた十分に提供されている	(7)市民活動や地域活動に取り組むための場が充分にある
市職員	(1)市政に関するさまざまな情報が、市民に対してわかりやすくまた十分に提供されている	(6)市の施策や施策案に対して、市民が意見を伝える機会が充分に開かれている	(7)市民活動や地域活動に取り組むための場が充分にある	(3)市民参画協働にかかわる団体や催しなどの情報が、市民に対してわかりやすくまた十分に提供されている

【市民／市職員 「できていない」 割合上位4項目】

	第1位	第2位	第3位	第4位
市民	(2)市民参画協働に関する市の情報が、市民に対してわかりやすくまた十分に提供されている	(3)市民参画協働にかかわる団体や催しなどの情報が、市民に対してわかりやすくまた十分に提供されている	(8)市民と市が協力し合っ て市内や地域の課題解決 に取り組む機会が充分に ある	(6)市の施策や施策案に対 して、市民が意見を伝える 機会が充分に開かれてい る
市職員	(5)市民活動や地域活動に 取り組む人材が市民の間 に育っている	(8)市民と市が協力し合っ て市内や地域の課題解決 に取り組む機会が充分に ある	(6)市の施策や施策案に対 して、市民が意見を伝える 機会が充分に開かれてい る	(2)市民参画協働に関する 市の情報が、市民に対し てわかりやすくまた充分に 提供されている (4)市民参画協働にかかわ る講座などの学習機会 が、市民に対して充分に提 供されている



加重点方式による比較

市民参画協働の達成状況に対する評価を一元的にみるために、つぎのように加重配点した。

- 「おおむね、できている」…… 1%につき、プラス2点
- 「できているが不十分」…… 1%につき、プラス1点
- 「できていない」…… 1%につき、マイナス2点
- 「わからない」「無回答」…… 0点

この加重点方式によると、市民では(1)(7)(2)(3)などの情報提供や活動のための場の提供などは比較的評価が高い。また、(5)の人材育成、(6)市民が意見を伝える機会、(8)協働の機会などの評価は低い。

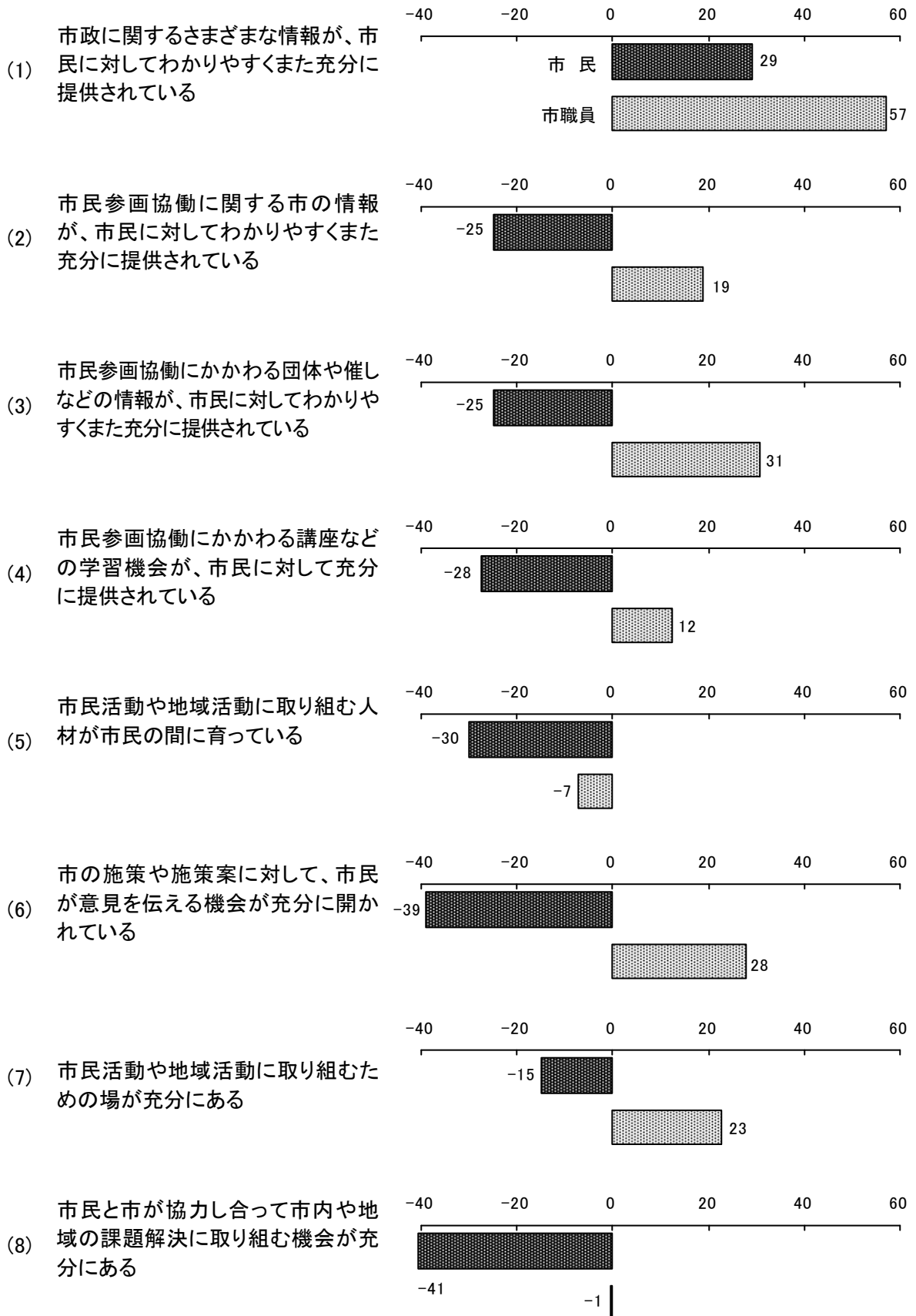
市職員と比較すると、(7)活動の場提供、(2)市の情報提供については市職員の評価のほうが相対的に低いほか、(3)団体などの情報提供、(6)市民が意見を伝える機会については市職員の評価のほうが高い。市民と市職員との加重点の差をみると、(6) (67点)、(3) (56点)、(2) (44点)の値が大きく、これらにおいて意見のギャップがみられる。

【加重点方式による整理】

市民の順位	市民参画協働に関わる事項	市職員の順位	加重得点の差 (市職員-市民)
第1位	(1)市政に関するさまざまな情報が、市民に対してわかりやすくまた十分に提供されている	第1位	28
第2位	(7)市民活動や地域活動に取り組むための場が充分にある	第4位	38
第3位	(2)市民参画協働に関する市の情報が、市民に対してわかりやすくまた十分に提供されている	第5位	44
第4位	(3)市民参画協働にかかわる団体や催しなどの情報が、市民に対してわかりやすくまた十分に提供されている	第2位	56
第5位	(4)市民参画協働にかかわる講座などの学習機会が、市民に対して十分に提供されている	第6位	40
第6位	(5)市民活動や地域活動に取り組む人材が市民の間に育っている	第8位	23
第7位	(6)市の施策や施策案に対して、市民が意見を伝える機会が充分に開かれている	第3位	67
第8位	(8)市民と市が協力し合って市内や地域の課題解決に取り組む機会が充分にある	第7位	40

加重点

上段:市民、下段:市職員



市民：性・年齢別（加重点）

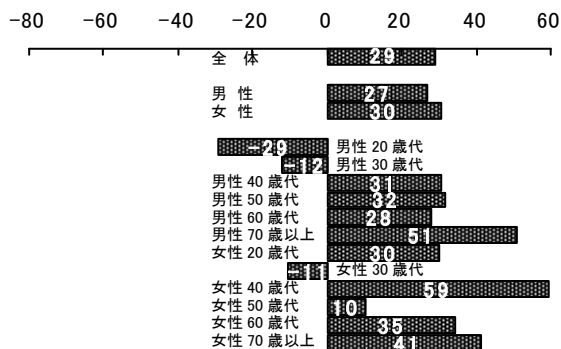
性・年齢別に加重点をみると、男性の20歳代と30歳代が多く、多くの項目で低評価を下している。このほかに男性50歳代や女性50歳代、女性30歳代などで低い評価がみられる。

【評価の低い性・年齢層（加重点）】

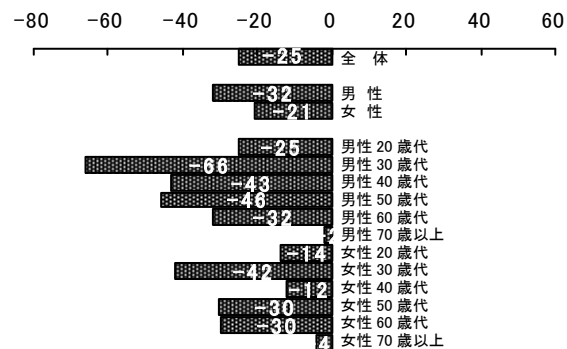
市民参画協働に関わる事項	最も低評価	2番目に低評価	3番目に低評価
(1) 市政に関するさまざまな情報が、市民に対してわかりやすくまた十分に提供されている	男性 20 歳代	男性 30 歳代	女性 30 歳代
(2) 市民参画協働に関する市の情報が、市民に対してわかりやすくまた十分に提供されている	男性 30 歳代	男性 50 歳代	男性 40 歳代
(3) 市民参画協働にかかわる団体や催しなどの情報が、市民に対してわかりやすくまた十分に提供されている	男性 50 歳代 / 男性 30 歳代		女性 30 歳代
(4) 市民参画協働にかかわる講座などの学習機会が、市民に対して十分に提供されている	男性 30 歳代	男性 20 歳代	男性 50 歳代
(5) 市民活動や地域活動に取り組む人材が市民の間に育っている	男性 30 歳代	男性 20 歳代	男性 60 歳代
(6) 市の施策や施策案に対して、市民が意見を伝える機会が十分に開かれている	男性 30 歳代	女性 50 歳代	男性 50 歳代
(7) 市民活動や地域活動に取り組むための場が充分にある	男性 30 歳代	男性 50 歳代	男性 20 歳代
(8) 市民と市が協力し合って市内や地域の課題解決に取り組む機会が充分にある	男性 30 歳代	男性 60 歳代	男性 50 歳代 / 女性 50 歳代

加重点

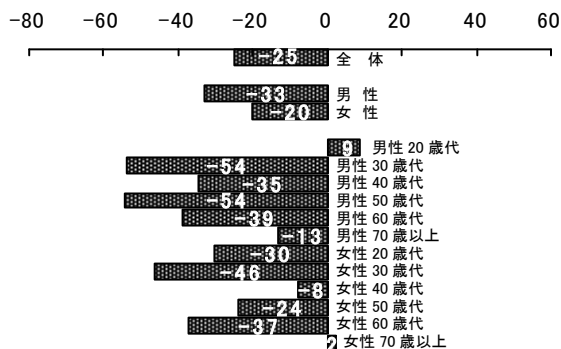
(1) 市政に関するさまざまな情報が、市民に対してわかりやすくまた十分に提供されている



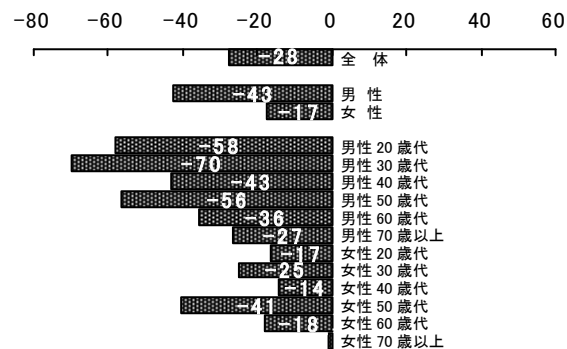
(2) 市民参画協働に関する市の情報が、市民に対してわかりやすくまた十分に提供されている



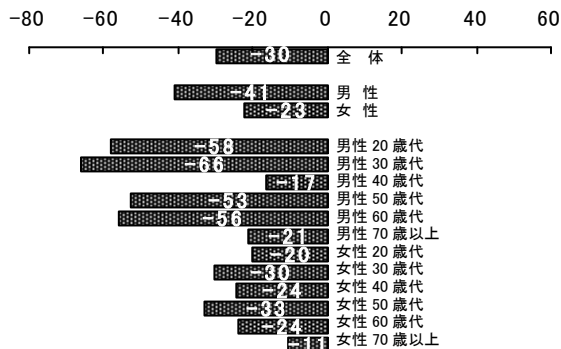
(3) 市民参画協働にかかわる団体や催しなどの情報が、市民に対してわかりやすくまた十分に提供されている



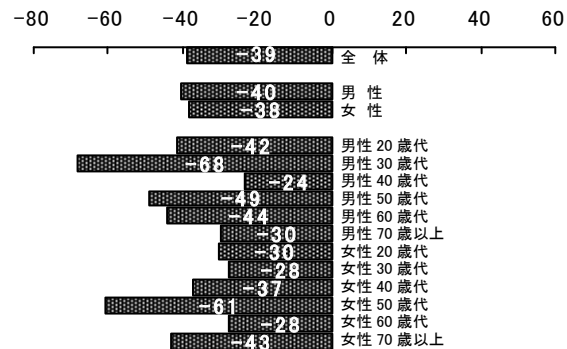
(4) 市民参画協働にかかわる講座などの学習機会が、市民に対して十分に提供されている



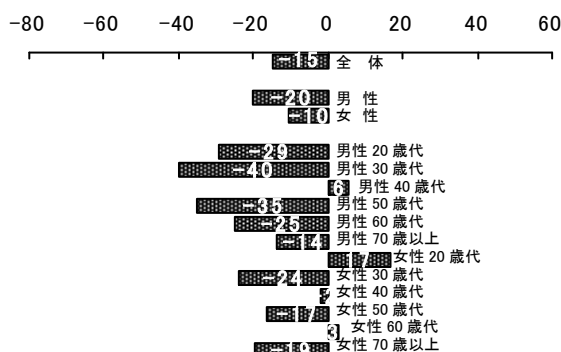
(5) 市民活動や地域活動に取り組む人材が市民の間に育っている



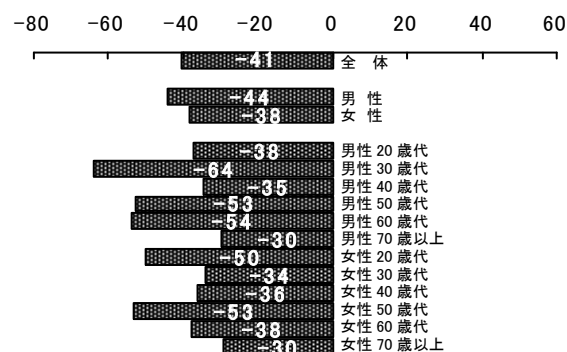
(6) 市の施策や施策案に対して、市民が意見を伝える機会が十分に開かれている



(7) 市民活動や地域活動に取り組むための場が充分にある



(8) 市民と市が協力し合って市内や地域の課題解決に取り組む機会が充分にある



7

市民参画協働についての意見 [市民・市職員共通]

民間 23 市民参画協働についてお考えのことをなんなりとご記入ください。

職問 17

自由記述

ひとりの回答者の意見内容が複数にわたる場合は、複数の意見として扱い、これらを市民・市職員ごとに分類・整理した。

市民

市民から寄せられた意見を、次のように整理・分類した。

【市民意見の分類】

大分類	小分類	意見数
a	市民参画協働について	91
	a1 市民参画協働に取り組みたい、対応・参加できる	8
	a2 市民参画協働に関心あり、期待している	10
	a3 市民参画協働を知らなかった、わかりにくい、参加できない	32
	a4 市民参画協働を推進するために（改善案・提案）	35
	a5 市民参画協働に関心がない、参加したくない	6
b	市の広報や情報提供について	44
	b1 広報・情報提供の方法について（改善案・提案）	15
	b2 広報・情報提供の強化・充実を	29
c	パブコメについて	7
d	リードあしやについて	7
e	アンケートについて	13
f	その他（他分野での要望など）	52

(a)市民参画協働についての意見は 91 で、このうち、(a4)市民参画協働を推進するための意見や提案に属するものが 35 で最も多かった。具体的には次のような意見がある。

- ・住民参加行事などでも時間のある高齢者ばかりであったりして活力に欠けることが多くあるように思う。若年層などが参画しやすい制度づくりや時間などにしないと、地域での世代格差や、ますます行事などへの参加率が低下するように思う。
- ・どの町でどのような諸問題があり、それに対し他市情報、アイデア提出内容等、協議状況がプロセスを含み理解できるようなものがあれば、それまで無知だった第三者でも参画しやすい。
- ・皆、自分の住んでいる地域が良くなってほしいと思うはずですが。そういう人たちをどう取り込んでいくかが難しいですね。同じ人がいくつもの団体や活動に参加しているのが実態でしょうか。気軽に参加できる簡単なことから始められるように、ハードルを下げて広く募集すれば良いのではないのでしょうか。
- ・芦屋市には58町もありながら、横の連絡、情報交換等あまり見られないように思われる。町内会を充実して思い切った意見を言える空気を作り出すべきである。こういう意見等々をまとめ、市に献策するべきである。

つぎに、(a3)市の提唱する「市民参画協働」がわかりにくいことや、それを知らなかったという意見が多い。

- ・協働は行政と市民（個人）との関係ですか。そこに別の団体なり入りこんで更なる広がりを持つ協働を行っているのか。具体的活動内容が見えない。市の広報に掲載されていますか。
- ・「市民参画協働」という言葉を今回のアンケートで初めて知った。具体的にどんなことをしているのか、目指しているのかよくわからない。市の広報など、目を通していてもつもりだったが…。

大分類として、(a)市民参画協働についての意見について多かったのは、(b)市の広報や情報提供についての意見であった((f)その他を除く)。このうち、(b1)広報や情報提供についての改善案や提案としてはつぎのようなものがある。

- ・広報あしやが、現在、新聞折り込みとなっていますが、現状新聞をとっているのは40%と言われており、後の60%はコープや郵便局や集会所に取りに行かなければなりません。高齢者でなくてもかなり手間です。何とか各戸に配布できるようにはなりませんか。県民だよりや市議会だよりは、全戸配布されています。
- ・働いているため、平日はほとんど芦屋にいない。市政ニュースも2種類（働いている人用、平日から家にいる人用）ほど分けて、いろんな情報を掲載してほしい。

(b2)広報・情報提供全般が不十分であるのでその強化や充実を訴える意見としては、つぎのようなものがある。

- ・情報は細かく、市民に行き渡るように考えていただきたいと思います。一部の方だけの行動力、情報力につながるような内容の公表や伝達の仕方は、市民の意識が高まるとは思えません。若い世代から高齢者まで、すべての世代に対しての情報を伝える

方法を模索してみるべきです。

- ・私は時間的な理由により、市役所まで広報を取りに行ったり、パソコンで見ることができても（疎かになっているが）、高齢者などの情報弱者はもっと親切に直接渡してあげたり、声かけしないと取り残されてしまうと思う。他県出身者も同様。情報が乏しいため、関心も湧かない。以上のような情報提供をしっかりとした上で、市民参画に取り組むべき。

(c)パブリックコメントについて、では、パブリックコメント制度を知らなかったという意見などがある。(d)リードあしやについて、では、利用させてもらっているという意見やリードあしやを知らなかったという意見がある。(e)このアンケートについて、では、肯定的意見と批判的意見がある。(f)その他では、行政の各部門への要望が多く、高齢者・障がい者に関わる福祉関係やリサイクルなどを含む環境関係への意見が比較的多い。

市職員

市職員から寄せられた意見を、次のように整理・分類した。

【市職員意見の分類】

分 類	意見数
a 市民参画協働についての認識、意識	10
b 市民参画協働にかかわる仕組みや体制について	6
c 市民の意向・意見のとらえかた	3
d 広報・情報提供について	2
e 市民参画協働のデメリットについて	2
f 市民参画協働推進のために	2
g その他	2

(a)市民参画協働についての認識や意識についての意見では、市職員の立場からのものと市民の立場からのものがある。

- ・市民参画協働の発展型である「地域の課題は地域住民で解決する」仕組みづくりは、大変有意義である。この仕組みが機能すると、市民は「自らの課題を自らで解決」することになる。その時、市職員にとって最も大事なことは、職員が「市民感覚、市民目線」を持つことではないか。市民が自らの課題を、自らで解決する姿勢を示している時に、市職員が「お役所仕事」「役所感覚」では納得が得られないはずである。
- ・もっと市民の方たちが、協働と参画の意義を知る機会があったり、行政側からの資金援助や仕事の提供などの基盤があれば良いなと思いました。

(b)仕組みや体制について、では、コーディネーション機能や庁内連携の重要性についての意見などがある。

- ・居住している神戸市東灘区では、地域の幼・小・中及び地域の行事が一覧表になり、近くのコープや集会所等に月毎（学期毎）に貼りだされています。各事業所でどんなことを、いつ、どのようにしてなされているのかを、先ず地域の方に知ってもらうことが大切だと思います。しかし各事業所は、それぞれの業務で手一杯な所があり、地域の連携を更に広げていくことには、限界もあると思われます。コーディネーター等の制度があると良いかと思います。
- ・市民参画協働を考える前に、庁内の協働連携ができていない。また、形だけの協働連携ではだめだと思います。

(c)市民の意向・意見のとらえかたについて、では、つぎのような意見がみられた。

- ・市民参画協働をすべき分野と、そうでない分野は明確に線引きすべき。何でもかんでも市民を入れてというのは、賛同できない。市民協働で得られる市民の声は、あくまで「一部」の市民の意見だということを認識すべき。
- ・ごく一部の人の意見に市政が影響されてはまずい。関心のない人たちも悪いが、ごく一握りの声の大きい（積極的に参加する）人の意見に反対の意見を持つ人も、大勢いると思う。行政も市民の意見を聞いたというステップを踏むことが目的となっており、市民の総意とはかけ離れていることがないか、常に意識して意見を汲み上げる必要あり。

(d)広報・情報提供については、その機能を有効に活用することなどの意見がある。

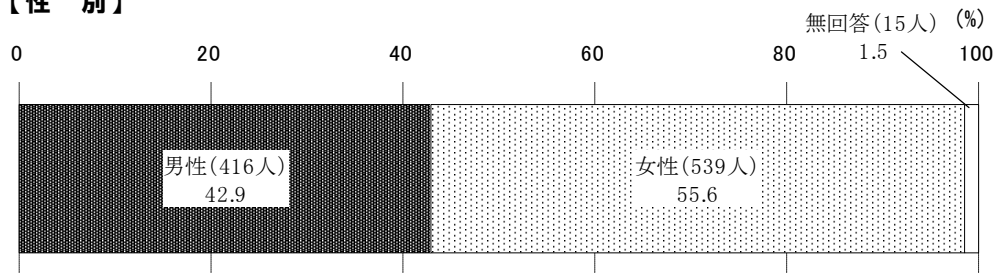
(f)市民参画協働推進のために、では、市民が参画協働しやすい環境を整備することについての意見がある。

- ・平日に働きかけても、市民参画が十分かどうか。休日に参加を求めては、平日に参加できる人員は限られている。休日利用の一考をして、市民のニーズが幅広くとれるのではないのでしょうか。
- ・市民活動に参加したいと思う気持ちはあっても、フルタイムで働いている人（特に女性も含め）にとっては、なかなかその時間がとれないと思う人も多いのでは？ そのような人に対しての時間、場所、機会の工夫も必要であると思います。

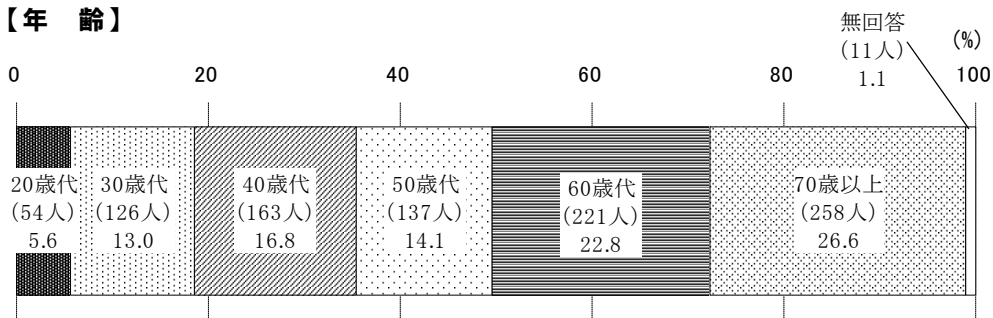
回答者の属性

[市民]

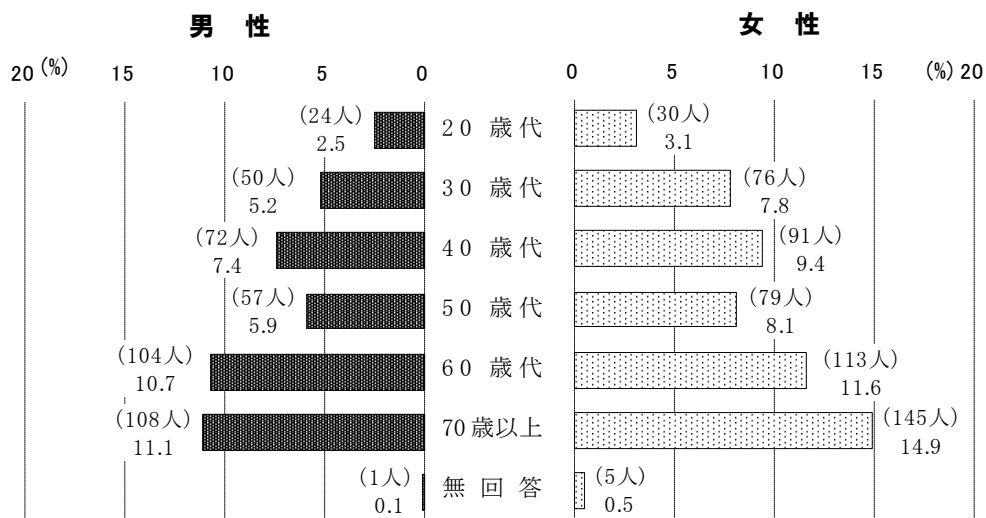
【性別】



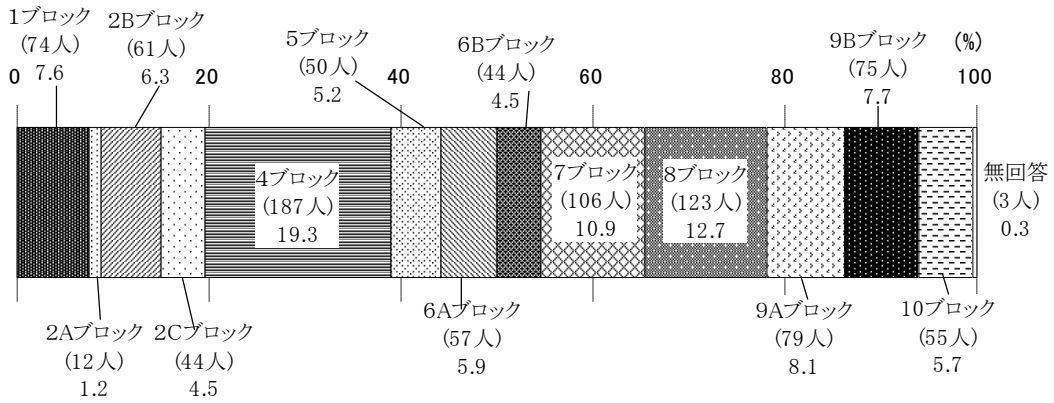
【年齢】



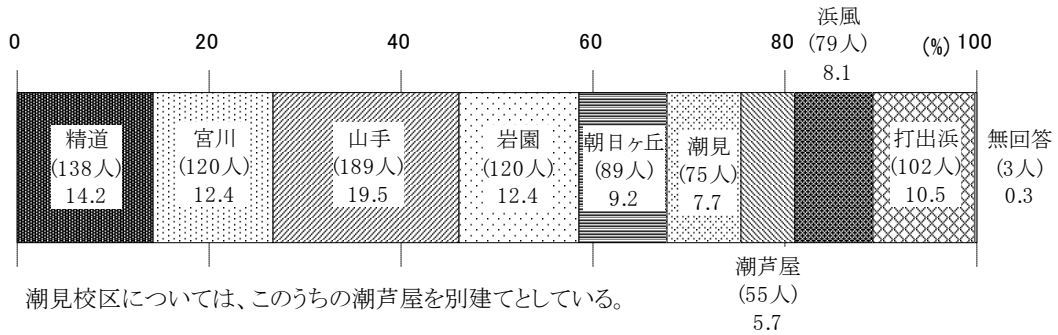
【性別×年齢】



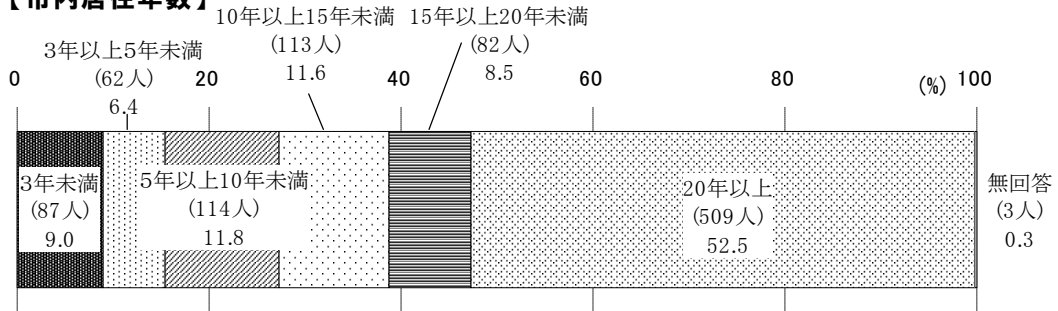
【居住地：ブロック別】



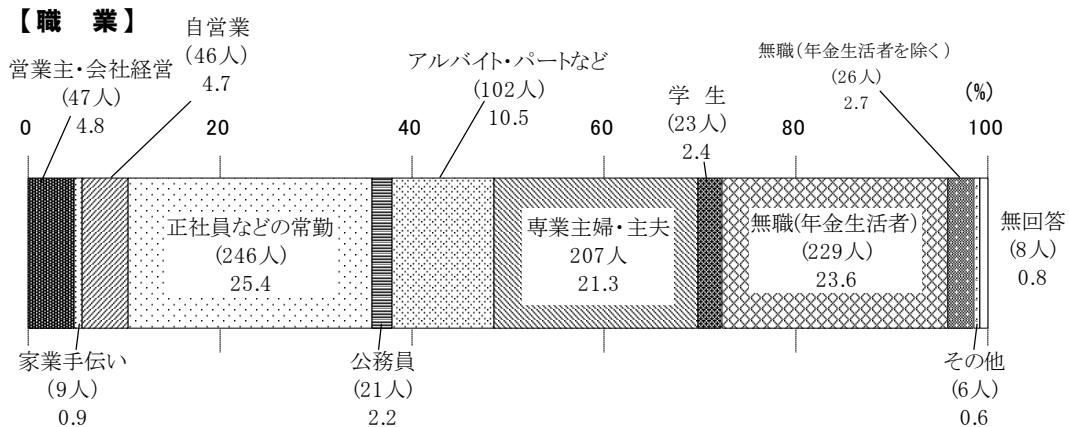
【居住地：小学校区別】



【市内居住年数】

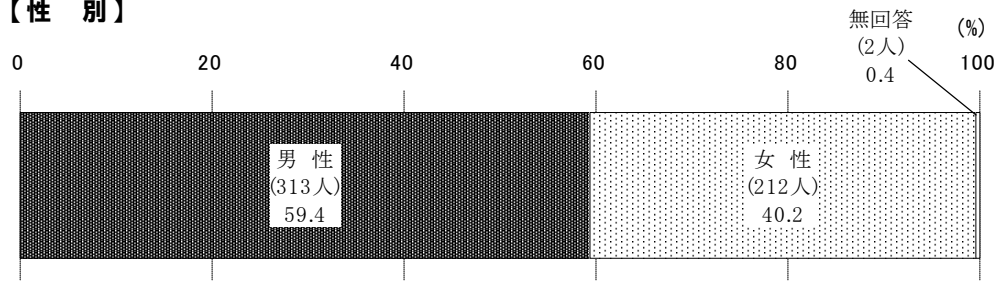


【職業】

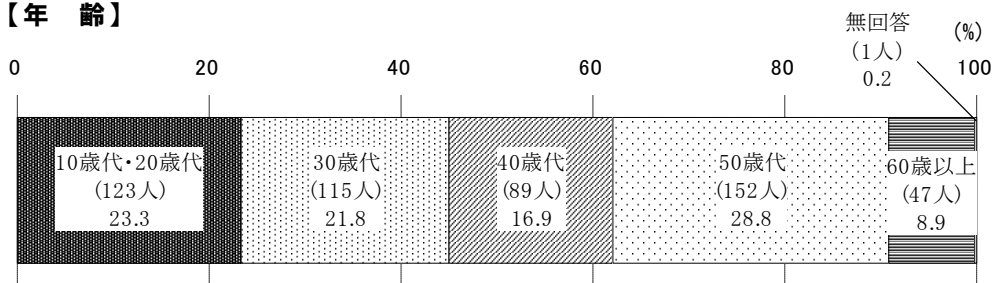


[市職員]

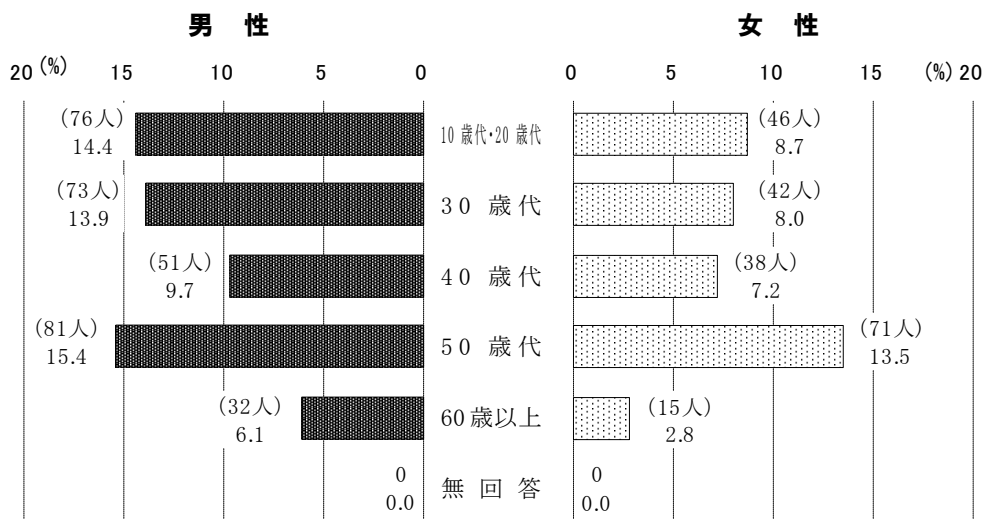
【性別】



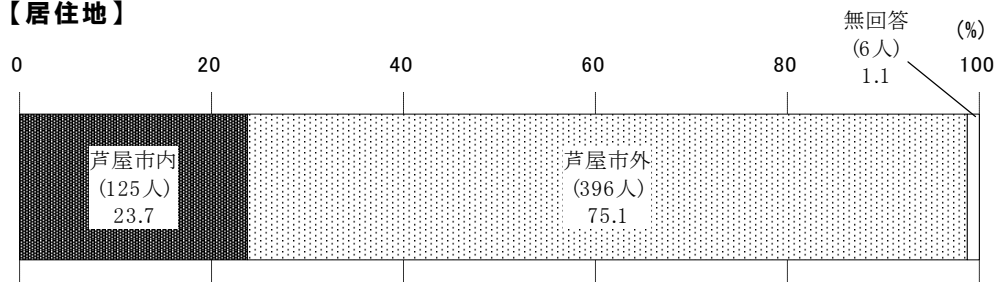
【年齢】



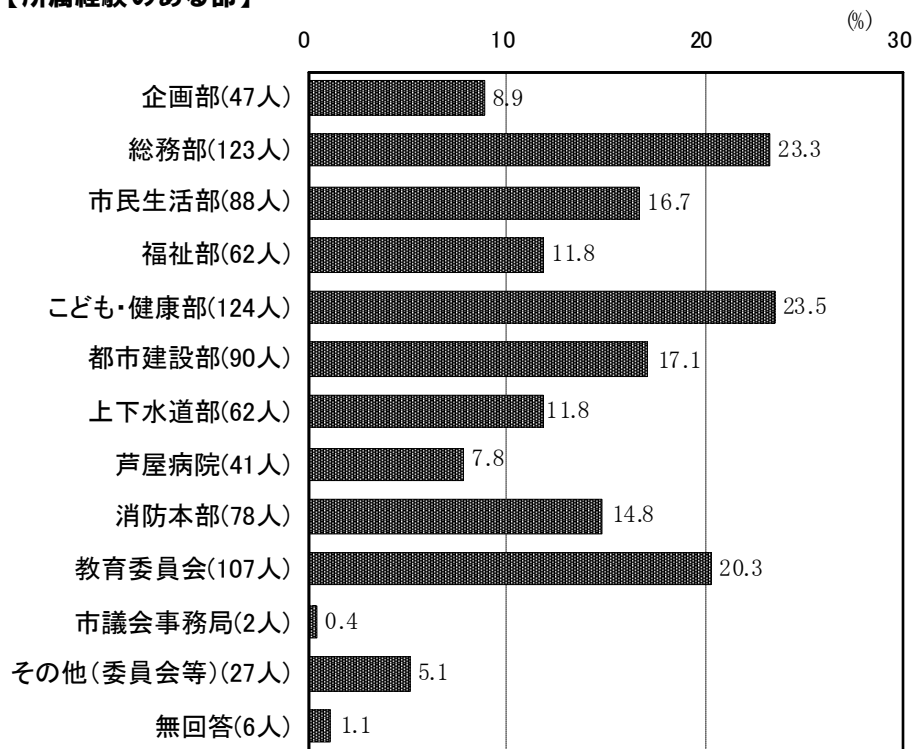
【性別×年齢】



【居住地】



【所属経験のある部】



芦屋市自治会連合会 ブロック会一覧表

(平成 26 年3月現在)

ブロック	町内自治組織
1	西山町自治会
	山芦屋町自治会
	三条町自治会
	三条町いぬい会
	月若町内会
	西芦屋町町内会
	三条南町自治会
2A	奥池町自治会
	芦屋ハイランド自治会
2B	朝日プラザ芦屋山手1番館自治会
	東山町自治会
	山手町町内会
2C	東芦屋町自治会
	松ノ内町会
	船戸町自治会
	大原町自治会
4	ラポルテ東館住宅自治会
	六麓荘町町内会
	朝日ヶ丘町自治会
	公社朝日ヶ丘住宅自治会
	朝日ヶ丘市営住宅自治会
	岩園町自治会
	翠ヶ丘町自治会
	親王塚町会
楠町自治会	
5	春日町自治会
	打出小槌町自治会
	若宮町自治会
	打出町自治会
6A	業平町自治会
	公光町自治会
	茶屋之町自治会
	大榭町自治会
	宮塚町自治会
	精道町自治会
	宮川町自治会
6B	清水町自治会
	前田町自治会
	津知町自治会
	川西町自治会
	平田北町自治会

ブロック	町内自治組織
7	平田町自治会
	浜芦屋町自治会
	松浜町自治会
	松浜ハイツ管理組合
	竹園町自治会
	呉川町町内会
	伊勢町自治会
8	西蔵町自治会
	浜町自治会
	南宮町自治会
9A	東南会
	浜風(3)住宅団地管理組合
	浜風四住宅管理組合
	浜風第五住宅管理組合
	浜風町1街区自治会
	浜風南自治会
	アステム芦屋C棟管理組合
	アステム芦屋D棟自治会
	高浜2番自治会
	芦屋高浜松韻の街自治会
	高浜公社住民自治会
高浜町八街区自治会	
芦屋浜第一住宅自治会	
新浜住宅管理組合	
9B	アステム芦屋A B棟管理組合
	若葉町公社住宅自治会
	芦屋浜第二住宅管理組合
	若葉町七番自治会
	緑(1)住宅管理組合
	芦屋緑(2)住宅管理組合
	緑(4)住宅管理組合
緑町西地区自治会	
潮見町南地区自治会	
10	市営南芦屋浜団地自治会
	県営南芦屋浜高層住宅自治会
	エスリード芦屋陽光町管理組合
	海洋町1街区自治会
	南浜町1街区自治会
	南浜町2街区自治会
芦屋海岸通自治会	
マリナーージュ芦屋管理組合	

芦屋市
参画と協働についての意識・行動調査
調査票

ご協力をお願い

市民の皆様におかれましては、日ごろから市政の推進にご理解とご協力をいただき、厚くお礼を申し上げます。

さて、芦屋市では市民参画と協働による住みよいまちづくりを進めるため、平成20年2月に「芦屋市市民参画協働推進計画」を作成してこれまで取り組みを進めてきましたが、7年目を迎え、計画の見直しを行うことにいたしました。

この調査は、この計画の見直しの基礎資料として、市民の皆様の意識や状況について把握するために実施するもので、市内にお住いの20歳以上の方の中から無作為に選ばせていただいた2,000人を対象に調査票を送付させていただいております。

つきましては、お忙しいところ誠に恐縮ではございますが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようよろしくお願い申し上げます。

平成26年1月

芦屋市

◆ご記入にあたって◆

- ◇封筒の宛名のご本人がお答えください。
- ◇回答は、選択肢の番号に○をつけてください。○をつける個数が指定されている設問もありますので、案内に従ってください。
- ◇調査票に住所や名前を記入しないでください。またいただいた回答は厳重に管理し、統計的に処理しますので個人が特定されることはありません。また、調査の目的以外には一切利用しませんので、ありのままをお答えください。

◆ご返送について◆

- ◇ご記入後、同封の返信用封筒に入れて、**2月6日(木)**までにポストにご投函ください。切手は不要です。

◆お問い合わせ先◆

芦屋市企画部市民参画課 〒659-8501 兵庫県芦屋市精道町7-6

電話：0797-38-2007 FAX：0797-38-2004 Eメール：info@city.ashiya.lg.jp

あなた自身 についてお聞かせください

問1 あなたの性別は。

- | | |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

問2 あなたの年齢は。

- | | |
|---------|----------|
| 1. 20歳代 | 2. 30歳代 |
| 3. 40歳代 | 4. 50歳代 |
| 5. 60歳代 | 6. 70歳以上 |

問3 あなたのお住まいの町は。

- | | | | | | |
|----------|----------|-----------|----------|----------|---------|
| 1. 奥山 | 2. 奥池町 | 3. 奥池南町 | 4. 六麓荘町 | 5. 朝日ヶ丘町 | 6. 山手町 |
| 7. 山芦屋町 | 8. 岩園町 | 9. 東山町 | 10. 東芦屋町 | 11. 西山町 | 12. 三条町 |
| 13. 翠ヶ丘町 | 14. 親王塚町 | 15. 大原町 | 16. 船戸町 | 17. 松ノ内町 | 18. 月若町 |
| 19. 西芦屋町 | 20. 三条南町 | 21. 楠町 | 22. 上宮川町 | 23. 業平町 | 24. 前田町 |
| 25. 清水町 | 26. 春日町 | 27. 打出小槌町 | 28. 宮塚町 | 29. 茶屋之町 | 30. 大柗町 |
| 31. 公光町 | 32. 川西町 | 33. 津知町 | 34. 打出町 | 35. 南宮町 | 36. 若宮町 |
| 37. 宮川町 | 38. 竹園町 | 39. 精道町 | 40. 浜芦屋町 | 41. 平田北町 | 42. 大東町 |
| 43. 浜町 | 44. 西蔵町 | 45. 呉川町 | 46. 伊勢町 | 47. 松浜町 | 48. 平田町 |
| 49. 新浜町 | 50. 浜風町 | 51. 高浜町 | 52. 若葉町 | 53. 緑町 | 54. 潮見町 |
| 55. 陽光町 | 56. 海洋町 | 57. 南浜町 | 58. 涼風町 | | |

問4 あなたは芦屋市内に通算で何年住んでいますか。

- | | | |
|---------------|---------------|--------------|
| 1. 3年未満 | 2. 3年以上5年未満 | 3. 5年以上10年未満 |
| 4. 10年以上15年未満 | 5. 15年以上20年未満 | 6. 20年以上 |

問5 あなたの職業をおたずねします。複数の職業についている場合は、主なもの1つを選んでください。

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| 1. 営業主・会社経営 | 2. 家業手伝い（農林漁業を含む） |
| 3. 自営業（弁護士・開業医・個人教師等） | 4. 正社員・正職員などの常勤 |
| 5. 公務員 | 6. 派遣職員・アルバイト・パートなど |
| 7. 専業主婦・主夫 | 8. 学生 |
| 9. 無職（年金生活者） | 10. 無職（年金生活者を除く） |
| 11. その他（具体的に） | |

住んでいる地域のこと についてお聞かせください

問6 あなたは地域内のできごとや動きにどの程度関心をもっていますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------|--------------|
| 1. かなり関心がある | 2. ある程度関心がある |
| 3. あまり関心がない | 4. まったく関心がない |
| 5. わからない | |

問7 あなたは普段、隣近所とどの程度のおつきあいをしていますか。(○は1つ)

- | | |
|-----------------|----------------|
| 1. 日ごろから親しくしている | 2. 立ち話をする程度 |
| 3. あいさつをする程度 | 4. ほとんどつきあいがいい |

問8 あなたが住んでいる地域で気になっていることがありますか。(○は3つまで)

- | |
|---------------------------|
| 1. 歩道や通学路など交通安全に関すること |
| 2. めいわく駐車や駐輪に関すること |
| 3. ごみ出しやポイ捨てなど衛生環境に関すること |
| 4. 看板や空き地の放置など景観に関すること |
| 5. 避難場所やルートなど災害への備えに関すること |
| 6. 夜道の暗さや治安など防犯に関すること |
| 7. 高齢者の孤立やその見守りに関すること |
| 8. 近所同士のつながりや助け合いに関すること |
| 9. その他 (具体的に) |

問9 住んでいる地域の活力が向上し、みんなが安心して暮らせるためには、あなたはどのようなことが必要だとお考えですか。(○は3つまで)

- | |
|-------------------------------------|
| 1. 住民同士の付き合いを盛んにすること |
| 2. 地域の細やかな情報がもっと提供されること |
| 3. 地域の課題を話し合えるような場があること |
| 4. 住民一人ひとりが地域に対する関心を高めること |
| 5. 住民の多くが参加できるイベントが盛んになること |
| 6. 自治会など地域活動団体が活発であること |
| 7. 地域活動団体と NPO などの市民活動団体が連携・協力し合うこと |
| 8. その他 (具体的に) |

市民参画協働にかかわる行動や意向 についてお聞かせください

ここでいう「市民参画」とは、市民が市政に参画する意思を反映させることを目的として、市の施策の企画立案、実施及び評価の過程に参加することをいいます。
また「協働」とは、市民及び市がまちづくりについて、それぞれの役割と責務を自覚し、互いに尊重し、補完し、協力することをいいます。

問 10 市民活動や地域活動についての経験や今後の意向についておたずねします。(○は1つ)

1. 現在、参加しており、今後も参加したい
2. 現在、参加しているが、今後は参加したくない
3. 以前に参加したことがあり、また参加したい
4. 以前に参加したことがあるが、今後は参加したくない
5. これまで参加したことはないが、今後は参加したい
6. これまで参加したことがなく、今後も参加したくない

問 11 にお進みください

問 12 にお進みください

問 13 にお進みください

問 10 で、1～4のいずれかに○をした方におたずねします。

問 11 それはどのような活動への参加ですか。(該当するものすべてに○)

- | | |
|-----------------|--------------------|
| 1. 防災活動 | 2. 防犯活動 |
| 3. 公園や道路の清掃活動 | 4. 緑化や園芸活動 |
| 5. 子育て支援活動 | 6. 障がい者や高齢者の支援活動 |
| 7. 交通安全活動 | 8. スポーツ・レクリエーション活動 |
| 9. リサイクルなどの環境活動 | 10. まつりなどの交流行事 |
| 11. その他 (具体的に) |) |

問 13 にお進みください

問 10 で、5に○をした方におたずねします。

問 12 どのようなテーマであれば参加したいと思いますか。(○は3つまで)

- | | |
|-----------------|--------------------|
| 1. 防災活動 | 2. 防犯活動 |
| 3. 公園や道路の清掃活動 | 4. 緑化や園芸活動 |
| 5. 子育て支援活動 | 6. 障がい者や高齢者の支援活動 |
| 7. 交通安全活動 | 8. スポーツ・レクリエーション活動 |
| 9. リサイクルなどの環境活動 | 10. まつりなどの交流行事 |
| 11. その他 (具体的に) |) |

問 13 市民活動や地域活動をおこなう上で負担になりそうなこと、または実際に負担に感じたことはどのようなことですか。(○は3つまで)

- | | |
|---------------------|------------------------|
| 1. 時間をかなりとられること | 2. 身体的な負担があること |
| 3. 個人の出費があること | 4. 家族などまわりの理解を得られないこと |
| 5. 気の合う仲間が得られないこと | 6. 活動するための場所を確保しにくいこと |
| 7. 活動するための情報がとぼしいこと | 8. 活動するための技術や経験がとぼしいこと |
| 9. その他 (具体的に) |) |

市民参画協働の進めかた についてお聞かせください

問 14 市民が市政に参画し、また市民と行政が互いに協力し合ってまちづくりに取り組む「市民参画協働」の必要性についておたずねします。(○は1つ)

1. 市民参画協働は必要だと思う **問 16 にお進みください**
2. 市民参画協働は不必要だと思う **問 15 にお進みください**
3. わからない **問 17 にお進みください**

問 14 で「2. 市民参画協働は不必要だと思う」と答えた方におたずねします。

問 15 市民参画協働が不必要だと思う理由をおたずねします。(○は2つまで)

1. 時間や手間がかかり、不効率だから
2. 市民や団体の力がまだ育っていないため
3. 市の行財政の負担軽減につながらないため
4. 市民の側の負担が増大するため
5. 公的な事業は市が行うべきだから
6. 事業に対する責任の所在がはっきりしないから
7. その他 (具体的に)

問 17 にお進みください

問 14 で「1. 市民参画協働は必要だと思う」と答えた方におたずねします。

問 16 市民参画協働が必要だと思う理由をおたずねします。(○は2つまで)

1. 市民、行政それぞれでは解決がむずかしい課題に対応するため
2. 個別地域の課題解決や多様な市民ニーズに対応するため
3. 互いに協働するほうが施策が円滑に実施されるため
4. 市の行財政の負担が軽減されるため
5. 市民自治に対する市民の意識の高まりに対応するため
6. 市民自治に対する市民の意識の高まりを促進するため
7. その他 (具体的に)

問 17 市民参画協働のまちづくりを推進するために、どのような取組みが必要だと思いますか。
(○は3つまで)

1. 行政が市政にかかわる情報をもっと発信すること
2. 行政の中での連絡調整や連携を深めること
3. 市民の間で積極的に情報の交換や共有をすること
4. 市民と行政が積極的に情報の交換や共有をすること
5. 市民が地域や社会への関心を高めること
6. 市民参画協働にかかわる仕組みを充実すること
7. 市民や市職員の間で、市民参画協働に向けた人材が育つこと
8. 市民活動や地域活動に対する支援を充実すること
9. その他 (具体的に)

問 18 市民や市職員が、市民参画協働に対する理解を深め、人材が育つようにするためには、どのような施策を充実することが必要だと思いますか。(○は2つまで)

1. 市民参画協働に関する情報が手軽に手に入るようにすること
2. 市民参画協働に関する学習や研修の機会を充実すること
3. さまざまな情報や人を結びつけ、とりまとめることのできるコーディネート力を身につけること
4. 具体的に市民参画協働に関われる事業の機会を充実すること
5. 市民参画協働を実践する際のルールや仕組みを充実すること
6. その他 (具体的に)

問 19 市民活動や地域活動が活発になるためには、どのような支援策を充実することが必要だと思いますか。(○は3つまで)

1. 市内の団体や行事などについての情報提供を充実する
2. 団体の立ち上げや運営などについての情報提供・相談機能を充実する
3. 専門家の派遣など助言や指導する機能を充実する
4. 集会所などの施設をより使いやすくする
5. 団体の顕彰制度など社会的な認知と評価を高める
6. 団体間の連携や協力関係を緊密にする
7. 団体に対する資金的支援を充実する
8. その他 (具体的に)

市民参画協働の達成状況 についてお聞かせください

問 20 市民参画協働にかかわる下の(1)～(8)について、芦屋市ではどの程度だと思えますか。
(各問 1～4 のうち、○は1つ)

	1 とても いい	2 いいが、 不十分	3 いいが ない	4 わるい
(1) 市政に関するさまざまな情報が、市民に対してわかりやすくまた十分に提供されている	1	2	3	4
(2) 市民参画協働に関する市の情報が、市民に対してわかりやすくまた十分に提供されている	1	2	3	4
(3) 市民参画協働にかかわる団体や催しなどの情報が、市民に対してわかりやすくまた十分に提供されている	1	2	3	4
(4) 市民参画協働にかかわる講座などの学習機会が、市民に対して十分に提供されている	1	2	3	4
(5) 市民活動や地域活動に取り組む人材が市民の間に育っている	1	2	3	4
(6) 市の施策や施策案に対して、市民が意見を伝える機会が十分に開かれている	1	2	3	4
(7) 市民活動や地域活動に取り組むための場が充分にある	1	2	3	4
(8) 市民と市が協力し合って市内や地域の課題解決に取り組む機会が充分にある	1	2	3	4

芦屋市職員向け

参画と協働についての意識・行動調査
調査票

ご協力をお願い

本市では、市民参画と協働による住みよいまちづくりを進めるため、平成20年2月に「芦屋市市民参画協働推進計画」を作成してこれまで取り組みを進めてきましたが、7年目を迎え、計画の見直しを行うことにいたしました。

本調査は、この計画の見直しにあたり、市職員（特別職・病院の医師や看護師等・嘱託職員・臨時的任用職員を除く）の意識と実態を把握し、計画策定の基礎資料とすることを目的に実施するものです。

つきましては、お忙しいところ誠に恐縮ではございますが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をお願い申し上げます。

平成26年1月

芦屋市

◆ご記入にあたって◆

◇回答は、選択肢の番号に○をつけてください。○をつける個数が指定されている設問もありますので、案内に従ってください。

◇いただいた回答は厳重に管理し、統計的に処理しますので個人が特定されることはありません。また、調査の目的以外には一切利用しませんので、ありのままをお答えください。

◆調査票の回収について◆

◇ご記入後、同封の封筒に入れ、文書統計課にある市民参画課の連絡箱に、**2月6日(木)**までに入れてください。

◆問い合わせ◆

芦屋市企画部市民参画課 〒659-8501 兵庫県芦屋市精道町7-6

電話：0797-38-2007 FAX：0797-38-2004

あなた自身 についてお聞かせください

問1 あなたの性別は。

- | | |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

問2 あなたの年齢は。

- | | |
|--------------|---------|
| 1. 10歳代・20歳代 | 2. 30歳代 |
| 3. 40歳代 | 4. 50歳代 |
| 5. 60歳以上 | |

問3 あなたのお住まいの地域は。

- | | |
|---------|---------|
| 1. 芦屋市内 | 2. 芦屋市外 |
|---------|---------|

問4 これまでに所属したことのある部は。(該当するものすべてに○)

[現在の機構でお答えください]

- | | | |
|-----------|------------|---------------|
| 1. 企画部 | 2. 総務部 | 3. 市民生活部 |
| 4. 福祉部 | 5. こども・健康部 | 6. 都市建設部 |
| 7. 上下水道部 | 8. 芦屋病院 | 9. 消防本部 |
| 10. 教育委員会 | 11. 市議会事務局 | 12. その他(委員会等) |

協働にかかわる業務経験など についてお聞かせください

ここでいう「市民参画」とは、市民が市政に参画する意思を反映させることを目的として、市の施策の企画立案、実施及び評価の過程に参加することをいいます。

また「協働」とは、市民及び市がまちづくりについて、それぞれの役割と責務を自覚し、互いに尊重し、補完し、協力することをいいます。

問5 あなたがこれまで担当してきた業務のなかで、市民活動団体(NPO、ボランティア団体など)、地域活動団体(自治会、管理組合など)と協働した経験がありますか。(○は1つ)

1. 協働した経験がある、現在協働している **問 6 にお進みください**

2. 協働した経験はない **問 10 にお進みください**

問5で「1. 協働した経験がある、現在協働している」と答えた方におたずねします。

問6 協働したのはどのような内容のものでしたか。(該当するものすべてに○)

1. 補助金交付などの資金面での援助
2. 会議室など活動場所の提供
3. 機材・備品の貸し出しや提供
4. 情報の提供
5. 人材の提供(派遣)
6. 事業の企画や立案
7. 事業の業務委託
8. 事業の共同実施(共催)
9. 事業における市の名前貸し(後援)
10. その他(具体的に)

問7 協働したことの成果はありましたか。(○は1つ)

1. 成果があった **問 8 にお進みください**

2. 成果はなかった **問 9 にお進みください**

3. わからない **問 10 にお進みください**

問7で「1. 成果があった」と答えた方におたずねします。

問8 どのような成果がありましたか。(該当するもの全てに○)

1. 行政だけで実施するよりも、事業が効率的に進んだ
2. 行政だけで実施するよりも、市民ニーズに細やかに対応できた
3. 市民の考え方や手法を学ぶことができた
4. 自治意識の向上など、市民の意識啓発に貢献した
5. 業務にかかる事務負担が軽減した
6. 業務にかかる財政負担が軽減した
7. その他 (具体的に)

問10にお進みください




問7で「2. 成果はなかった」と答えた方におたずねします。

問9 成果がなかったのは、どのようなことが原因だったと思いますか。(該当するもの全てに○)

1. 市民と市が互いに、業務の目的や趣旨を共有できていなかった
2. 市の側で、協働に対する理解・認識が不足していた
3. 市における関係課の連携が不足していた
4. 市における市民活動団体や地域活動団体に関する情報や理解が不足していた
5. 市民の側で、協働に対する理解・認識が不足していた
6. 市民の側で、事業や行政に関する情報や理解が不足していた
7. 市民活動団体や地域活動団体に、協働するための人材や技能が不足していた
8. 協働を進めるうえでのルールや仕組みが不十分だった
9. 協働すると、かえって事業の効率や効果が低くなった
10. その他 (具体的に)

市民参画協働の進めかた についてお聞かせください

問 10 市民が市政に参画し、また市民と行政が互いに協力し合ってまちづくりに取り組む「市民参画協働」の必要性についておたずねします。(○は1つ)

1. 市民参画協働は必要だと思う  問 12 にお進みください
2. 市民参画協働は不必要だと思う  問 11 にお進みください
3. わからない  問 13 にお進みください

問 10 で「2. 市民参画協働は不必要だと思う」と答えた方におたずねします。

問 11 市民参画協働が不必要だと思う理由をおたずねします。(○は2つまで)

1. 時間や手間がかかり、不効率だから
2. 市民や団体の力がまだ育っていないため
3. 市の行財政の負担軽減につながらないため
4. 市民の側の負担が増大するため
5. 公的な事業は市が行うべきだから
6. 事業に対する責任の所在がはっきりしないから
7. その他 (具体的に)

 問 13 にお進みください

問 10 で「1. 市民参画協働は必要だと思う」と答えた方におたずねします。

問 12 市民参画協働が必要だと思う理由をおたずねします。(○は2つまで)

1. 市民、行政それぞれでは解決がむずかしい課題に対応するため
2. 個別地域の課題解決や多様な市民ニーズに対応するため
3. 互いに協働するほうが施策が円滑に実施されるため
4. 市の行財政の負担が軽減されるため
5. 市民自治に対する市民の意識の高まりに対応するため
6. 市民自治に対する市民の意識の高まりを促進するため
7. その他 (具体的に)

問 13 市民参画協働のまちづくりを推進するために、どのような取組みが必要だと思いますか。
(○は3つまで)

1. 行政が市政にかかわる情報をもっと発信すること
2. 行政の中での連絡調整や連携を深めること
3. 市民の間で積極的に情報の交換や共有をすること
4. 市民と行政が積極的に情報の交換や共有をすること
5. 市民が地域や社会への関心を高めること
6. 市民参画協働にかかわる仕組みを充実すること
7. 市民や市職員の間で、市民参画協働に向けた人材が育つこと
8. 市民活動や地域活動に対する支援を充実すること
9. その他 (具体的に))

問 14 市民や市職員が、市民参画協働に対する理解を深め、人材が育つようにするためには、どのような施策を充実することが必要だと思いますか。(○は2つまで)

1. 市民参画協働に関する情報が手軽に手に入るようにすること
2. 市民参画協働に関する学習や研修の機会を充実すること
3. さまざまな情報や人を結びつけ、とりまとめることのできるコーディネート力を身につけること
4. 具体的に市民参画協働に関われる事業の機会を充実すること
5. 市民参画協働を実践する際のルールや仕組みを充実すること
6. その他 (具体的に))

問 15 市民活動や地域活動が活発になるためには、どのような支援策を充実することが必要だと思いますか。(○は3つまで)

1. 市内の団体や行事などについての情報提供を充実する
2. 団体の立ち上げや運営などについての情報提供・相談機能を充実する
3. 専門家の派遣など助言や指導する機能を充実する
4. 集会所などの施設をより使いやすくする
5. 団体の顕彰制度など社会的な認知と評価を高める
6. 団体間の連携や協力関係を緊密にする
7. 団体に対する資金的支援を充実する
8. その他 (具体的に))

市民参画協働の達成状況 についてお聞かせください

問 16 市民参画協働にかかわる下の(1)～(8)について、芦屋市ではどの程度できていると思
いますか。(○は1つ)

	1 とても よくでき ている	2 できているが、 不十分	3 よくでき ていない	4 わからない
(1) 市政に関するさまざまな情報が、市民に対して わかりやすくまた十分に提供されている	1	2	3	4
(2) 市民参画協働に関する市の情報が、市民に対し てわかりやすくまた十分に提供されている	1	2	3	4
(3) 市民参画協働にかかわる団体や催しなどの情報が、市 民に対してわかりやすくまた十分に提供されている	1	2	3	4
(4) 市民参画協働にかかわる講座などの学習機会 が、市民に対して十分に提供されている	1	2	3	4
(5) 市民活動や地域活動に取り組む人材が市民の間 に育っている	1	2	3	4
(6) 市の施策や施策案に対して、市民が意見を伝え る機会が十分に開かれている	1	2	3	4
(7) 市民活動や地域活動に取り組むための場が充分 にある	1	2	3	4
(8) 市民と市が協力し合って市内や地域の課題解決 に取り組む機会が充分にある	1	2	3	4

問 17 市民参画協働についてお考えのことをなんなりとご記入ください。

最後までアンケートにご回答いただきまして、誠にありがとうございました。
お手数ですが、同封の封筒に入れ、文書統計課にある市民参画課の連絡箱に、
2月6日(木)までに入れてください。